

ウクライナ国
ウクライナ日本センタープロジェクト
中間評価調査報告書

平成 21 年 3 月
(2009 年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

公 共
J R
09-033

ウクライナ国
ウクライナ日本センタープロジェクト
中間評価調査報告書

平成 21 年 3 月
(2009 年)

独立行政法人国際協力機構
公共政策部

序 文

2004年6月に日本政府とウクライナ政府との間で技術協力協定が結ばれたことを受け、ウクライナの経済発展及び同国と日本との友好関係の促進を目的としたプロジェクトの要請がウクライナ政府よりなされ、ウクライナ日本センタープロジェクトの実施が決定されました。これを受けて独立行政法人国際協力機構は、2006年5月に実施協議調査団を派遣し、同年5月から5年間の計画でウクライナ日本センター（UAJC）において活動の三本柱（ビジネスプログラム、日本語コース、相互理解促進事業）の実施体制確立を目標とした技術協力プロジェクトを開始しました。

今般、プロジェクト開始から2年半が経過したため、2008年11月18日から12月2日の日程で、中間評価調査団を現地に派遣し、ウクライナ側と合同で、プロジェクトの中間評価を行いました。本報告書は、同調査団の調査・協議結果を取りまとめたものであり、プロジェクトの成果達成のために、広く活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力を頂いた内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、一層のご支援をお願いする次第です。

平成21年3月

独立行政法人国際協力機構
公共政策部長 中川 寛章

目 次

序 文

地 図

写 真

略語表

評価調査結果要約表

第 1 章 中間評価調査の概要	1
1 - 1 調査の経緯と目的	1
1 - 2 調査団の構成	2
1 - 3 調査日程	2
1 - 4 主要面談者	3
第 2 章 評価の方法	4
2 - 1 評価手法	4
2 - 2 プロジェクト概要	5
2 - 3 評価調査に用いた方法	6
2 - 4 評価調査の制約・限界	8
第 3 章 プロジェクトの実績	9
3 - 1 投入実績	9
3 - 2 投入の成果・事業実績	9
第 4 章 中間評価結果（評価5項目による評価）	16
4 - 1 妥当性	16
4 - 2 有効性	18
4 - 3 効率性	20
4 - 4 インパクト	22
4 - 5 自立発展性	23
第 5 章 提言と教訓	27
5 - 1 プロジェクトに対する提言	27
5 - 2 各活動に対する提言	27
5 - 3 教 訓	29
第 6 章 プロジェクト終了後のウクライナ日本センター（UAJC）の方向性に関する議論	31
6 - 1 キエフ工科大学（KPI）側の意向	31
6 - 2 現地の日本側（在ウクライナ日本大使館）の意向	31
6 - 3 今後に向けて	31

第7章 総括/団長所感	33
7 - 1 評価結果	33
7 - 2 UAJCの組織上の課題	33
7 - 3 自立発展に向けた展望	33
7 - 4 将来像	33
付属資料	
ミニッツ	37



★ ...センター設置都市

出所：<http://www.eastedge.com/ukraine/map.htm>



ミニッツ署名 伏見団長（正面右）
Dr. Yuriy I. Yakimenko（正面左）



キエフ工科大学(KPI)との協議



日本語コース（子どものための日本語）事業風景



相互理解促進事業（運動会）風景



スタッフ定例会



新ウクライナ日本センター（UAJC）ビル建設状況

略 語 表

略 語	正式名称	和 訳
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JETRO	Japan External Trade Organization	独立行政法人日本貿易振興機構
KPI	Kiev Polytechnic Institute	キエフ工科大学
NTUU<KPI>	National Technical University of Ukraine Kiev Polytechnic Institute	ウクライナ国立キエフ工科大学
ODA	Official Development Assistance	
OJT	On-the-Job Training	職場訓練
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operation	活動計画
UAJC	Ukraine Japan Center	ウクライナ日本センター

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国 名：ウクライナ	案件名：ウクライナ日本センタープロジェクト
分 野：人的資源開発一般	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：公共政策部ガバナンスグループ日本センター課	協力金額（評価時点）：4億円
協力期間	2006年5月22日～ 2011年5月21日
	先方関係機関：1) 監督機関：教育科学省 ：2) 実施機関：キエフ工科大学 (Kiev Polytechnic Institute : KPI)
	日本側協力機関： 独立行政法人国際交流基金（日本語教育分野） 独立行政法人日本貿易振興機構（Japan External Trade Organization : JETRO、貿易・投資促進分野）
	他の関連協力：
<p>1 - 1 協力の背景と概要</p> <p>ウクライナにおける日本センターは、同国における市場経済への移行をめざす改革の促進及び経済分野における人材育成を目的に、国際機関である「支援委員会」とウクライナ政府との間で交わされたメモランダムによって、1999年1月22日に開所された。同センターはキエフのモヒラ大学に設置され、経済講座の開催、本邦招聘研修、日本語講座、図書室の一般向け開放、その他各種企画などの活動を展開してきたが、2003年3月をもって支援委員会が廃止されることとなり、外務省とJICAとの間で、JICAの技術協力プロジェクトとしての同センター事業実施の検討が開始された。</p> <p>同センター事業をJICAの技術協力プロジェクトとして実施するに際し、実施機関としてキエフ工科大学（KPI）が候補にあがり、2003年6月には、KPIの付属機関として、「ウクライナ国立キエフ大学（National Technical University of Ukraine Kiev Polytechnic Institute : NTUU < KPI >）ウクライナ日本センター（Ukraine Japan Center : UAJC）」（KPI < UAJC >）が設置された。JICAによる協力が開始されるまでの間、KPIは在ウクライナ日本大使館の支援を得ながら、日本語事業を中心とした極めて小規模な事業を実施していたが、2004年6月に日本政府とウクライナ政府との間で技術協力協定が結ばれたことを受け、ウクライナの経済発展及び同国と日本との友好関係の促進を目的としたプロジェクトの要請がウクライナ政府よりなされ、ウクライナ側及び日本側との協議の結果、2006年6月より5年間の計画でプロジェクトを実施することが合意され、現在、実施中である。</p>	
<p>1 - 2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>ウクライナ日本センター（UAJC）が、ウクライナの経済成長やさまざまな分野における日本・ウクライナ間の協力をより一層促進するための拠点となる。</p> <p>(2) プロジェクト目標</p> <p>UAJCが、「ウクライナの経済成長に資する人材の育成」と「日本・ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進」という統合的機能を果たすための体制が整備され、かつ、UAJCがその役割を果たすようになる。</p>	

(3) 成 果

- 1) ウクライナの大学及び産業界のニーズに合致したビジネスプログラムを提供する体制及びノウハウが整うとともに、ウクライナの経済成長に資する人材を育成するための一定のプログラムが実施される。
- 2) 日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化などの相互交流を促進させるためのウクライナにおける日本語教育の拠点としての体制が構築される。
- 3) 日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化面についての情報及び知識の収集と相互発信のための体制が構築されるとともに、上述した分野での情報と知識の双方向での発信が行われる。
- 4) 日本・ウクライナ側関係機関の協力・支援の下、UAJCが自立的に運営されることが可能な体制基盤が整備される。

(4) 投入 (2008年10月末)

- 1) 日本側：長期専門家派遣 (4名)、短期専門家及び調査団派遣 (17名) 延べ計21名、機材供与 (承認額) 累計17万6,000ドル (内訳はコンピューターや日本語関連教材、相互理解事業に係る資機材ほか)、在外事業強化費 (2008年9月までの累計) 累計4,800万円、カウンターパート (C/P) 研修員受入 (日本) 3名
- 2) 相手国側：施設と建物の提供、電気代及び水道代、C/Pの配置 (KPI側のUAJC所長、会計士、コーディネータースタッフ、警備員、その他センター事業実施に係る人員)

2 . 評価調査団の概要

調査者	団長・総括 : 伏見 勝利 JICA公共政策部ガバナンスグループ日本センター 課 課長 評価分析 : 松本 彰 A&Mコンサルタント有限会社 代表取締役 日本語コース評価分析 : 福島 青史 国際交流基金ブダペスト日本文化センター 日本語教育アドバイザー 協力企画 : 大橋 勇一 JICA公共政策部ガバナンスグループ日本センター 課	
調査期間	20058年 6111月 16831日 ~ 7122月	評価種類：終了時中間評価
	1	
	4	
	2	
	3	
	2	
	4	
	日	

3 . 評価結果の概要

3 - 1 評価結果の要約

(1) 妥当性

本プロジェクトはウクライナの社会・経済状況を踏まえた人材育成ニーズと整合し、また日ウ両国間の絆を深める効果をもつとみられることによって、高い妥当性を有すると評価できる。さらにウクライナで「日本の顔」の見える拠点として同センターが位置づけら

れること、同センターを拠点に二国間の人的・文化的交流を促進することで、お互いの関係を緊密化できることから、本プロジェクトは妥当性があると判断される。詳細は、以下のとおり。

1) ターゲットの選定とニーズへの対応

ビジネス、日本語さらに相互理解促進事業において、さまざまな研修、イベント、フォーラムがニーズに基づいて実施され、その事業の選定や協力アプローチは妥当性が高い。

ビジネスプログラム

民間セクター開発に向けて、ウクライナで徐々に整備が進められてきているものの、地方の産業基盤や人材基盤は脆弱であり、民間セクター開発のコアとなる企業並びに起業家の育成が重要である。同国では既に欧米のビジネススクールが存在し、欧米式のマネジメント手法、理論を教えているが、UAJCは、より実践的で経営に直結し、実際の企業経営に役立っているとの高い評価を得ている。また地方でのビジネス研修実施には強いニーズがある。

日本語事業

コース開催後の問い合わせや受講生数の伸びをみても分かるように、日本語コースへの需要は高く、ニーズに応じて子ども達への日本語教育はじめ、初級から上級までさまざまなレベルのコースの設置を行う一方、日本語普及のための活動を順調に実施していることから妥当性が高いものであるといえる。

相互理解促進事業

ウクライナ人の中で日本文化に対する関心が高いことから、同事業には、幅広い層、しかも人数も過去2年半で2万8,000人を超える人が参加していることから、その妥当性は高いと判断される。

2) ウクライナ政府の政策との一致

市場経済化促進のための人材の育成というプロジェクトの目的は、同国の政策と一致している。

3) 我が国の優先政策・分野との整合性

市場経済化に向けた人的資源の開発支援は我が国の優先分野のひとつであり、その政策はプロジェクト開始当初から変わらず、プロジェクトの方向と合致している。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は高い。プロジェクトの活動はほぼ計画どおりに実施され、成果をあげていると判断される。特に日本語、相互理解は多くの応募及び参加を得て、人気を博しており、同事業がウクライナの人々の間に受け入れられ、評価及び信頼を得たといえる。こうした高いパフォーマンスを引き続き維持できれば、プロジェクト終了までに本プロジェクト目標である「『ウクライナの経済成長に資する人材の育成』と『日本ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進』という統合的機能を果たすための体制が整備される」見込みと判断できる。

(3) 効率性

一部、当初の計画どおりに専門家が派遣できなかったものの、達成された成果の量と質をみる限りにおいて、投入は成果を出すうえで、極めて効率的に活用されたと評価される。またプロジェクトは限られた予算及び期間のなかで効率的に実施されており、費用対効果が高い。

(4) インパクト

現時点で評価、判断するには時期尚早であるものの、UAJCは日本に関する多様なプログラムやイベント、また両国民の相互交流の場として、二国間の架け橋の役割を担っており、人的資源開発に貢献していることが確認された。

(5) 自立発展性

一定規模の収入があげられる限り、事業、組織、政策さらに財政面での自立発展性は確保される見通しといえる。

1) 事業の自立発展性

日本語及び相互理解事業は活発な活動が行われ参加者からの評判もよい。ビジネス事業は他の事業と比較するとまだ活発ではないものの状況は変わりつつあり、計画、運営、調整、コミュニケーション機能の強化が望まれる。

2) 組織面での自立発展性

同センターの組織体制は確立しつつあり、法的措置や各事業活動に係るノウハウもかなり蓄積されている。また事業実施を支える現地スタッフのキャパシティも職場訓練（On-the-Job Training：OJT）を通して高まりつつある。ただし組織の自立発展性に関していえば、KPIの一層の関与が望まれる。

3) 政策面での自立発展性

ウクライナは昨年（2007年）までは好調な経済成長に支えられてきたが、2008年10月の金融危機の影響を受け、現時点では先が読めない状況にある。ただし、ウクライナの経済成長、特に市場経済化に資する人材の育成や、両国間の社会・経済・文化面における交流関係促進、関係強化については、変化はないと思われる。

4) 財政面での自立発展性

プロジェクトの事業収入は、スポンサー寄付金、相互理解促進事業/図書館運営、日本語事業、ビジネス研修から成り立っている。日本語並びに相互理解事業に関しては、独立採算での実施の可能性があるが、財政的な自立発展性が見込まれる。しかし、事業運営スタッフはJICAから在外事業強化費で補っており、現行、センター運営経費におけるセンター収入額の割合は3割である。よって、中長期的な視点での財務的な自立発展性のため、収入の増加を図っていく必要がある。

3 - 2 目標達成の促進要因

プロジェクトの成功要因は次のとおり。

- ・ 法的措置の整備や特恵による自立運営に必要な各種基盤の整備
- ・ 運営・管理体制の早期構築

- ・ 日本文化・社会に対する関心の高さや日本製品に対するよいイメージや評判
- ・ その他

3 - 3 目標達成の阻害要因

プロジェクト目標達成を阻害する要因は次のとおり。

- ・ 経済情勢
- ・ カウンターパート（C/P）の配置不足
- ・ 新建物の建設の未完成（活動のための教室の確保、事業実施や拡大への障害）

3 - 4 結 論

プロジェクト開始から2年半の間で、ビジネス、日本語、相互理解事業への参加者は既に3万人を超え、かつ高い満足度を得ている。このことはUAJCがウクライナの人々のニーズに合致したことを表すものであり、日本の文化に触れることができる唯一の施設であると歓迎されている証拠である。短期間で、かつ少ない投入のなか、UAJCが日・ウクライナの友好の「象徴」となっている点を高く評価する。とはいえ、2011年のプロジェクトの終了を見据え、まだ自立発展性に関する見通しは不透明であることから、ウクライナと日本双方に現行の活動の継続と、更なる発展に向けた最善の努力が求められる。KPI側の更なる事業運営への関与と、さらにUAJCの新しい建物が2009年内に完成し、より広いスペースが確保され、プロジェクト活動が本格化されることが期待される。

3 - 5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

(1) UAJCの新しい管理体制の構築

プロジェクト終了までに、UAJCの収入による人員配置を含めて、UAJCの新しい管理体制をKPI側が構築する必要がある。

(2) ビジネスプログラムの運営機能体制の強化

今まで同プログラムはコースやイベントを十分に開催するに至っておらず、参加者及び収入も限られたものであった。この数ヶ月でプログラム実施の状況に変化がみられるものの、まだ計画策定はじめ、運営、調整、意思疎通など運営機能体制の強化が必要である。さらに同プログラムを継続して実施するため、KPI内の関連部局との連携が必要であるとともに、同プログラムの運営管理のために日本人専門家の派遣が望ましい。

(3) UAJCの新しい建物の建設と機材供与

2009年内にUAJCの新しい建物が完成し、必要な機材が供与されるよう、日・ウクライナ双方が最善を尽くす。

(4) 日・ウクライナ間の継続的な協議

二国間関係におけるUAJCの役割の重要性に鑑み、センターでの活動の担保とともに、科学技術分野をはじめとするさまざまな領域での協力の可能性などを、双方が引き続き協議していく。

第1章 中間評価調査の概要

1 - 1 調査の経緯と目的

ウクライナにおける日本センターは、同国における市場経済への移行をめざす改革の促進及び経済分野における人材育成を目的に、国際機関である「支援委員会」とウクライナ政府との間のメモランダムによって1999年1月22日に開所された。同センターはキエフのモヒラ大学に設置され、経済講座の開催、本邦招聘研修、日本語講座、図書室の一般向け開放、その他各種企画などの活動を展開してきたが、2003年3月をもって「支援委員会」が廃止されることとなり、外務省とJICAとの間でJICAの技術協力プロジェクトとして同センター事業実施の検討が開始された。

同センター事業をJICAの技術協力プロジェクトとして実施するに際し、実施機関としてキエフ工業大学（Kiev Polytechnic Institute：KPI）が候補にあがり、2003年6月には、KPIの付属機関として、「ウクライナ国立キエフ工科大学（National Technical University of Ukraine Kiev Polytechnic Institute：NTUU<KPI>）ウクライナ日本センター（Ukraine Japan Center：UAJC）」（KPI<UAJC>）が設置された。JICAによる協力が開始されるまでの間、KPIは在ウクライナ日本大使館の支援を得ながら、日本語事業を中心とした極めて小規模な事業を実施していた。

2004年6月に日本政府とウクライナ政府との間で技術協力協定が結ばれたことを受け、ウクライナの経済発展及び同国と日本との友好関係の促進を目的としたプロジェクトの要請がウクライナ政府よりなされ、本プロジェクトの実施が決定し、2006年5月に実施協議調査団を派遣、討議議事録（R/D）が署名された。

プロジェクト開始より2年半が経過した時点で、これまでのモニタリングの結果をもとに、総合的な評価の視点からプロジェクト計画全体を検証し、プロジェクト開始時に想定された状況と現状の相違点を把握するとともに、今後のプロジェクトの方向性等を検討するために本中間評価調査を実施した。

本中間評価の主な調査内容は次のとおり。

- （1）プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）及び活動計画（Plan of Operation：PO）に基づき、プロジェクトの投入実績、実施プロセス、因果関係を検証
- （2）評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の観点から分析し、プロジェクトチーム、ウクライナ側関係者と協議
- （3）検証・分析結果を踏まえ、プロジェクトチーム、ウクライナ側関係機関の双方に対し、必要な提言を行い、今後のPOを協議
- （4）関係者との協議結果を踏まえ、PDMを見直すとともに、プロジェクト終了時に成果の達成状況を判断するための定量的な指標を設定

1 - 2 調査団の構成

調査団

No	担当分野	氏名	所属/役職
1	団長・総括	伏見 勝利	JICA公共政策部ガバナンスグループ日本センター課 課長
2	評価分析（役務）	松本 彰	A&Mコンサルタント有限公司 代表取締役
3	日本語コース評価 分析	福島 青史	国際交流基金ブダベスト日本文化センター日本語教育アドバイザー
4	協力企画	大橋 勇一	JICA公共政策部ガバナンスグループ日本センター課

調査団以外

No	氏名	所属/役職
1	Dr. Mikhail Z. ZGUROSKY	キエフ工科大学 学長
2	Dr. Yuriy I. YAKIMENKO	キエフ工科大学 第一副学長
3	Dr. Sergiy I. SYDORENKO	キエフ工科大学 国際関係担当副学長

1 - 3 調査日程

No	月日	調査内容
1	11/18～24	評価分析団員による事前調査
2	11/25	経済省（事前調査結果報告、調査方針説明） 教育・科学省（ " ） 在ウクライナ日本大使館（ " ）
3	11/26	ビジネスプログラム参加企業訪問（インタビュー） 在キエフ日本商工会メンバー（インタビュー） C/P（事前調査結果報告、調査方針説明） プロジェクトスタッフ（インタビュー）
4	11/27	C/P（PDM改定案の説明） 在ウクライナ日本大使館/プロジェクト専門家（インタビュー） ミニッツ修正作業 相互理解促進活動見学
5	11/28	C/P（ミニッツ協議） ミニッツ修正作業
6	11/29	ミニッツ修正作業 相互理解促進活動（運動会）参加
7	11/30	調査結果取りまとめ 団内打合せ
8	12/1	C/P（調査結果報告、ミニッツ署名） 在ウクライナ日本大使館報告

1 - 4 主要面談者

所 属	役 職	氏名（敬称略）
日本側関係機関		
在ウクライナ日本大使館	大使	伊澤 正
	二等書記官	堀口 剛輔
	二等書記官	村井 真一
在キエフ日本商工会	会長	高浜 宏吉
ウクライナ日本センター（UAJC）	所長	田宮 友恵
	日本語コース運営	大原 淳裕
ウクライナ側関係機関		
キエフ工科大学（KPI）	First Vice Rector	Mr. Yakimenko Y
	Vice Rector	Mr Sydorenko S
	Deputy Director Ukraine-Japan Center	Mr. Ogorodny
経済省	Deputy Director, Department for International Technical assistant	Mr. Harmashi Mykhail
教育科学省	Deputy Director, Department for International Cooperation	Mr. Dmytro Kozoriz
ビジネス研修受講企業		
KB JCO “Concern Galnaftogaz”	Director of Branch	Mr. Chuyko Roman

第2章 評価の方法

今回の中間評価では、プロジェクト・サイクル・マネージメント（Project Cycle Management：PCM）手法で用いられるプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）を活用し、評価を実施した。

2 - 1 評価手法

本評価調査では、PCM手法に基づき、プロジェクトの当初計画、協力開始時から評価調査時点までの双方の投入・活動実績、プロジェクト実施の効果、運営管理体制等を踏まえたうえで、評価5項目（有効性、妥当性、効率性、インパクト、自立発展性）の5項目に基づいて評価を行った。

（1）実績の確認

PDMに記載されている上位目標、プロジェクト目標、成果の指標がどの程度達成されたか、どのような投入がなされたかを確認した。

（2）実施プロセスの確認

プロジェクトの活動状況、モニタリング活動、日本人専門家とカウンターパート（C/P）の協力関係、C/Pや現地スタッフのプロジェクトへのオーナーシップなどを確認した。さらにミニッツ別添にプロジェクトに関する略年度表を添付している（ミニッツ ANNEX 4）。

（3）評価5項目

評価5項目の主な調査項目は以下のとおり。

項目	主な調査項目
妥当性	<ul style="list-style-type: none">・ウクライナの開発政策と合致しているか。・ターゲットグループのニーズとの整合性・日本の援助政策やJICA国別事業計画と合致しているか。
有効性	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクトの実施により、プロジェクト目標は達成されるか。・プロジェクトの有効性に影響を与えた貢献要因・阻害要因
効率性	<ul style="list-style-type: none">・投入された資源量に見合った成果が達成されているか。・投入は計画どおり実施されているか。・プロジェクトの効率性に影響を与えた貢献要因・阻害要因
インパクト	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクト実施により、もたらされる正・負の効果とその要因に関する考察・上位目標の達成見込み・そのほかのインパクトの可能性（政策、経済・財政、組織・制度、技術、社会などへの影響）
自立発展性	<ul style="list-style-type: none">・プロジェクトの効果が協力終了後も持続する見込みはどの程度あるかを組織能力、財務状態などから判断する。・自立発展性に今後影響を与えうる貢献要因・阻害要因

2 - 2 プロジェクト概要（PDMe：中間評価時の際のPDM）

通常、PCM手法を用いて評価を行う場合には、プロジェクト開始時に作成されたPDMなど計画文書に示された計画内容とプロジェクト評価時の実績との比較が評価の出発点となることから、プロジェクトの開始時点から同手法に基づいてPDMが作成され、活用されていることが前提となる。本プロジェクトにおいては、2006年11月に締結された討議議事録（R/D）及びミニッツ（M/M）で、上位目標はじめプロジェクトの骨格が固まり、かつPDMが作成されている。

ただし、記載表現に不明確なもの、活動と成果並びに指標が現行のプロジェクト活動と乖離しているものなど、PDMの問題点につき、関係者と議論を行い、PDMの見直しを行い、検討を行った。

本プロジェクトでのPDMの改善、修正点は以下のとおりで、今回の中間時評価にあわせて、ミニッツ（ANNEX-2参照）に示したようにPDMが改定修正された。

今回の中間評価での主要なPDM変更部分を以下の表に示す。

R/D時のPDM	中間評価時のPDM
<p>上位目標（指標）</p> <p>Number of Enterprise which lead to raise of benefits and efficiency after attending UAJC business courses</p> <p>Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries</p> <p style="text-align: right;">右記載を追加</p>	<p>上位目標（指標）</p> <p>Number of <u>People, Enterprise & Organization</u> which lead to rise of benefits and efficiency <u>by the matching activities through the UAJC</u></p> <p>Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries（上記修正なし）</p> <p><u>Degree of recognition of UAJC</u></p>
<p>プロジェクト目標（指標）</p> <p>1) Satisfaction level of participant in business courses and seminars</p>	<p>プロジェクト目標（指標）</p> <p>1) Satisfaction level of participants <u>& lecturers in business program</u></p>
<p>2) Satisfaction level of participants in Japanese language courses and seminars</p>	<p>同左（変更なし）</p>
<p>3) Number of Enterprise which lead to reflect in business improvement after attending UAJC business courses</p>	<p>削除</p>
<p>4) Number of Cases which lead to business matching among the two countries</p>	<p>3) Number of Cases which UAJC lead to <u>facilitating roles on business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation among universities & research institutes among the two countries through business program</u></p>
<p>5) Number of Cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine</p>	<p>同左（なお番号を4）と振り直し）（変更なし）</p>
<p>6) Satisfaction and Understanding level of participant in mutual understanding activities between Japan and Ukraine</p>	<p>同左（なお番号を5）と振り直し）（変更なし）</p>

<p>成果（指標）</p> <p>「成果 1」に右文章を追加記載</p> <p>「成果 2」に右文章を追加記載</p> <p>「成果 3」に右文章を追加記載</p> <p>「成果 4」に右文章を追加記載</p>	<p>成果（指標）</p> <p>1-6 Number of initiatives to provide assistance to external organizations</p> <p>1-7 Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p> <p>2-5 Number of special events like Japanese language debate contest</p> <p>2-6 Number of textbook and teaching materials produced for Japanese Language courses</p> <p>3-4 Number of UAJC membership and utilization for library & audio visuals</p> <p>3-5 Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p> <p>4-1 Number and content of JCC meeting & regular staff meeting held</p> <p>4-2 Balance of Income and Expenditure of UAJC</p> <p>4-3 Assignment of counterparts and UAJC staff</p> <p>4-4 Operational level and management capacity of UAJC staff</p>
--	---

<p>活動</p> <p>「活動1」を「活動 4」として再整理するため、番号を振り替える。</p> <p>「活動2&3&4」を最終的に「活動 1：ビジネスプログラム」として集約</p> <p>「活動 5」を「活動 2：日本語コース」と番号を振り替える。</p> <p>「活動 6」を「活動 3：相互理解活動」と番号を振り替える。</p>	
<p>外部条件</p> <p>「プロジェクト目標」の外部条件に右文章を追加記載</p> <p>「成果」の外部条件に右文章を追加記載</p>	<p>外部条件</p> <p>New UAJC Center building is constructed & opened.</p> <p>UAJC keeps strong linkage & closely relationship with other relevant organization.</p>

また、入手手段については現状入手可能なものや追加的な参考資料を追加して記載、その他、必要に応じて用語や表現を微修正した。

2 - 3 評価調査に用いた方法（評価手順及び情報・データ収集・分析手法）

（1）資料レビュー、評価グリッドの作成

事前にプロジェクト及びJICA、国際交流基金等から入手した報告書並びに参考資料等から情報を得て、現地での調査項目及び情報収集方法を検討し、評価デザインとして評価グリッド

(和文・英文)を作成した。評価グリッド英文はミニッツ ANNEX3参照。

(2) 質問票の作成・回収

現地調査に先立ち、評価分析団員が評価グリッドを基に、日本人専門家(長期・短期とも)、KPI側関係者(C/P)、センター講師陣並びにプロジェクト現地職員、各コース受講者・修了者に対する質問票を作成し、現地に送付し、回答を回収・分析した。また、本質問票を補う形で、現地において、個別にヒアリングを行った。

(3) プロジェクト関係者との面談、インタビュー

本プロジェクトの達成度や成果を捉えるうえで、本プロジェクト関係者に対して、グループインタビューあるいは個別インタビューを実施した。対象として、まず、ビジネスプログラム/日本語コースの元受講者並びにコース講師、相互理解事業参加者・協力者に対してインタビューを実施した。さらに、本プロジェクトのC/P機関であるキエフ工科大学(KPI)はじめ、ウクライナ側の政府関係機関である経済省及び教育科学省にも同様、訪問を行い、インタビューを実施した。

(4) 現地調査

現地調査の際には、まず長期専門家、KPI側関係者(C/P)に評価目的や手法を説明した。その後、専門家との協議、ウクライナ日本センター(UAJC)関係者、受講生さらには現地スタッフへのインタビュー等により情報を収集した。例えば、ビジネスプログラムでは、ビジネス研修受講生はじめ、産業・起業家協会、科学技術アカデミー、科学技術センター、国家企業家育成規制委員会(SCURPE)、ウクライナ投資庁、中小企業・起業家組合の方々にUAJCに来てもらい、プロジェクトに関する意見を聴取した。さらには、日本語並びに相互理解促進事業では、日本語講師や文化講座講師に講座の評価並びにプロジェクトに係る意見を聴取した。また、プロジェクトの各事業のインパクトや外部評価あるいはセンター運営の観点から、ビジネスプログラム関連参加企業、さらにはキエフ国家言語大学(日本語学科)を訪問するとともに相互理解促進事業に実際に参加した。また、在ウクライナ日本大使館並びに在キエフ日本商工会からもさまざまな意見や提案を頂いた。

(5) ミニッツ及び評価調査報告書署名

上記の調査・評価結果を評価5項目に沿って評価調査報告書(英文)に取りまとめ、並行して、ミニッツのドラフトを作成し、KPIはじめ、プロジェクト関係者に提示し、得られたコメントや追加で実施された調査結果を踏まえて、最終的にウクライナ側と日本側の合意に至り、署名を行った。以上、調査方法を取りまとめると、以下のとおり。

調査方法	活 動
キーインフォーマント・インタビュー	本プロジェクト関係者(キーインフォーマント)にインタビューし、対話をしながら深く掘り下げて情報・知見を得た(日本においても一部、実施)。
資料収集・レビュー	プロジェクトが収集・整理した基礎的情報・データを分析した。
アンケート調査	専門家に質問表を送付し、回答を記入してもらった。 KPI側関係者(C/P)、センター講師陣並びにプロジェクト現地スタッフを対象にアンケートを行った。 コース受講者・修了者の一部にアンケートを行った。
直接観察 (Observation)	UAJC施設を見学した。 各授業及びイベントを参観した。 ビジネスプログラム参加の企業を訪問視察した。

2 - 4 評価調査の制約・限界

プロジェクトのビジネスプログラムと日本語コースが本格的に開始されたのが2007年で、受講生がコースで得た知識・スキルを実務で活用できたか否かを判断するには時期尚早である。よって今回の調査では、コースの満足度、何を習得したかを中心に調査した。なお今回、以下にあるように、カークパトリックの4段階評価モデルを用い、とりわけレベル1及びレベル2までを中心に調査した。ただし、ビジネスプログラムに関しては、2008年度の修了生に際して満足度調査を行ったばかりであり、レベル1の段階での調査となる。今後、引き続き、受講生に関する調査やフォローアップは必要である。なお終了時評価の際には、レベル3とレベル4を中心に調査することが必要である。

	調査内容	評価手法
レベル4 Business Results	学習と知識がビジネスに、どう生かされているか評価する。	生産性、顧客のロイヤルティー、売り上げ、利益などで測定する。
レベル3 Behavior	実際に行動に移すことができるということを、参加者の真の変化を評価する。	参加者の実際の仕事でのパフォーマンスを観察する。
レベル2 Learning	新たな知識、スキル、行動様式を習得したか、行動が変わったかを評価する。	事前と事後の評価、観察、テストなど。
レベル1 Reaction	参加者にとってコースを楽しんだかどうか、意味のあるコースであったかどうかを評価する。	コース終了後の評価アンケートなど。

(出所：http://www.elc.or.jp/kaigai/lp5.htm を参考に、調査団作成)

図 2 - 1 カークパトリックの4段階評価モデル

第3章 プロジェクトの実績

3 - 1 投入実績

プロジェクトに関する投入（2008年11月現在）は、以下のとおり。

(1) 日本側

長期専門家派遣（4名） 短期専門家及び調査団派遣（17名） 延べ計21名（ミニッツ ANNEX 5参照）

機材供与（承認額）累計17万6,000ドル（内訳はコンピューターや日本語関連教材、相互理解事業に係る資機材ほか）（ミニッツ ANNEX 6参照）

在外事業強化費（2008年9月までの累計）累計4,800万円

カウンターパート（C/P）研修員受入（日本）3名（ミニッツ ANNEX 7参照）

(2) ウクライナ側

施設と建物の提供

電気代及び水道代（NTUU < KPI > 規定に従う）

C/P：キエフ工科大学（KPI）側日本センター所長、会計士、コーディネータースタッフ、警備員、その他センター事業運営に係る臨時人材（ミニッツ ANNEX 8 & ANNEX 12 参照）

3 - 2 投入の成果・事業実績

本プロジェクトの成果（及び指標）はプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に記載されているとおり4つあり、以下、各成果につき説明。

成 果	指 標
(1) 成果1：「ウクライナの大学及び産業界のニーズに合致したビジネスプログラムを提供する体制及びノウハウが整うとともに、ウクライナの経済成長に資する人材を育成するための一定のプログラムが実施される。」	1-1 ビジネスプログラム年間実施計画 1-2 ビジネスプログラム及びセミナー開催回数 1-3 受講生数、満足度、コース運営能力 1-4 現地講師が実施した講義の質、回数 1-5 産業界（商工会や産業界）との連携実績数 1-6 関係機関に対する側面支援の回数とその成果 1-7 同事業に関する外部機関からの問合せ及び支援の要請回数
(2) 成果2：「日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化などの相互交流を促進させるためのウクライナにおける日本語教育の拠点としての体制が構築される。」	2-1 日本語コース年間実施計画 2-2 日本語コース実施回数 2-3 応募者数、受講生数、満足度、コース運営能力 2-4 大学と日本語教師会による定例会の回数と支援数 2-5 日本語弁論大会はじめイベント・大会の開催数 2-6 日本語コースに関する日本語教材や指導書数
(3) 成果3：「日本・ウクライナ間の社会・経済・学術・文化面についての情報及び知識の収集と相互発信のための体制	3-1 相互理解促進事業イベント実施回数 3-2 参加者数、満足度 3-3 日・ウ両国を紹介あるいは寄贈された資料や蔵書数

が構築されるとともに、上述した分野での情報と知識の双方向での発信が行われる。」	3-4 センター会員数、図書・視聴覚室利用者・入館者数 3-5 同事業に関する外部機関からの問合せ及び支援の要請回数
(4) 成果4：「日本・ウクライナ側関係機関の協力・支援の下、ウクライナ日本センター（UAJC）が自立的に運営されることが可能な体制基盤が整備される。」	4-1 合同調整委員会（Joint Coordination Committee：JCC）開催数・スタッフ定例会議などの開催数とその協議内容・結果 4-2 財務計画と事業財務指標（収入・支出、アカウント残高） 4-3 C/P及びセンター現地職員（UAJCスタッフ）の人員配置状況、運営参加度 4-4 センター現地職員（UAJCスタッフ）の運営能力水準

(1) 成果 1

現時点での成果1を指標に従ってみると、次のとおりである。

- 1-1 ビジネスプログラム年間実施計画は策定済みながら、現実のニーズに合わせた修正変更が必要である。
- 1-2 ビジネス研修及び各種セミナー開催回数は下記のとおりで、累計56件。プロジェクト開始当初にニーズ調査等を実施したものの、出だしは低調であったが、徐々に活動が増加し、過去2年半のうち、今年、2008年（年度を指す。以下同）は既に27件を実施（一方、過去2年、2006年8件、2007年21件）。なお、2008年からは、地方都市でのビジネス研修も開始された。

表 3 - 1 ビジネス・プログラム実績

単位：件数、カッコ内は（有料）人数/収入（米ドル）

	2006	2007	2008.10
ビジネス研修全体	6 (154/0)	14 (493/3,544\$)	17 (485/14,471\$)
産学官連携 (省エネ含む)	2 (250/0)	5 (325/0)	8 (344/0)
貿易投資促進	-	2 (65/0)	2 (20/0)
合 計	8	21	27
参加者・収入	404 (0)	883 (3,544\$)	849 (14471\$)

表 3 - 2 ビジネス研修形態別実績

単位：件数、カッコ内は（有料）人数/収入（米ドル）

	2006	2007	2008.10
コース	-	4 (18/3,500)	6 (40/11,680\$)
セミナー	6 (154)	6 (415)	2 (39)
フォーラム・冠講座	-	-	8 (343/2,791\$)
カウンセリング	-	1	1

表 3 - 3 ビジネス研修分野別実績

単位：件数、カッコ内人数

	2006	2007	2008.10
中小企業振興	2 (43)	-	-
生産管理	2 (57)	6 (313)	-
人材開発・管理	2 (54)	6 (142)	8 (139)
日本的経営	-	1 (13)	8 (343)
合 計	6 (154)	13 (468)	16 (482)

- 1-3 ビジネスプログラムの受講生・参加者数は2,136名、2008年の調査結果（16の有料コースのうち、12のコースで調査）では93%の受講生が満足との回答であり、高い満足度を獲得している。コース運営能力は、2008年の16件のコース・セミナーの調査の結果、96%が満足との回答。
- 1-4 現地講師は1名しか実質的にはいない。省エネ関連で13回の講座を実施。なおビジネスプログラムに係る現地職員については、過去、離職、交代が相次ぎ、現在、新しく3名が配置されているものの、ビジネスプログラムの計画、運営、更にはマッチング機能の調整面での能力向上が必要である。
- 1-5 産業界 [キエフ商工会やウクライナ品質協会、中小企業振興ユニオン、国家企業家育成規制委員会（SCURPE）、企業再生・民間セクター開発センター] と、10回の研修及びセミナー（フォローアップ研修含む）を既に実施。

1-6 & 1-7 外部機関からの問い合わせの結果、実際に支援した内容は以下のとおり。

- ・ 経済省の支援要請を受け、国際経済フォーラムで発表
- ・ SCURPEの要請を受け、企業家の日のイベントで発表
- ・ SCURPEの要請を受け、ウクライナ企業家の「生産管理研修」本邦研修を計画
- ・ 中小企業振興ユニオンの要請を受け、地方（ジトーミル市）でビジネス・オープンセミナーを実施
- ・ ウクライナ品質協会の要請を受け、オープンセミナーを実施

その他、ビジネスプログラムとして、下記のような事業活動が実施されている。

- ・ 貿易投資促進については、日本貿易振興機構（Japan External Trade Organization : JETRO）職員の出張等にあわせ、ウクライナでセミナーを開催。またデータベース作成等のビジネスマッチングに必要な情報整備を行うとともに、ビジネスフォーラムに専門家が参画し、積極的に広報するなどの活動を行った。
- ・ 産学官連携については、近藤教授（横浜国立大学大学院）を派遣し、日本の産学官連携紹介セミナー等を中心に実施。
- ・ KPIとしては、プロジェクト終了後に省エネ、ハイテク部門で日本との交流を推進したいとの発言がある。よって、同分野も併せ、産学官連携は、日・ウ間（日系企業、大学）の連携を希望している機関に対するセミナーの開催、マッチングの支援、KPI学生向け講義等へ、2008年度からはシフトし、2008年10月には、東京農工大の産学官連携の紹介や、研究事例の紹介等、また、日・ウ両機関のマッチング等の機会を提供した。

- ・ 省エネ分野の協力については、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）参与のセミナーを契機としてCTIセミナーが開催され、その後、NEDO資金でフォローアップのためのセミナー等も共催。その他、現地日本人講師を雇用し、省エネ分野でのKPIの学生の指導を実施。

(2) 成果 2

日本語事業については、初級から上級レベルを対象とした日本語クラスを設置するとともに、現地における高いニーズを受け、「通訳養成クラス」、さらに日本語を学んだことのない子どもを対象とした「子ども日本語クラス」を実施するなど、多様なニーズに対応するコースや活動を実施しており、同センターはウクライナの日本語教育の拠点としての役割を担っている。なお、本成果2については次のとおりである。

- 2-1 日本語コース年間実施計画は策定済み。
- 2-2 日本語コース実施回数は下記のとおりで、長期、短期とも18回の実施。
- 2-3 特に初級コースの人气が高く、応募者は定員の約2倍。なお、長期コースの継続率は約8割。2007年の調査結果(69名回答)及び2008年(101名回答)の調査結果では、各々99%、96%の受講生が満足との回答であった。また、コース運営はおおむね順調で、受講料収入による独立採算運営(受講料収入による、講師人件費や必要経費の支出)を行っている。
- 2-4 ウクライナ日本語教師会の毎月の定例教師会への支援を行っており、教師会を実施機関として行われている日本語能力試験の運営にも側面支援を行っている。
- 2-5 同教師会との共催で行う日本語弁論大会はじめ、特別体験講座を原則月1回開催、日本・日本文化に関するものや日本文化体験・日本語で話す機会などを提供し、日本語学習者のレベルの底上げ、及び学習動機の維持を図っている。そのほか、映画上映はじめ、日本語に親しむための活動が行われている(表3-5参照)。
- 2-6 日本語コースに関する日本語教材や指導書『みんなの日本語初級 / 翻訳・文法解説 ウクライナ語版』をUAJCプロジェクトとして製作中。2009年2月末、出版予定で、本書が出版されれば、ウクライナ国内で安価な日本語教材が入手可能となる。UAJCには、日本語に関して364冊の教科書、30教材、204指導書数(辞書含む)が現在保管、活用されている。

表 3 - 4 日本語コースの状況

	2006	2007	2008.10末
長期クラス	4 (52)	7 (79)	7
短期上級クラス	4 (44)	3 (26)	2
短期子どもクラス	3 (17)	4 (31)	2

表 3 - 5 その他の活動状況

	2006	2007	2008
セミナー	4	7	2 (1)
体験講座	3	2	8 (3)
その他 (映画上映等)	6	2	10 (4)
合計回数 (人数)	13 (216)	9 (250)	20 (-)

(3) 成果 3

事業は 有料定期講座、各種イベント・フォーラム、図書室運営画の3本の柱からなる。現時点での成果は指標に従ってみると、次のとおりである。

3-1 事業実施回数は、表3-6のとおり。

表 3 - 6 事業実施状況

	2006	2007	2008.10	合計
定期文化講座 (茶道、生け花、習字、碁)	9 (650)	14 (989)	12 (513)	35 (2,152)
収入	2,960USD	9,339USD	8,174USD	20,473USD
各種イベント	40 (13,500)	72 (4,929)	43 (9,636)	155 (28,065)
収入	41,712USD	774USD	11,150USD	53,636USD

3-2 上記のとおり、今まで2,152名 (35回) の有料事業参加があり、調査結果では99%の受講生が満足との回答であった。なお、イベント、フォーラム参加者総数は2万8,065名 (155回の実施) で、満足度は94%。

3-3 図書室の蔵書は7,569冊、視聴覚機材は1,192で、数少ない日本関連書籍を有する図書室となっており、日本語・日本文化の理解促進と底辺の拡大を図っており、日本語学習者はじめ利用者から高い評価を受けている。一方、麻生首相から寄贈された漫画本などもある。

3-4 図書・視聴覚室利用者・入室者数は、2万300名 (センター会員数710名) 。

表 3 - 7 図書室の状況

	2006	2007	2008/10月まで
蔵書数	5,553	6,976	7,569
視聴覚機材数	845	1,067	1,192
新規会員数	310	238	162
利用者人数	8,082	7,854	4,364

- 3-5 相互理解促進事業の各種イベントは、プロジェクトの限られた予算のなか、他機関との連携によって、独自に中・大型の日本文化イベント等を実施するなど、多様性に富み、しかも内容が充実した事業を実施し、最小限の投入で質的・量的にも大きな効果をあげている。在ウクライナ日本大使館との文化事業の連携も良好で、双方に効率的でかつ相乗効果をもたらしている。外部機関からの問い合わせ回数は数多く、最低でも週1~2件。在ウクライナ日本大使館の各種行事共催の要請や、新聞や雑誌、テレビの協力依頼から、民間企業のイベント支援など要請の内容も多様。

参考 <在ウクライナ日本大使館との提携事例>

チェルノブイリ救援中部 チェルノブイリ・フォーラム、ロックグループ<V・V> ビデオクリップ撮影協力及びドリームランドフェスティバル出展、キエフ剣道連盟 剣道大使杯共催、各種アニメ・ファンクラブ アニメフェスティバル共催やアニメコスプレカラオケ大会、西尾武道キエフ支部 フォーラム、各種イベントでの協力、モスクワ裏千家支部 茶道デモ共催、極東基金 生花デモンストレーション、GALA RADIO バーモントイベント、ウクライナ囲碁協会 囲碁大使杯、囲碁各種トーナメント共催等々

(4) 成果4

現時点での成果を指標に従ってみると、次のとおり。

- 4-1 JCC開催数は2回(年1回)。JCCはC/P機関の代表者、日本大使館、本部出張者、プロジェクトの専門家・C/PによるUAJC運営に関する最高意思決定機関(年間活動計画の承認・修正・実施監督、運営上の問題解決、活動の分析・評価、年間活動報告の受理等)。また、KPIと運営問題を協議する会議を定期的を実施し、これまで議事録に残したもののだけでも会議数47回実施。そのほか、在ウクライナ日本大使館との定例会を月に1度実施し、議事録数34。スタッフ会議(KPIコーディネーターとプロジェクト・スタッフ)は毎朝30分、定期的を実施しており、連絡体制等は密に実施。
- 4-2 センター収入は、2006、2007年各々、約740万円、580万円。2008年10月までの2.5年間全体での内訳をみると、まずスポンサー寄付金が687万円と収入の4割、また、その他収入として日本語約3割、相互理解促進/図書館が約2割弱となっており、ビジネスプログラムの収入は1割。なお収入は、KPI全体のアカウントに口座をつくり積み立てられている。運営経費については、JICAのプロジェクト現地活動費(約1,480万円/2007年)及びKPIアカウント(約443万円/2007年)から支出しているが、支出比率は、およそ3:1となっている。KPIアカウントの支出は、約2割がKPIの人件費負担となっている。またC/P経費(光熱費、人件費等)は、KPI側が支出(R/Dで決められているC/Pの負担は履行)。KPIアカウント残高については、2008年10月末現在で、5万2,191米ドル(約500万円)。
- 4-3 センターの運営管理体制は確立されており、現在、3部門(総務・相互理解促進、ビジネス、日本語)、11名の現地職員が従事している。一方、KPIの運営体制であるが、経理会計部門は確立しているものの現状は4名(掃除夫、警備等を除く)。事業収入で雇用している現地講師(日本語、相互理解)講師を含めると、関係者は29名である。KPI側からのC/Pの形式的配置はあるが、実質的に運営にかかわっているのは1名(会計士)のみ。所長、調整役を担う窓口は非常勤であり、プロジェクト運営に協力的とはいえないのが現状。

表 3 - 8 UAJC有料事業収入額

単位：USD 1USD = 5.05UAH

		ビジネス プログラム	日本語 コース	定期文化 講座	図書室	相互理解 促進 イベント	スポンサー 寄付金
2006年度 (2006.5.22～ 2007.5.21)	収入	0.00	11,506.53	7,671.29	5,081.39	0.00	41,860.71
	全収入に占める割合	0%	17%	12%	8%	0%	63%
2007年度 (2007.5.22～ 2008.5.21)	収入	3,623.96	19,910.89	8,051.49	4,301.23	2,149.80	26,799.93
	全収入に占める割合	6%	31%	12%	7%	3%	41%
2008年度 (2008.5.22～ 2008.10.31)	収入	13,979.01	17,162.38	4,048.51	2,737.07	1,143.56	0.00
	全収入に占める割合	36%	44%	10%	7%	3%	0%
合計		17,602.97	48,579.80	19,771.29	12,119.68	3,293.37	68,660.64
		10%	29%	12%	7%	2%	40%

- 4-4 将来の自立発展性を鑑み、最低限の人員により運営され、一定以上の運営能力を有する（総務の業務を現地日本人採用に切り替えたり、各セクションに主任クラスの人材を登用するなど、現地スタッフ主導での事業展開を行いつつあり、運営の効率化をめざしている）。

第4章 中間評価結果（評価5項目による評価）

4-1 妥当性

本プロジェクトの上位目標がウクライナの社会・経済状況を踏まえた人材育成ニーズと整合し、また日ウ両国間の絆を深める効果をもつとみられることによって、ウクライナ日本センター（UAJC）の実施は高い妥当性を有すると評価できる。さらに、ウクライナで「日本の顔」の見える拠点としてUAJCが位置づけられること、UAJCを拠点に二国間の人的・文化的交流を促進することで、お互いの関係を緊密化できることから、本プロジェクトは妥当性があると判断される。

（1）ターゲットの選定とニーズへの対応

プロジェクト開始以来、ビジネスプログラム、日本語、さらに相互理解促進事業において、さまざまなコース、イベント、フォーラムがニーズに基づいて実施されており、その事業の選定や協力アプローチは妥当性が高い。ターゲットに応じた事業の実施、さらに事業実施の結果や教訓はすぐさま次回に反映され、よりニーズに合った適切な活動実施につながっている。

民間セクター開発に向けて、ウクライナでは法律、制度、特に商標の整備が進められてきている。しかし、国内、特に地方の産業基盤や人材基盤はまだ脆弱であり、民間セクター開発のコアとなる企業並びに起業家の育成が重要である。UAJCの人材育成コースが日本的経営や個別企業診断をはじめとする企業経営のノウハウ改善をめざすのは妥当である。また、人材育成コース受講生や各セミナー参加者にインタビューした際に、他の教育機関では欧米式のマネジメント手法を教えているが、日本式経営に関して学習する場所はUAJCのみであるとのコメントがあった。また、欧米の手法は理論を重視している反面、UAJCは、より実践的で経営に直結するものであり、実際の企業経営に役立っているとの高い評価を得ている。さらに地方でのビジネス研修実施には強いニーズがある（2008年度のニーズ調査及びインタビュー結果より）。

一方、既にキエフでは、ウクライナ人の西欧重視志向がみられること、かつ数々のビジネス研修があることから、なかなかUAJCでの有料研修に人が集まらないという現状や、効果的な研修デザインを描けなかったことは、研修ニーズ調査の結果が必ずしも妥当でなかったとの反省にもつながっている。これからは、本ビジネス事業を展開するにあたり、より効果的な実施を図るため、選択と集中を行い、対象とするターゲットや受益者像をより一層明確にすべきだと考える¹。いずれにせよ、同ビジネスプログラムのねらいは、とりわけUAJCによる日本とウクライナの間での「マッチング」にあり、情報提供をはじめ、ビジネス及び学術の交流やパイプ役、仲介役となることが期待されており、そうした面で妥当性が高いと思われる。

一方、日本語及び相互理解事業については、日本文化や社会に造詣が深い、あるいは興味が高いことから、どの研修コース、イベントも盛況であり、日本語学習あるいは日本への関心の高さをうかがわせるものであり、実施に係る運営体制が追いつかないほどである²。

日本語の場合、コース開催後の問い合わせや受講生の伸びをみても分かるように、日本語コ

¹ 現在企画中の有料本邦研修はニーズも高く費用対効果もあると思われる一方、研修に参加する対象者・企業はどうしても大企業や優良企業に限られる。

² 相互理解事業では、隣国のモルドバ共和国（以下、「モルドバ」と記す）あるいはキエフから遠く離れたニコラエフ（Nikolaev）の日本文化センターからも参加があるなど、同センターの果たす役割は大きい。

ースへの需要が高く³、また、日本語学習の機会がない一般市民、大学卒業後に日本語学習の場がない既習者、より職業的な訓練が必要なプロなど、さまざまなニーズに対応する形で初級から上級までのレベルを揃えた日本語クラスを設置するとともに、「子ども日本語クラス」「通訳養成クラス」を実施しており、極めて妥当性が高いものであるといえる（特別講座や日本・日本文化に関する情報提供、日本文化体験・日本語で話す機会などの提供によって、日本語学習者の底上げ、及び学習動機の維持も図っている）。

相互理解促進事業に関しては、ウクライナ人の間で日本文化に対する関心が高いことから、同事業は幅広い層、しかも参加人数も過去2年半で2万8,000人を超えていることから、その妥当性は高いと判断される。

なお、プロジェクトが総体として、ターゲットを明確にして効率化を図るとともに、3つの活動が連携して実施することによる相乗効果を図ることが肝要である。例えば、2008年度から、ビジネス研修が地方都市を中心とした研修実施へとターゲットをシフトしたことで大幅な事業収入を納めることができたが、これはビジネス研修に参加する経営者が、実は相互理解促進事業への参加を通じて初めてUAJCの存在を知り、日本のビジネス分野にも興味を有すようになったように、相互理解事業が「入口」あるいは登竜門となり、UAJCで学ぶことの意義や質の高さを認識し、更なる別の研修も希望するという連鎖、あるいは一種の「日本シンパ」を築いている。よって、こうした「入口」あるいは日本への関心の「取り込み」戦略が功を奏することから、事業のシナジー効果をあげられるよう心がけることが必要と思われる。

(2) ウクライナ政府の政策との一致

事前評価時同様、ここ数年、ウクライナ経済は、順調かつ急速に拡大してきており⁴、ウクライナの市場開放政策そのものには特に大きな変更はない。まだまだ日本にとってウクライナは遠い国であるものの、経済成長及び人的資源⁵はじめ、安い労働力や高い技術水準の存在で徐々にクローズアップされつつある。市場経済化を促進するための人材の育成というプロジェクトの目的は、同国の政策と一致している。

一方、2008年10月に入ってアメリカが発端となった金融危機の影響は、西欧資本市場に大きく依存しつつあった同国に大きな影響を与え、国際通貨基金（IMF）による緊急融資なしには国の財政金融状態が破綻するまでの影響を被っている。商品の輸入や企業の調達・運営資金の低下といったビジネスへの悪影響は当分続くとみられ、外資の導入の遅滞あるいは計画の頓挫、石油はじめ資源輸入の遅滞、さらに通貨の下落もあり、当国にとって、非常に困難な時期であるといえ、とりわけ国内産業や貿易・輸入企業に対する影響は計り知れないものがある。こうしたビジネス環境の変化をはじめとする危機下でのUAJC事業の運営は容易でないものの、従来の西欧重視、アメリカ的経営・金融モデル一辺倒から、日本的経営や日本のプレゼンスに関心が高まる契機となる可能性もある。いずれにせよ、今後、同国でのビジネス環境は急激に変

³ 特に、初級コースの人気が高く、応募者数は定員の約2倍。また、長期コースの継続率は約8割。

⁴ 1991年に独立して以来、経済のマイナス成長が続き、経済規模は独立前の約3分の2にまで減少したが、独立後初めてGDPプラス成長を記録した2000年以降は、年平均6～9%と急速に経済成長率を高めている（過去5年間でみると年7%以上の成長率）。経済成長の背景としては、同国の主要産業のひとつである金属産業の復興、通貨フリヴニャ安を背景としたウクライナ製品の輸出増、消費財を中心としたウクライナ産業の復興、隣国ロシアの好景気による牽引などが指摘されている。

⁵ 同国は鉄鋼、機械、化学産業等が盛んながら、エネルギー資源には乏しく、石油をはじめ主要なエネルギー資源を輸入に頼っている。

わる可能性が高いが、現時点では不測なことから、本プロジェクトの活動については、柔軟に対応していく必要がある。

(3) 我が国の優先政策・分野との整合性

市場経済化に向けた人的資源の開発支援は我が国の優先分野のひとつであり、その政策はプロジェクト開始当初から変わらず、プロジェクトの方向と合致している。

4 - 2 有効性

事前評価時には、UAJCの事業を通じてプロジェクト目標が達成できると判断している。ビジネスプログラムを除き、その判断は今後も変わらず、プロジェクトの有効性は高いと判断される。

(1) プロジェクト目標の達成見込み

既に前章（第3章 プロジェクトの実績）で述べたように、全体で見ると、プロジェクトの活動はほぼ計画どおりに実施され、成果をあげていると判断される。特に、日本語コース、相互理解は多くの応募及び参加を得ており、非常に人気を博してきている。このことは、同事業が「熱烈な日本ファン」とも呼ぶべきウクライナの人々の間に受け入れられ、評価及び信頼を得たということもできよう。なお、UAJCの組織・運営体制も徐々に体制を整えつつある。こうしたことから、プロジェクトの有効性は高いといえ、高いパフォーマンスが引き続き今後も維持できれば、プロジェクト終了までに、本プロジェクト目標である「UAJCが、『ウクライナの経済成長に資する人材の育成』と『日本ウクライナ両国の社会・経済・文化面における交流関係促進』という統合的機能を果たすための体制が整備される」見込みと判断できる。

ただし、プロジェクト目標にある「センターがその役割を果たすようになる」ためのセンターの持続的な運営と機能の強化に向けた課題は、カウンターパート（C/P）及び現地スタッフの能力向上や現地講師の育成、UAJC並びにキエフ工科大学（KPI）の実施体制の確立、さらに新UAJCビルの建設、である。これからの2年半はコースやプログラムの運営を実施するだけでなく、C/Pや現地スタッフのオーナーシップの培養とキャパシティ向上のために必要な対策を実施することが不可欠となろう。また、新UAJCビルの建設に向けて、引き続きウクライナ側とともにモニタリングを行うとともに、完成後の日本センターの事業実施内容や運営方法を検討することが必要である。

(2) 成果がプロジェクト目標の達成につながるか

まず日本語、相互理解事業は共に、プロジェクト開始後、ニーズも高く、リピーターも多く、運営も効率的、効果的に行われた結果、順調な滑り出しであるといえる。一方、ビジネスプログラムは、長期専門家の不在や、何よりウクライナのビジネス環境のなか、苦戦しているのが現状である。

各事業の成果をプロジェクト目標の達成につなげるには、ウクライナの特質・特性である「日本」への大きな関心を軸に、この3事業を有機的に結びつけて、連携した事業の展開を図ることが重要であろう。また既に妥当性の項でも述べたように、事業の展開及びプロジェクト達成には大学側の参画が不可欠であり、いかに大学側の参画を引き出す施策を練れるか、またビジネスプログラムの核となるマッチング機能を軌道に乗せられるかにある。

以下、プロジェクトの達成を促進あるいは阻害してきた要因について、分析し、整理してみる。

< 促進要因 >

- ・ 開所前の準備及び法的措置⁶の整備や特恵などによって、独立採算や自立運営に必要な各種基盤が整えられたこと
- ・ 運営・管理体制の早期構築（プロジェクト雇用スタッフへの指導の結果、スタッフの主体性の拡大及び責務・役割の強化⁷）
- ・ 日本文化・社会に対する関心の高さ（ウクライナの人々は日本の文化、言葉、さらに芸術に興味を抱いているといえる。また今までは日本のビジネス手法を知らなかった企業が、別項目とする日本のビジネスあるいは開発技術を学ぼうとの意向もみられる）日本の製品（車や電気製品ほか）に対するよいイメージや評判
- ・ 数少ない在留邦人からのさまざまな協力（運動会、各種文化イベント、日本語コース支援、ビジネスフォーラム、冠講座への参画、また日本企業のボランティアによる協力）
- ・ その他

一方、下記に示したとおり、C/Pの理解、関与の低さや活動スペースの制限、さらに2008年度に入ってから金融危機といった事情が大きく阻害要因としてあげられよう。

< 阻害・課題要因 >

- ・ 金融危機はじめ経済情勢、政情不安⁸：日系企業や投資家のウクライナ進出に支障（各種支払い時の換算レート問題等）
- ・ C/Pの配置不足：KPI側の運営機能関与（役割の明確化と人材投入）
- ・ 新UAJCビルが未完成のままになっている（活動実施のための教室の確保はじめ、事業実施&拡大への障害）
- ・ 現地スタッフの定着率の低さ
- ・ 教室の不足⁹（相互理解事業やイベントあるいは日本語教室のやりくりが容易でない）

なお苦戦している「ビジネス研修」の困難性の要因分析を行うと以下のとおり。

- ・ 輸出先としてロシアさらにベラルーシ共和国、アルメニア共和国（以下、「ベラルーシ」「アルメニア」と記す）など独立国家共同体（CIS）諸国が多いが、いずれはヨーロッパ市場に売り込みたいなどビジネスが欧州に向いており、日本的経営（特に生産管理やオペレーション改善・効率化、競争力強化に資するもの）に関心はあるものの、欧米の資格取得や、短期でビジネスに直結するものに飛びつきたがる傾向があること
- ・ 中小企業を焦点に当てたとはいえ、企業の規模による経営システムの差あるいはビジネスマンのマインドやニーズに大きな差がないこと。ウクライナの市場経済化が欧米

⁶ 受講生・講師との契約、税金手続き、給与支払い手続きなどウクライナの法律に則って実施できるよう KPI の定款の体制が整備されてきた。

⁷ プロジェクトの運営スタッフに関して、日々、相当な時間をかけ、プロジェクトの調整、運営、会計に関する技術移転を行った結果、現状スタッフが多くの調整員事務（会計・総務・庶務）をこなし、既に軌道に乗りつつある（専門家及び現地スタッフからの質問票並びにインタビュー回答結果より分析）。

⁸ 政治状況は常に混迷状態にあり、特に KPI<UAJC>の建物問題で、度重なる関係閣僚の配置換えによる方向転換に翻弄されているとの回答あり。

⁹ 現在の仮サイトは 370 m²と他センターに比較して数分の一で、有料講座の拡大は困難（イベントは他所で実施しており、開催・運営面でも容易でない面あり。一方、センター外で実施することによる面的な広がり及び運営管理の能力向上というメリットもあり）。

の資本・手法の導入により進んでおり、欧米のビジネススクールをはじめとするマーケット市場が既に存在し、競争が厳しいこと（UAJCは後発組）

- ・ 参加受講生の問題意識は非常に高く、そのため質の高い講師陣の選定や確保及びレベルの高いコース開催は容易でないこと〔受講生のレベルは他の日本センター（ベトナム社会主義共和国、ウズベキスタン共和国、カザフスタン共和国、モンゴル国（以下、「ベトナム、ウズベキスタン、カザフスタン、モンゴル」と記す）などと比較しても各段に高いとの講師の評価〕
- ・ C/PであるKPIは民間企業との結びつきがないため、ビジネス研修受講生を募集するうえでネットワークを有していないこと
- ・ KPI側のビジネスプログラムへの運営参画が限られていたこと（プロジェクトとKPIとの連携関係が希薄）
- ・ ビジネスプログラム運営管理を担当する長期専門家がおらず、他の専門家の負担が大きかったこと（専門家不在によって、ビジネス研修全体の方針、あるいはコースの計画、実施、運営が曖昧）

現地スタッフの離職が多く、コース運営に関するノウハウの蓄積がないこと

4 - 3 効率性

（1）総論

達成された成果の量と質をみる限りにおいて、投入は成果を出すうえで、極めて効率的に活用されたと評価される。またプロジェクトは限られた予算並びに期間のなかで効率的に実施されており、費用対効果が高い。ただし、当初の計画どおり実施されていないものもあった。日本側の投入としてはビジネスプログラムを担当する長期専門家、またウクライナ側の投入としては、実質的なプロジェクト・マネージャーの適正配置がいまだになされていない。

（2）UAJC運営管理体制の確立

合同調整委員会（JCC）は予定どおり年に一度ずつ開催され、UAJCの運営にかかわる課題の検討等が行われた。ただし、双方の考えに相違があり、まだ活動の指針や方向性、さらにそれを支える実施運営面での体制整備について、合意まで至っていないのが実情である。

運営管理体制については、以下のとおり。

KPI側は、現在まで常勤会計役1名と最低必要限のC/Pを配置している。また、現地講師はモチベーションが高く、その能力あるいは指導方法は非常に適切と判断される。現地スタッフに関しては、プロジェクト終了後にKPIへの雇用換えを念頭に置いた最低限の人数及び給与レベルをプロジェクト当初、計画し行ってきた。しかしながら、ウクライナの急激な経済成長で、最低賃金レベルでの維持が困難となり、さらにKPIからのC/P配置が計画どおりでなかったため、現地スタッフのフルタイム雇用などローカルコスト負担を増やす方向に転換せざるを得なくなった¹⁰。

一方、相互理解促進事業に関しては、文化講座講師5名全員がKPIと契約し、C/Pスタッフと

¹⁰ 自立発展性の面で見ると、プロジェクト終了時に離職する可能性のある現地スタッフが運営の大部分を行っていること
のリスクは、専門家はじめスタッフも重々認識している。

して正式雇用されている一方、プロジェクト現地スタッフとしてウクライナ人及び現地在住日本人を雇用し、専門家との共同作業でイベントやフォーラム並びに図書室運営を実施しており、計画から実施運営まで、そのノウハウは確実に移転・蓄積されていると評価できる。

日本語事業もほぼ相互理解事業と同様な状況である。

(3) ビジネスプログラムの実施

プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に記載されたとおり、ビジネス研修の開催のみならず、ビジネスフォーラム、共同セミナー、さらに産学間連携、貿易投資促進と多様な活動が計画されている。

ビジネスプログラムのこれまでの実績はミニッツ ANNEX 9のとおりだが、こうした多様な活動を行うにあたって、その実施運営を行うスタッフの不足等から期待されたとおりには行われていないのが現状である。特にKPIでの有料ビジネス研修の開催は、激化する競争や企業の欧州連合（EU）志向などから容易でない。

一方、最近になって、次に述べるとおり、双方の機関にとってメリットのある事業活動を計画し、効率的な事業展開を行ってきている。例えば、産学官連携では、科学技術アカデミー、産業企業家連盟といった新たな機関との連携開始、投資部門では、ウクライナ投資庁との共同セミナー開催、現地の日系企業との連携、特にビジネス・フォーラムではほとんど経費を使わず、有意義な有料講座を展開、さらに冠講座も開催、ビジネス有料研修の地方展開では、中小企業ユニオンとの連携など。さらに顧客の開拓については、相互理解促進あるいは日本語事業の活動を通じて行うことで、参加者の確保あるいは拡大を図っており、事業の効率実施の点では非常に有効な手段であると判断される。

なお、同プログラムについては、専任の長期専門家が長い間不在であり、短期専門家派遣だけで実施されてきたことから、当初期待されたとおりの成果をあげられなかったといえる。また短期専門家に関しても、現在まで9名が派遣されたが、その活動評価にばらつきがある。既に有効性のところで、「ビジネス研修」の困難性の要因分析を行い、ウクライナのビジネス環境の困難性を指摘したが、短期専門家の派遣については、ウクライナに派遣しても、受講生の満足を得られないばかりか、UAJCの評判を落とすことでその後の運営に悪影響が出るため、今後、質の高い日本人講師の確保が重要課題である。

ウクライナ側からはビジネスプログラムに関するC/Pが1名配置され、本邦研修にも参加するなど、運営及び活動実施に係る参画が期待されたものの、本業の教職で多忙なこともあり、実質の関与はほとんどないままである。

なお、現行のUAJCでは教室が1つしかなく、定期的に施設を利用している日本語コースと相互理解の定期文化講座で既に飽和状態であり、ビジネスプログラムの実施はUAJCの施設以外でしか行えない実情があり、大学の他施設を利用したり顧客企業でビジネス研修を実施するなどの対応を迫られている。

(4) 日本語コースの実施

長期専門家がニーズを反映した講座を企画、モニターし、非常勤講師を管理しており、質の高いサービスが提供できている。アンケート、インタビューにおいても「日本語コースの質の高さ」「図書館や設備など環境」については高い評価がなされている。コース運営は順調であ

り、受講料収入により講師人件費や必要経費の支出をカバーする独立採算運営を行っている。
一方で教室不足や教師及び運営スタッフの人材不足が指摘されている。教室不足については新UAJCビルが完成すれば教室の確保が可能になるとともに、人材不足についても講師育成コース実施により改善が期待できる。

(5) 相互理解促進事業の実施

現在、本事業実施のための専任の日本人専門家の投入はなく、数多くの協力機関や、在留邦人、さらにはボランティアで支えられている事業といえる。また、有料文化講座を実施するにあたっては、プロジェクト携行機材費で必要な資機材（例：たたみ、着物、生け花用の機材ほか）を調達しているが、これらが講師によって有効に活用されている。また講師の謝金は完全に収入で補い、かつ一定の収入をもたらしているなど費用対効果は大きく、独立採算制をとっており優良事業ともいえる。

また、在ウクライナ日本大使館の文化事業とも連携をとり、双方に効率的な効果をもたらしているなど、そもそもプロジェクトのみでは実施できなかった連携イベントも数多い。

(6) コスト負担

日本側のローカルコストに関してはほぼ適切と判断。ウクライナ側のローカルコストは、討議議事録（R/D）でプロジェクトの活動を支えるコスト（場所、光熱水料、共益費、警備、掃除人夫）は最低限確保されている。さらに、新しいUAJCの建物がウクライナ政府の予算で建築が進んでいることは、ウクライナ側の大きな貢献として特記できる一方、その投入タイミングはプロジェクトの終了に間に合わなければならず、今後も注視が必要である。

4 - 4 インパクト

当指標を基に現時点で評価を行い、判断するには時期尚早であり、引き続き事業の継続及び発展のなかから、目に見えるインパクトや波及効果とその傾向をモニタリングしていく必要がある。しかしながら、UAJCは市場経済化を推進するウクライナのなかで、少なくとも、ビジネスをはじめ、社会、文化などさまざまな分野、領域でのマッチング機能を有しており、人的資源開発に貢献しているといえる。さらには、妥当性の評価で述べたように、本プロジェクトはウクライナ国民に対し、大きな貢献が可能であることは明らかであり、引き続き、UAJCはウクライナ国民の間で、日本に関する多様なプログラムやイベントの「場」として、両国民の相互交流の場として大いに活用されると思われる

なお、あくまで現時点での状況についてであるが、PDMの3つの指標に係る効果発現事例をあげておく。まず、指標1の「UAJCの活動やマッチング機能によって、何らかの便益を受けた、あるいは効率性が向上した人・企業・組織」の事例として、以下の例があげられる。

- ・ 有料のビジネス研修を受講した3社の企業が、取得した知識を実際に職場に生かし生産性・効率性を向上。
- ・ ビジネス研修で派遣された日本人講師が、ウクライナ企業の独自予算による招聘で、再度、ウクライナでビジネス研修を実施し、企業の役員に就任。
- ・ 貿易投資セミナーの日本貿易振興機構（JETRO）講師（ポーランド事務所）とウクライナ地方都市の連携が実現。当該講師が東欧日系企業誘致プロジェクト責任者に任命。

- ・ プロジェクトの仲介で、日系企業2社が国際会議での商品展示会に出展（パナソニック社、ソニー社）。
- ・ UAJCの活動が開始されたことで、日本語の学習機会のなかった学習者（年少者、大学に日本語講座のない学生、社会人など）に学習機会を与え、身近にしかも質の高い日本語を勉強する場所機会を与えることができた（一般に開かれた図書館及び優秀な講師が豊富な機材を基に、さまざまなレベルに対応した日本語の各種コースを実施するといったことは今まで当国になかったもの）¹¹。
- ・ その他 [日本の生産管理技術を習得したウクライナ企業（7社）の本邦有料研修を準備中] また、指標2の両国の市民間連携・交流につながった事例として、以下があげられる。
- ・ プロジェクトで活躍した日本企業のボランティア講師（相互理解）とウクライナの地方団体や個人との連携が3年にわたり継続中。
- ・ 相互理解促進活動で連携した地方の大学に、日本語の講師を派遣。
- ・ フォーラムの講師が、ウクライナの音楽家と連携して音楽祭に出場。
- ・ 当時外相であった麻生首相からUAJCにマンガの寄贈を受けた。その後、ウクライナのアニメ・マンガファンと連携して返礼イベントを行い、麻生首相の似顔絵を寄贈し、再度麻生首相より写真が送付されるなどの交流が実現。
- ・ UAJCの活動を知ったウクライナのロック・スターとの交流が実現。

最後に、指標3のUAJCの認知度については、プロジェクト開始後2年半という短い期間でもあり、現時点での評価は困難であるが、センター利用者数と層の拡大、また特に文化面のイベントに関するマスコミへの露出が高く、幾つかの大型行事もキエフ市内で開催¹²してきていることから、UAJCの存在は徐々にではあるがウクライナ国民に認知されつつあるといえる。一方、日本語コースもプロジェクト開始後3年目で、既に当地で認知された。なお、新UAJCビルが完成すれば、駅からも近く、またスペースも広く、活動も数多く実施可能であることから、その存在はさらに認知されると期待される。

ウクライナ国内にはUAJCのように、日本に関する情報を入手できる組織はほかに存在しない。また、ウクライナ国民は日本の文化や伝統に非常に高い関心をもっており、日本を知るうえでUAJCは、大きな役割を果たしている。よって、UAJCはウクライナにおいて日本に関するあらゆる情報を集約する「ハブ」または「サービスプロバイダー」となる可能性を有しているともいえる。

4 - 5 自立発展性

本プロジェクトの自立発展性はプロジェクト関係者の能力及びその意識に大きく左右される。まずは、現地スタッフについてはかなり能力及びノウハウも蓄積されてきており、実施運営は可能とはいえ、KPI側がいかに雇用継続するか、何より各事業を継続発展させる意思を有するか否かによる。何よりの課題は、UAJCはウクライナと日本の共同事業という性格を有しておりながら、実際には、大学（KPI関与部分）とプロジェクト（日本人関与部分）との2つの組織が存在するこ

¹¹ なお、2005年より実施されている日本語能力試験の申請者数も321人（2005年）、354人（2006年）、367人（2007年）、441人（2008年）と増加し、増加率も前年比で10%、3.6%、20%と大きく伸びている。

¹² スポンサー資金で、キエフ市中で大規模なイベント（和太鼓講演、1周年記念、ドリームランドフェスティバル、2周年映画祭）を実施し、マスコミでもたびたび報道されることで、ウクライナでの日本のプレゼンスが高まりつつあるといえる。

とである。

いずれにせよ、UAJCの今後のあり方やビジョン等についての議論と共有が必要となる。これまで、何度か、UAJCの関係者の間、またC/P機関との間で、UAJCの今後やビジョンに関する議論はなされているものの、常に平行線のままであり、歩み寄りがみられず、各事業の詳細設計とその修正を行っていくうえでも、UAJC全体の方向性を具体化すべき時期にきている。可能な限り、早期にかつ丁寧な議論の場を何度もつくり、合意形成を構築していくことがプロジェクト関係者には求められる。

(1) 事業の自立発展性

日本語及び相互理解事業は活発な活動が行われ、参加者からの評判も高く、今後も持続した活動が期待されている。また、これらの事業は収支バランスもよく、各事業を継続することによって、日本ファンの確保と安定した事業運営、UAJC会員数の増加が望まれるよう、ウクライナのニーズに即した質の高いコースを提供していく必要がある。一方ビジネス研修は、他の事業と比較すると、まだ活発ではない。状況は変わりつつあるものの、以上のことは、あくまでプロジェクト期間中のことであり、その後のことをどうするか、新建物建設の後、KPIの意向も踏まえ、慎重に討議を重ねていく必要がある。

KPI側は、新UAJCビルにおいて、科学技術振興や日系企業との共同研究プロジェクトの実現を希望しており、プロジェクト終了後も継続的に支援がなされるよう日本側に要望があることから、こうしたKPI側の意向や事業の継続性について検討を要する。

なお、相互理解促進事業では、大きく 有料文化講座、 各種イベント・フォーラム、 図書館運営があるが、多くは、ウクライナ側でも実施運営は可能である。しかし、大型のイベントはスポンサーからの支援で実施されており、スポンサー探しや日系企業との連携については、日本人の関与、イニシアティブが必要かと思われることから、組織管理していくにはまだ日本側の支援がなければ容易でないと推測される。一方、日本語事業は、ウクライナ人教師の日本語能力はおおむね高く、教師研修への意欲も高いことから、ウクライナ国内で質のよい講師を調達することが可能である。また、現在のローカルコース・マネージャーも日本語能力が高いうえ、プロジェクト自体に対する理解も高く自立発展性が高い。

(2) 組織面での自立発展性

UAJCの組織体制は確立しつつあり、法的措置や各事業活動に係るノウハウもかなり蓄積されている。また事業実施を支える現地スタッフのキャパシティも職場訓練（On-the-Job Training：OJT）を通して、高まりつつある。なお日本語及び相互理解事業の現地講師の給与はUAJCの自己収入から補われている。しかし、現在のプロジェクトの活動継続のため、現在、プロジェクトが担っているUAJCの運営管理体制をKPI<UAJC>側に徐々に移管していく必要がある。そのためには、KPIの一層の関与や何より現地スタッフの活用・雇用による運営管理部門を確立すること、さらには新UAJCビルの完成、さらにはUAJCの事業活動を「組織」として支える体制の強化が必要である。

(3) 政策面での自立発展性

ウクライナは2007年までは好調な経済成長に支えられてきたが、2008年になって金融危機の

影響を被っており、現時点では先が読めない状況にある。ただし、ウクライナの経済成長、特に市場経済化に資する人材の育成や、日本をはじめとする各国との社会・経済・文化面における交流関係促進、関係強化は、政治・経済状況が変化しようとも変わりはないと思われる。

(4) 財政面での自立発展性

プロジェクト開始時の2006年の事業収入をみると、スポンサー寄付金が全体収入の6割を占めているほか、相互理解促進/図書館が2割弱、日本語コース1.7割強となっており、ビジネス有料コースの収入がなかったのが大きな特徴であった。その後、相互理解促進/図書館及び日本語事業については引き続き好調な事業収入を得ており、財政基盤の強化に役立っている。

しかしながら、2008年に入ると、ビジネス事業も有料講座の実施によって、約1万4,000米ドル（2008年4月～10月末のみ）の収入があり、支出を抑え貯蓄がなされるなど、他の事業と肩を並べるほどにまで急速に成長しつつある。また2008年の上半期だけでもあり、金融危機の影響下、予断は許さないものの、この状況が続けば、財政面での自立発展への期待がもたれる。

なお、センター収入は、2006、2007年各々、約740万円、580万円で、収入はKPI全体のアカウントに口座をつくり積み立てられている。また、運営経費については、JICAのプロジェクト現地活動費（約1,480万円/2007年）及びKPIアカウント（約443万円/2007年）から支出しており、支出比率は、およそ3：1となっている。なお、KPIアカウントの支出は、約2割がKPIの人件費負担である。KPI側は[R/Dで決められている（光熱費、人件費等）は履行している] KPIアカウント残高について2008年10月末現在で、4万4,808米ドル（約440万円）としている。有料事業会計収支はミニッツ ANNEX 9のとおり。

また、UAJC収入/支出状況（2006～2008年度）は図4-1のとおり。

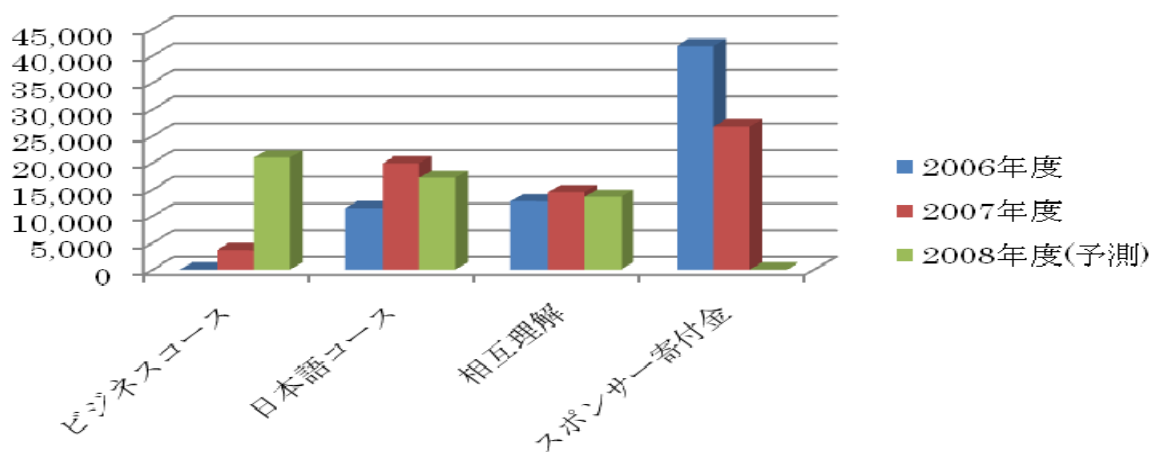


図4-1 UAJCの収入/支出状況

各事業は独立採算制であり、日本語並びに相互理解事業に関しては財政的な自立発展性は見込まれるといえる。例えば相互理解促進事業の場合でみると、以下のとおり。

1) 有料定期文化講座

講師謝金は税金も含めて、受講料で100%補っている。また消耗品も2007年からは受講料

に含まれ、運営もKPIスタッフが主体的に行っており、プロジェクトからの自立はほぼ100%達成しており、この分野では財政面のみならず、運営面でも自立発展性が確保される見込みである。

2) 各種イベント・フォーラム

現在、大型のイベントはスポンサー資金で実施する一方、小規模なワークショップもできるだけ経費を回収して実施するようシフトしてきており、自立発展性の可能性としては低くない。ただし、ウクライナの経済状況によってスポンサー資金に大きな期待ができない場合は、困難が予想される。

3) 図書室運営

図書室利用に係る会員費収入（現状、学生、年間約1,200円程度、大人2,400円程度）があり、そのなかから、司書スタッフを雇用することで、自立発展は可能。ただし、蔵書や雑誌、ビデオ等の購入に関しては何らかの日本からの継続支援は必要である。

なお、全体で見ると、プロジェクト支出は事業収入を上回っており、他の日本センター同様、中長期的な視点での財務的な自立発展のため、収入増をはじめ、財政自立の課題を抱えている。

ちなみに、センター運営経費におけるセンター収入額の割合は、2006年及び2007年では平均で29%であり、2008年も半期ながら、収入・収支の予測を踏まえると30%を超える可能性があることから、プロジェクト開始から短期間でこの水準に達しているのは特筆すべきといえる。

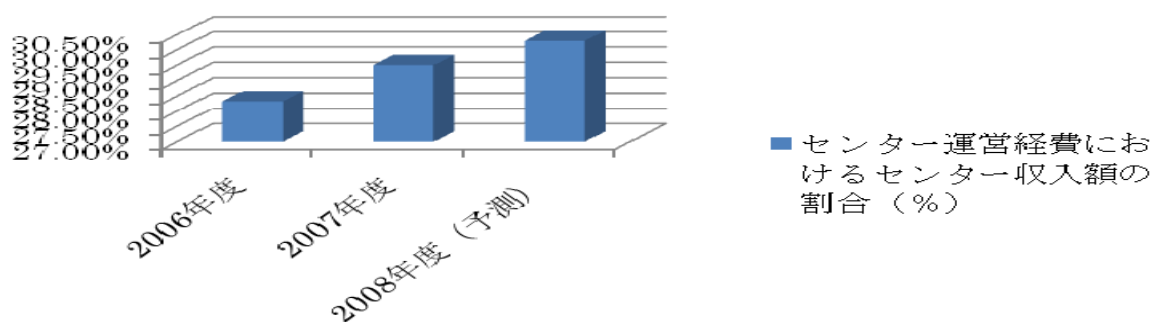


図4 - 2 センター運営経費におけるセンター収入額の割合

(5) その他

UAJCビルの建設については、ウクライナ側により毎年度予算が確保され、建設が進められてきた。KPI側は、関係省庁の閣僚にも働きかけ、2009年も建設予算は計画どおり配賦されると再三、説明し、副学長もコミットしている状況ではあるが、2008年10月の金融危機の影響もあり、今後の動向についてはまだ不透明である。

第5章 提言と教訓

5 - 1 プロジェクトに対する提言

本フェーズ後半、さらには将来に向け、より効率的かつ効果的な運営を図るため、調査団は以下の提言を行った。

(1) ウクライナ日本センター(UAJC)の新しい管理体制の構築

プロジェクト終了までに、UAJCの収入による人員配置を含めて、UAJCの新しい管理体制をキエフ工科大学(KPI)側が構築する必要がある。

(2) ビジネスプログラムの運営機能体制の強化

今までビジネスプログラムはビジネス研修やイベントを十分に開催するに至っておらず、参加者及び収入も限られたものであった。この数ヶ月でプログラム実施の状況に変化がみられるものの、まだ計画策定はじめ、運営、調整、意思疎通など運営機能体制の強化が必要である。さらに同プログラムの継続化には、KPI内の関連部局との連携が必要である。また、同プログラムの運営管理のために日本人専門家の派遣が望ましい。

(3) UAJCの新しい建物の建設と機材供与

2009年度内に新UAJCビルが完成し、また必要な機材が供与されるよう双方が最善を尽くす。

(4) 日・ウ間の継続的な協議

二国間関係におけるUAJCの役割の重要性に鑑み、同センターでの活動の担保とともに、科学技術分野をはじめとするさまざまな領域での協力の可能性などを、双方が引き続き協議していく。

5 - 2 各活動に対する提言

また、5-1の提言と併せ、プロジェクトの各活動(センター運営、ビジネスプログラム、日本語コース、相互理解促進事業)に対しての提言は、以下のとおり。

(1) センター運営

1) プロジェクト終了後も、現在のプロジェクトの活動が継続されるようになるためには、現在のプロジェクトが担うUAJCの運営管理体制をKPI<UAJC>側に移管していく必要がある。そのため、KPI<UAJC>のカウンターパート(C/P)・スタッフの配置に対するKPI側による予算措置は期待できず、費用はKPIアカウントから捻出されると想定されるため、新UAJCビルの活用も含め、いかに事業収入を増加させていくか、が喫緊の課題である。

2) KPI<UAJC>のC/Pスタッフに対するセンター運営管理、事業運営実施等の技術移転も必要である。選択肢のひとつとして、現在プロジェクトが雇用するスタッフをKPI<UAJC>のC/PスタッフとしてKPI側に雇用してもらう、という案もある。この場合、新たな技術移転は不要であり、事業運営実施体制の移管が円滑に行われるが、KPIスタッフとしての雇用は国家

公務員扱いとなるものと考えられるため、給与体系上、容易ではないと考えられる。

(2) ビジネスプログラム

- 1) 今後、ビジネスプログラムは、（できる限りKPIと協力し）地方都市を中心に日本的経営に興味を有する経営者層の拡大とそのフォロー、日ウ両国のビジネス・貿易投資・大学間・科学関係のマッチングの機会の提供を継続して実施していく。そのためには、プロジェクト運営体制を整備し、計画立案、運営管理、及び評価モニタリングを行うセンタースタッフの育成が急務であり、ビジネスプログラム運営管理専門家を早期に派遣することが肝要。
- 2) いくつかのウクライナの企業は、金融危機を事業シェアの拡大やM&Aのチャンスと捉えていること、また、地方においては、これまでプロジェクトが実施してきた日本的経営へのニーズが確認されていることから、プロジェクト後半についても、引き続き、地方を中心に、これまでの受講者に対するフォローアップ研修を継続していくとともに、地方における日本的経営に関する無料セミナーを実施し、日本的経営に興味を有している対象者の拡大を図る。また、KPIのビジネス関連学部の教授陣と連携したセミナー等の実施を模索する。
- 3) 現地の日系企業の駐在員などを講師としたフォーラム等についても、日系企業の駐在員にとってもメリットがあり、かつウクライナ側からのニーズも高いことが確認された。一方で、金融危機の影響も考慮し、今後、それぞれの個々の講師の求めるニーズ（ビジネスパートナーの発掘、商品の広報、宣伝）に応じてテーマを設定し、プロジェクト期間中は、継続的に開催していく必要がある。
- 4) 日本からは、引き続き、ウクライナに日系企業や日本の大学とで、ウクライナの大学や企業との連携を希望している機関などを現地に派遣し、KPIやウクライナの関係者を招聘して、産学官連携の紹介や科学技術関連セミナーを開催するなど、マッチング支援活動を継続させていく。
- 5) 2009年1月上旬からプロジェクトのチームリーダーとして派遣される水谷・日本貿易振興機構（JETRO）対日投資部長の、これまでの経験と知見を活用し、今後は、ビジネスマッチングに必要な基盤整備、情報発信機能の強化、欧州地域のJETROのリソースを活用した貿易投資セミナーの実施等の強化を図る。
- 6) なお、これらマッチング支援活動を通じて、有料で日本へ訪問したいとする企業、参加者を対象とした、日本でのビジネス研修を来年度（2010年3月）に予定。同有料研修の参加者からの評価によって、今後のビジネスプログラムの活動とするか否か、検討する。

以上、調査団が提案する、プロジェクト終了までの今後のビジネスプログラムの方向性（案）は、以下の図5-1のとおり。

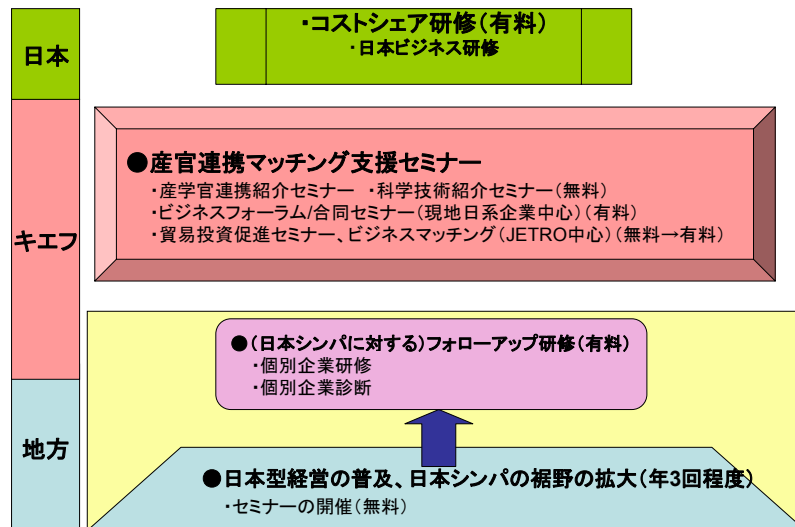


図5 - 1 プロジェクト終了までのビジネスプログラムの方向性（案）

(3) 日本語コース

- 1) 日本語コース運営実施体制は整備されつつあるものの、コースが常に参加者のニーズに合った魅力的なものになるよう、コース内容のモニタリングを継続する。
- 2) 日本語教師会運営の現地講師主導體制への移行に向けて、各種行事等の運営を、日本語教育専門家と現地講師で協働しつつ、現地講師が主体で運営実施できるよう、技術移転を行う必要がある。
- 3) 初級クラスの人気は高い一方で、日本語講師の人数が不足しており、量的にニーズに応えられていない。初級クラスの増加は、プロジェクト収入の増加にもつながるため、今後のUAJCの自立発展性を考えると、「日本語コース講師育成講座」の開講を検討する必要がある。なお、右コースを受講したものは、初級クラスのアシスタントとして採用し、講師としての経験を積ませるなどの方策も検討する。

(4) 相互理解促進事業

相互理解促進事業は「日本」を広報するよい機会であり、在ウクライナ日本大使館も継続を強く要望しており、持続的な実施を実現させるための体制整備が必要となる。例えば、在ウクライナ日本大使館の機能の一部（例えば文化・広報）の分室を新UAJCビルに設置することができれば、プロジェクト終了後も現在の相互理解促進事業の一部を確実に継続させることが可能となり、またKPI<UAJC>の運営状況もモニタリングできるようになる。右可能性については、プロジェクト終了に向け、在ウクライナ日本大使館と協議を継続させていくことが必要である。

5 - 3 教訓

本中間評価調査を通じ、主に他の日本センタープロジェクトで参考となるべき教訓として、以

下の2点をあげたい。

(1) プロジェクト終了後を見据えたC/Pとの定期的かつ継続的な協議

多くの日本センターに共通しているが、専属のC/Pが配置されておらず、日本側が中心となってプロジェクト活動を行っている場合が散見される。UAJCにおいても、正式に配置されているC/Pは4名であり、実質的に運営に関与しているのは会計士1名のみで、ウクライナ人所長は、UAJCに常勤していないため、プロジェクト活動への関与は十分とはいえない。これを解決するために、KPI側とプロジェクト運営上の問題を協議する会議を定期的を開催することに加え、在ウクライナ日本大使館との毎月の会議、毎朝30分程のスタッフ会議（KPI調整役とセンタースタッフ、日本人専門家）など、関係者間の情報共有は緊密に実施されている。プロジェクト活動を実施していくためにも、また、プロジェクト終了後のUAJCの方向性を協議する際も、C/P側との対話を進めていくことは重要である。他の日本センターにおいても、プロジェクト間のコミュニケーションと情報共有を意識した実施体制づくりがなされるべきである。

(2) プロジェクト終了後を見据えた各事業の独立採算の確立

ウクライナでは、プロジェクト開始当初から、プロジェクト終了後を意識し、UAJCの自立発展を念頭に、最低限の人員によりプロジェクトが運営されている。本邦から派遣する業務調整専門家を、現地採用（日本人）に切り替え、各セクションに主任クラスの人材を登用するなど、現地スタッフ主導での事業展開を行い、運営の効率化をめざしている。また、日本語コース、相互理解促進事業については、事業収入により、講師人件費や必要経費の支出を行っており、独立採算運営を確立している。これら独立採算に向けての多くの取り組みは、他の日本センターのプロジェクト終了後の事業のあり方のモデルにもなり得る。

第6章 プロジェクト終了後のウクライナ日本センター（UAJC）の方向性に関する議論

調査団は、中間評価調査と併せてプロジェクト終了後のUAJCの方向性について現地関係者（日・ウ双方）との意見交換を行った。

6 - 1 キエフ工科大学（KPI）側の意向

ウクライナ側としては、日本とウクライナの科学技術協力、ビジネスマッチングの支援拠点としてUAJCを活用したい、といった提案があった。また、KPIのサイエンスパークを活用し、日本の大学や企業からのグラントを誘致したいというアイデアや、学生向けの講義やセミナーを充実するような意見も出された。

6 - 2 現地の日本側（在ウクライナ日本大使館）の意向

現地の在ウクライナ日本大使館からは、UAJCが二国間外交の拠点としても重要な位置づけであることが、KPI側に説明された。ただし、KPI<UAJC>がプロジェクト終了後までに、現在のプロジェクト活動を継続できる体制を構築できる可能性は低いとし、プロジェクト終了後もJICAからすべて継続した投入を検討願いたい旨依頼があった。なお、日本語コースについては、シニア海外ボランティア（SV）派遣の可能性を探りたく、実現に向けて必要であれば、ボランティア調整員に代わって、在ウクライナ日本大使館がSVのサポートを行っていくことも検討可能との意見もあった。また、相互理解促進事業については、前述のとおり、UAJCに在ウクライナ日本大使館の文化・広報部の分室を構える案も提案された。

6 - 3 今後に向けて

KPI<UAJC>は、KPIの一部でありJICAプロジェクトとは別組織である、との認識である。これまで実施してきたプロジェクトの活動を継続させるためには、KPI側に現在のプロジェクトの活動を正確に理解させ、プロジェクト終了後、KPIとしてどの事業をどのような形で引き継いでいくか、在ウクライナ日本大使館も含め、KPI副学長レベルとの対話を深化させる必要がある。KPI側のプロジェクト事業実施へのインセンティブは、各種有料事業（日系企業とのビジネスの促進を含む）を通じた収益、日本との科学技術交流の促進の2点に集約される。なお、今までKPI側は日本語事業や相互理解促進事業の詳細や意義、さらにはその成果を十分に理解していなかったものの、同事業は独立採算にて事業を行うことが可能なことから、KPI側がそのメリットを理解できれば、事業が継続されるものとする。「日本の顔」を残すという意味でも、プロジェクト終了後も引き続き「日本人」が、何らかの形でUAJCに関与することは不可欠である。今回の中間評価では、KPI<UAJC>にプロジェクトの運営管理を担当する部署を新設する必要性があるとしており、調査団が想定するUAJCの将来の絵姿（案）は、以下のとおり。

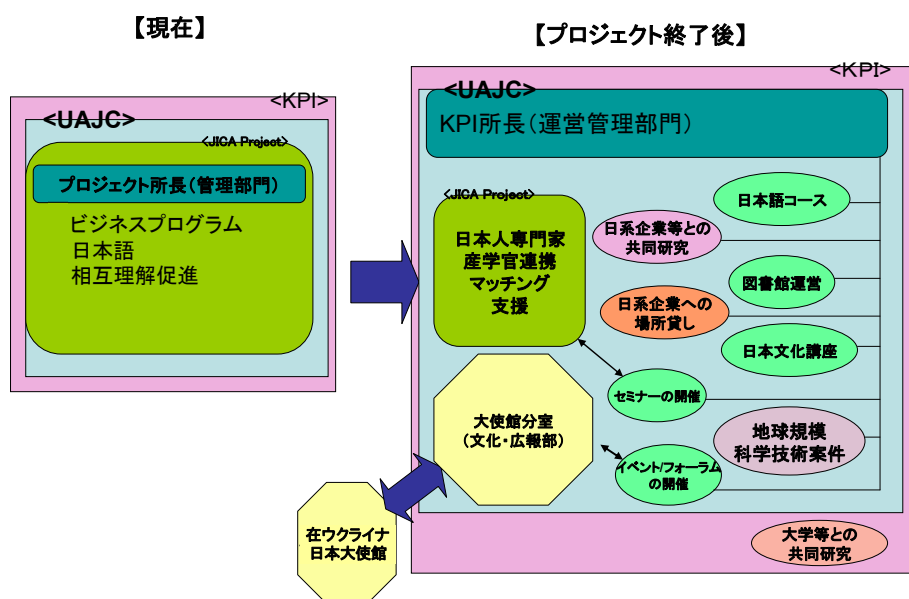


図 6 - 1 UAJCの将来の絵姿(案)

第7章 総括/団長所感

7 - 1 評価結果

プロジェクト開始後2年半という短期間、かつ一部専門家派遣が計画どおりとならなかったにもかかわらず、プロジェクトは順調に進捗し、期待された成果が発現されつつある。今後も成果の発現が継続されることで、ウクライナ日本センター(UAJC)が日・ウクライナの友好の象徴として機能することが期待できる。5項目評価においては、自立発展性の面でキエフ工科大学(KPI)側の更なるプロジェクトへの関与が必要とされており、今後KPI側の動向を注視する必要があるものの、その他の評価結果は概して高い。

7 - 2 UAJCの組織上の課題

UAJCは、2003年5月にKPIの一機関として設立され、2006年5月からJICAが技術協力プロジェクトを開始した。しかしながら、以前から存在する「KPI<UAJC>」という組織と「JICAプロジェクト」がそれぞれ存在するという二重構造をもたらした。しかも、KPI側にとっての最大の関心が、科学技術振興や産学連携であったため、UAJCプロジェクトの3本柱であるビジネス研修、日本語コース、相互理解促進事業に対するKPI側の関心は、決して高いとはいえない状況にあった。このような経緯もあり、これまでプロジェクトに対するKPI側の関与が限定的であったことが、プロジェクトの自立発展性にとっての最大の懸念であった。

7 - 3 自立発展に向けた展望

しかし、KPI側は、新しいUAJCビルの建物費を確保するため、教育科学省、財務省への働きかけや、討議議事録(R/D)に記載される義務の履行、UAJCに対する財務的特別優遇措置¹³の確保など、限定的ではあるものの、プロジェクト側に対する配慮とコミットメントがなされていることを確認した。

また、本調査団との協議において、KPI側から、「プロジェクト終了までに、UAJCの収入による人員配置を含めて、UAJCの管理体制をつくることの重要性を理解した」旨発言があったことは特筆すべき点である。右管理部門へのスタッフの配置は、プロジェクト活動から得た収益を充当することが予想されるが、運営管理部門へのKPI側のより主体的な関与が実現することで、プロジェクトの自立発展性に向けた道筋がみえてきたものと思われる。

こうしたKPI側の態度の変化は、在ウクライナ日本大使館が、JICA以外のスキームでの支援や、KPI側が期待する科学技術振興や産学連携等の支援の機会を提供したり、田宮専門家が産学マッチングを目的とした各種の紹介セミナーやフォーラムを企画・実施したことにより、KPI側がUAJCを設置したことによるメリットを実感してきたからといえよう。

7 - 4 将来像

KPI側は、新しいUAJCの建物において、科学技術振興や日系企業との共同研究プロジェクトが実現できるよう、本プロジェクトが終了した後も継続的に支援がなされるよう日本側に要請して

¹³ KPIの内部規定に、発展係数というものがあり、これは予算の約40%を機材購入に充てるべきというものである。しかしKPI<UAJC>はこれまで収入での機材購入を行っていない。これは、旧日本センターの資産であった機材を、KPI資産としたこと、並びにJICAから機材供与を行っているため。

いる。KIP側がUAJCの運営に主体的に関与していくことが前提となるが、現時点で考えられるUAJCの将来像としては、「新しい建物において、現在のプロジェクトの管理部門の実施体制をKPI UAJC が引き継ぎつつ、UAJC事業に加え、複数の科学技術協力、日系企業との合同研究等のプロジェクトが存在する」というものである。

付 属 資 料

ミニッツ

MINUTES OF MEETING BETWEEN
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM
AND NATIONAL TECHNICAL UNIVERSITY OF UKRAINE
《KYIV POLYTECHNIC INSTITUTE》
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE UKRAINE-JAPAN CENTER PROJECT

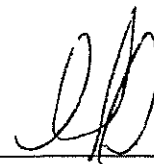
The Japanese Mid-Term Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”) was organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”), headed by Mr. Katsutoshi FUSHIMI, to visit Ukraine from November 18 to December 2, 2008, and had discussions with the Ukrainian authorities for the purpose to conduct mid-term evaluation on the achievement, and to identify issues of the Japanese Technical Cooperation Project on the Ukraine-Japan Center project (hereinafter referred to as “the Project”).

Through a series of discussions, the Team and the Ukrainian authorities concerned exchanged views on the evaluation and future directions of cooperation the framework of the Project, and the both sides agreed on the matters referred to in the document attached hereto.

Kyiv, December 1, 2008



Mr. Katsutoshi FUSHIMI
Team Leader
Japanese Mid-Term Evaluation Team
Japan International Cooperation
Agency



Dr. Mikhail Z. ZGUROVSKY
Rector
National Technical University of
Ukraine 《Kyiv Polytechnic Institute》

ATTACHED DOCUMENT

MID-TERM EVALUATION REPORT
ON
THE UKRAINE-JAPAN CENTER PROJECT

162

Іван Є. Понічук

Розділ 7

Р. А. Олександров

TABLE OF CONTENTS

1. Introduction
 - 1-1 Objectives of the Mid-Term evaluation
 - 1-2 Members of the Mid-Term evaluation
 - 1-2-1 Japanese side
 - 1-2-2 Ukrainian side
 - 1-3 Schedule of the Mid-Term evaluation
 - 1-4 Methodology of evaluation
 - 1-4-1 Method of evaluation
 - 1-4-2 Evaluation criteria
 - 1-4-3 Project Design Matrix (PDM) for the Mid-Term evaluation

2. Background and summary of the Project
 - 2-1 Background of the Project
 - 2-2 Summary of the Project

3. Achievement of the Project
 - 3-1 Inputs
 - 3-1-1 Input by Japanese side
 - 3-1-2 Input by Ukrainian side
 - 3-2 Outputs
 - 3-3 Prospect to achieve the Project Purpose
 - 3-4 Overall Goal

4. Results of Evaluation
 - 4-1 Relevance
 - 4-2 Effectiveness
 - 4-3 Efficiency
 - 4-4 Impact
 - 4-5 Sustainability

5. Conclusion

6. Recommendations

16

T. ...

...

...

1. Introduction

1-1 Objectives of the Mid-Term evaluation

- (1) To evaluate the overall achievement of "the Ukraine-Japan Center project" (hereafter referred to as "the Project") in terms of five evaluation criteria (relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability) based on Project Design Matrix (hereafter referred to as "PDM") for the Mid-Term evaluation.
- (2) To make a plan of the remaining period of the Project in order to achieve prospected results at the end of the cooperation period.
- (3) To identify any problems of the Project and discuss necessary measures to solve them and make the Project more sustainable.

1-2 Members of the Mid-Term evaluation

The Project was evaluated jointly by the Ukrainian and Japanese evaluation teams (hereinafter referred to as "the Joint Evaluation Team") in accordance with the "Record of Discussions between Japanese Implementation Study Team and National Technical University of Ukraine on Japanese technical cooperation for "the Ukraine-Japan Center Project" (hereinafter referred to as "R/D"). The Joint Evaluation Team was composed of 3 member from the Ukrainian side and 4 members from the Japanese side.

1-2-1 Japanese side

1	Mr. Katsutoshi FUSHIMI	Leader	Director, Japan Center Program Division, Governance Group, Public Policy Department, JICA
2	Mr. Akira MATSUMOTO	Evaluation Analysis	President, A&M Consultant Inc.
3	Mr. Seiji FUKUSHIMA	Japanese Language Course Evaluation	Japanese Language Advisor The Japan Foundation, Budapest
4	Mr. Yuichi OHASHI	Cooperation Planning	Staff, Japan Center Program Division, Governance Group, Public Policy Department, JICA

1-2-2 Ukrainian side

1	Dr. Mikhail Z. ZGUROSKY	Rector	National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute»
2	Dr. Yuriy I. YAKIMENKO	First Vice Rector	National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute»
3	Dr. Sergiy I. SYDORENKO	Vice Rector	National Technical University of Ukraine «Kyiv Polytechnic Institute»

1

1-3 Schedule of the Mid-Term evaluation

The schedule of the Mid-Term evaluation is attached as Annex 1.

1-4 Methodology of evaluation

1-4-1 Method of evaluation

The evaluation included analysis of report, field survey, questionnaire and interview with staff of the Ukraine-Japan Center (hereafter referred to as "UAJC"), Japanese experts and other concerned personnel in the Project.

1-4-2 Evaluation criteria

The evaluation was conducted based on the following five Evaluation Criteria.

(1) Relevance Relevance refers to the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in connection with the development policy of the Government of Ukraine as well as the needs of beneficiaries.
(2) Effectiveness Effectiveness refers to the extent to which the expected benefits of the Project have been achieved as planned. It also examines whether these benefits have been brought about as a result of the Project.
(3) Efficiency Efficiency refers to the productivity of the implementation process. It examines whether the inputs of the Project have been efficiently converted into outputs.
(4) Impact Impact refers to direct and indirect, positive and negative impacts caused by the implementation of the Project, including the extent to which the overall goal has been attained.
(5) Sustainability Sustainability refers to the extent to which the Project can be further developed by the Government of Ukraine, and the extent to which the benefits generated by the Project can be sustained under national policies, technology, systems and financial state.

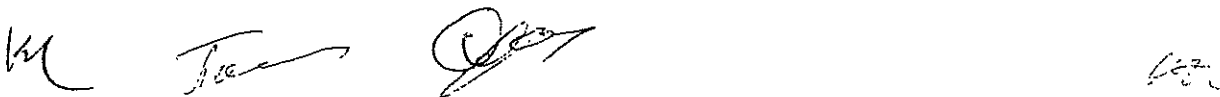
1-4-3 Project Design Matrix (PDM) for the Mid-Term evaluation

Summary of the contents of the Project was indicated in R/D. The Project Design Matrix for Mid-Term evaluation (hereafter referred to as "PDMe") was made by the Joint Evaluation Team and the evaluation has been done based on PDMe. PDMe is attached as Annex 2-1. Modified parts from PDM to PDMe are shown in Annex2-2. The Evaluation Grid to the Project was made by the Joint Evaluation Team. The details see Annex 3.

2. Background and summary of the Project

2-1 Background of the Project

In 1991, Ukraine became independent. Despite having entered the market economy



shortly after becoming an independent country and greatly affected by a downturn in the international financial market. For a while, Ukraine, same as Russia and the other CIS (Commonwealth of Independent States) countries, has seen positive growth since 2000 driven by economic recovery. In the view of transition from planned economy to market economy, Ukraine has been implementing various economic reforms.

On the other hand, as a part of Japan's Official Development Assistance, a concept of "Japan Center for Human Development" (commonly referred to as "Japan Center") was introduced. The objective of Japan Center was to render support to the countries of mainly Asian region, that were facing transition from socialistic planned economy to market economy. The Japan Center is mandated to provide human resources development programs, building necessary resources for the transition to market economy, and making use of "Japanese" experience and expertise.

In 2004, the Government of Ukraine presented an application to the Government of Japan for establishment of Ukraine-Japan Center in Kyiv. Since then, the Ukraine-Japan Center project started on May 22, 2006 for 5 years. Chronology of the Project summarized as Annex 4.

2-2 Summary of the Project

Project summary described in R/D is as follows.

(1) Overall Goal

UAJC is established for further promotion of economic growth of Ukraine and Japan-Ukraine cooperation in various areas.

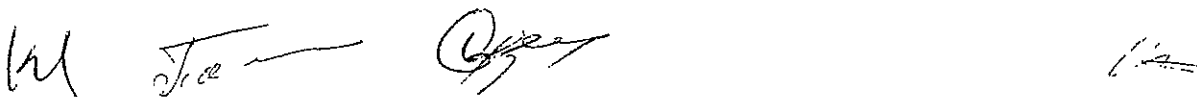
(2) Project Purpose

The system is developed to ensure that UAJC carries out both functions of "human resource development for economic growth in Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects," and UAJC exercises its responsibility.

(3) Outputs

Output 1: Framework and know-how are developed to implement the Business Programs that meets the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to it, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented.

Output 2: Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote of exchange between Ukraine and Japan on social, economic,

The bottom of the page features several handwritten signatures and initials. From left to right, there is a large, stylized 'M', a signature that appears to be 'T. Lee', a signature that appears to be 'O. Lee', and a signature that appears to be 'L. Lee'.

academic and culture aspects is established.

Output 3: Framework and know-how for collection and interactive dissemination of the information and knowledge necessary for social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledge on above-mentioned area are implemented.

Output 4: With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC.

3. Achievement of the Project

3-1 Inputs

3-1-1 Input by Japanese side

(1) Dispatch of Japanese experts

4 long-term Japanese experts have been dispatched in total as of the end of November 2008, mainly in the following fields, i.e. Project Director, Project Coordinator/Support for Business Programs Management and Japanese Course Management.

17 short-term Japanese experts have been dispatched in total as of end of October 2008. Details see Annex 5.

(2) Provision of Equipment

Computers and computer related equipments and software, projectors, books related with Japanese literature, and various equipments and materials for the Mutual understanding promotion activities, etc. have been provided. Total cost for the provision is 176,582 US dollars as of the end of October, 2008. Details see Annex 6.

(3) Training in Japan

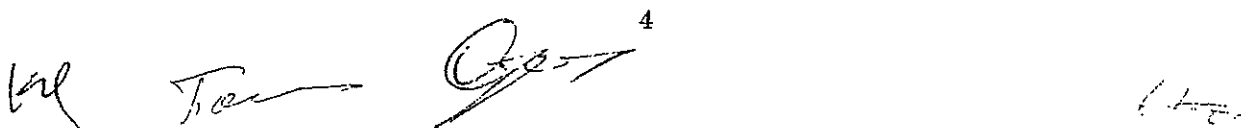
In total 3 persons have participated in trainings in Japan. Numbers of participants by training subject are as follows. More details see Annex 7.

1) Training related to UAJC administration and management: 2 persons

2) Training related to Business Programs: 1 person

(4) Local cost allocated by Japanese side

Local cost allocated by JICA for the implementation of the Project activities is 48 million Yen as of the end of September, 2008.

 Four handwritten signatures or initials are present at the bottom of the page. From left to right: a stylized signature, a signature that appears to be 'Tan', a signature that appears to be 'Ogata', and a signature that appears to be 'Hara'. A small number '4' is written above the 'Ogata' signature.

3-1-2 Input by Ukrainian side

(1) Assignment of counterpart personnel

A Director and an Accountant for UAJC were assigned by National Technical University of Ukraine, «Kyiv Polytechnic Institute : KPI» . Details see Annex 8.

(2) Operating Cost

The Ukrainian side has borne the necessary operating cost, other necessary expenses and privileges according to R/D and the regulations of KPI as bellows.

- ✓ Running expense for implementations of UAJC
- ✓ Utilities for Electricity and Water
- ✓ Privileges, Exemptions and Benefits
- ✓ Facility and equipment maintenance
- ✓ Communication expense

(3) Facilities and buildings provided by Ukrainian side

Necessary facilities for Ukraine-Japan Center is provided and utilized for the Project activities. In addition, new building of UAJC in KPI is currently under construction and being utilized for UAJC once the building is completed.

3-2 Outputs

The achievement level of each Output is shown below.

Output 1	Framework and know-how are developed to implement the Business Programs (that meets the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to that it, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented.
----------	---

Indicator 1: 1-1: Annual implementation plan for Business Programs formulated 1-2: Number of Business Programs implemented 1-3: Number of participants, satisfaction rate, management skills 1-4: Number and qualification of local lecturers 1-5: Number of program done in cooperation with Industrial association such as Chamber of Commerce and Industries 1-6: Number of initiatives to provide assistance to external organizations 1-7: Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities
--

1-1 The annual implementation plans were formulated.

1-2 Not sufficient number of courses and seminars were conducted until last year (only 8 events in 2006, 13 events in 2007). However, in the 2008, during the first half of the year, 27 events have been already conducted 27. In total, it was accumulated 56

events.

- 1-3 Total number of participants in business programs was 2,136. And the level of satisfaction of participants for 12 fee-charged courses was 93%. The result of questionnaire made in 2008 shows that the satisfaction on "capability of program management" was also highly evaluated as 96 %.
- 1-4 There is only one local lecturer at the energy saving seminar. However the seminar has not completed.
- 1-5 Over 10 trainings and seminars were conducted in cooperation with various associations, such as Kyiv Chamber of Commerce, Ukrainian Association of Quality, Union of Small and Medium-sized Enterprise promotion (branch in Zhytomyr and Cherkassy), State Committee of Ukraine for Regulatory Policy and Entrepreneurship, and Center for Restructurization of Enterprises and Private Sector Development.
- 1-6 More than 5 times of specific initiatives to provide assistance for external organizations were executed, and also the Project provided qualified services such as business forums and seminars corresponded for several requests and inquiries from external organizations.

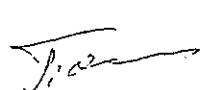
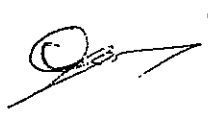

Details of the achievement of Business programs are listed in Annex 9.

Output 2	Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote exchange between Ukraine and Japan on social, economic, academic and culture aspects is established.
----------	---

Indicator 2: 2-1: Annual implementation plan for Japanese Language Courses formulated 2-2: Number of Japanese Language Courses implemented 2-3: Number of applicants and participants, satisfaction rate, management skills 2-4: Number of regular meeting among Universities and Japanese Language Teachers Association 2-5: Number of special events like Japanese language debate contest 2-6: Number of textbook and teaching materials produced for Japanese language courses
--

The Project established classes for various levels from beginners to advanced level, and also held advanced 'Interpretation classes' to meet the strong needs of local learners. Moreover, "Classes for children" were held to provide an opportunity for children who have never learned Japanese language.

- 2-1 The Annual implementation plans of Japanese Language Courses were formulated.

144   6 

2-2 18 long-term courses and 18 short-term courses were conducted.

2-3 Beginners classes were in high demand and there were applications as double as class participants' quota. The result of questionnaire made in 2007 and 2008 (101 answered) showed high level of satisfaction for courses (96%). Japanese language courses are well-managed and financially independent. That is to say, UAJC can manage lecturer's rewards and basic expenses by the income from tuition.

2-4 To enhance the motivations of Japanese language learners, the Project offered special lectures on Japan and its culture. The project also provided opportunities to experience Japanese culture and talk in Japanese. The Project supported regular meeting among Universities and Japanese Language Teachers Association in every months.

2-5 The Project co-hosted twice "Children's recital", once "Japanese speech contest", and once "Japanese language educational seminar".

2-6 The Project has been cooperating in making Japanese language textbooks in Ukrainian as one of its activities. 364 pieces of textbooks, 30 teaching materials and 204 guidebooks and dictionaries are stored for the use of Japanese language instructors. Details see Annex 10.

Output 3	Framework and know-how for collection and interactive dissemination of information and knowledge on social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledge on above-mentioned area are implemented.
----------	--

Indicator 3: 3-1: Number of events, programs implemented for Mutual understanding promotion activities 3-2: Number of participants, their satisfaction rate 3-3: Number of materials and library books for introducing each country 3-4: Number of UAJC membership and utilization for library and audio visuals 3-5: Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities

3-1 The events and programs implemented for Mutual understanding promotion activities were summarized as in Annex 11.

3-2 Until now, the total number of participants for fee-charged cultural courses was 2,152, and the level of satisfaction showed 99%. The number of participants for events and forums was 27,908, and the satisfaction level showed 94%.

3-3 The number of books in the library of UAJC is 7,569. The number of audio-visual materials is 1,192. The library is a unique place in Ukraine where are kept a variety of Japan-related books, and provided a wide range of services for the visitors.

ML *Tom G*

3-4 Users of library amounts to 20,300 and membership holders amounts to 710. A various kind of Japan culture events and activities were implemented by the Project in collaboration with other organizations.

3-5 At least once or twice per week, the Project was requested of assistances or made inquiries from external organizations such as the Embassy of Japan, mass media (TV, newspaper and magazine) and private companies for holding various activities.

	2006	2007	2008(until Oct)
Total number of books	5,553	6,976	7,569
Total number of audio-visual materials	845	1,067	1,192
Number of new members for UAJC library	310	238	162
Number of users of library	8,082	7,854	4,364

Output 4	With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC.
----------	--

Indicator 4:

4-1: Number and content of JCC meeting and regular staff meeting held

4-2: Balance of Income and Expenditure of UAJC

4-3: Assignment of counterparts and UAJC staff

4-4: Operational level and management capacity of UAJC staff

4-1. Joint Coordination Committee (JCC) was held twice (once a year). Furthermore, the regular/liaison meeting of the Project and KPI were held 47 times to discuss the management of the Project activities. In addition, regular meeting with the Embassy of Japan was held every month, and staff meeting, attended by KPI coordinator and Project staff, was held every morning.

4-2 .Basically, each activity collects a certain amount of fee, and that contributes to increase revenue and coverage cost ratio. The revenue of the Project consists of donations from sponsor companies, and earnings from Japanese language courses, Mutual understanding promotion activities, library membership, and Business programs.

4-3. 11 staffs have been allocated to the Project by the Project budget. On the other hand, KPI provided only 4 staff including accounting section. As a whole, the number of UAJC staff is 29 currently, including Japanese language and Mutual understanding promotion activities lecturers. The assignment of counterparts and UAJC staff are given in Annex 12.

4-4 The Joint Evaluation Team assessed that the Project has been operated with minimum number of staff but still well managed.

W *Tran* *G*

3-3 Prospect to achieve the Project Purpose

Project Purpose: The system is developed to ensure that UAJC carries out both functions of "human resource development for economic growth in Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects," and UAJC exercises its responsibility.

The Project has been carried out smoothly through technical support from Japan which includes consultations through Japanese experts in social, economic, academic and cultural aspects.

Degrees of achievement of the following indicators are at very satisfactory levels at present. By keeping this on-the-track progress till the end of the Project period, the Project Purpose will be attained at a satisfactory level.

Indicator 1: Satisfaction level of participants and lecturers in Business Programs

According to the questionnaire surveys to the participants and lecturers made in Business Programs, the rates of satisfaction level are as follows.

Business programs (56 as a whole)	Business courses (Paid) and forums (18)
Within the above, the questionnaire conducted (20)	Within the above, the questionnaire conducted (14)
91% (Satisfaction of participants)	93 % (Satisfaction of participants)

The satisfaction level of participants in programs, courses and forums is over 90% as shown in the above, it shows quite high performance. Then the performance of the program is positively evaluated from the qualitative viewpoint.

Indicator 2: Satisfaction level of participants in Japanese language courses

According to the questionnaire surveys conducted in 2007 and 2008, more than 96% of participants were satisfied with courses, about 93% of participants were satisfied with textbooks and teaching materials, 94% were satisfied with their lecturers, and 96% of participants felt that their Japanese language ability was improved.

Indicator 3: Number of cases which UAJC lead to facilitating roles on business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation with universities and research institutes among the two countries through Business programs

The Project received a large number of inquirers about business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation with universities and research

Handwritten signatures and initials: *Me*, *Bo*, *Ge*, *Li*

institutes from Ukrainian and Japanese companies and organizations. There are several cases which showed a certain achievements by the facilitation and/or collaboration with the Project. In addition, the Project has carried out various business matching promoting activities, such as making an investment database for Ukrainian companies, and promoting collaboration between Ukrainian organizations and Tokyo University of Agriculture and Technology. Also business forums and seminars supported by Japanese companies are focusing on business matching.

The summary of matching activities are below. Details see Annex 13.

Number of enterprises and companies where reflected on business improvement as a result of attendance to business courses and seminars.	4
Number of enterprises and companies which realized business matching with Japanese companies.	2
Number of enterprises and companies which gained any progress or results through the Project's business matching.	12

Indicator 4: Number of cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine

The Project cooperated with Japanese Language Teachers Association in order to enhance the association's activities and support its self-sustainability. For instance, the Project and Japanese Language Teachers Association co-hosted nationwide events such as "Children's recital", "Japanese speech contest", and "Japanese language educational seminar". And the Project has been publishing the brief activities of Japanese Language Teachers Association on its website. It is remarkable that the Project has been cooperating in making Japanese language textbooks in Ukrainian as one of its activities. Finally, a variety of books and many materials related with Japanese language are kept in UAJC library, and a lot of Japanese language teachers and learners use them effectively.

Indicator 5: Satisfaction and Understanding level of participants in Mutual understanding promotion activities between Japan and Ukraine

So far, 35 fee-charged Japanese art courses have been conducted. 99% of participants of 23 courses show their satisfaction. Until now, 155 various scale of events have been conducted. Satisfaction level of participants who took part in 40 events is very high (94%). Mutual understanding promotion activities were well performed quantitatively and qualitatively. The rates of satisfaction level are as follows.

M *Tien* *Q*

	2006	2007	2008	In total
Number of regular culture programs/courses < Tea ceremony, Ikebana, Penmanship, Go > (Number of participants)	9 (650)	14 (989)	12 (513)	35 (2,152)
Number of questionnaire (Satisfaction level of participants)	9 (100%)	8 (99%)	6 (100%)	23 (99%)

	2006	2007	2008	In total
Number of other events (Number of participants)	40 (13,500)	72 (4,929)	43 (9,636)	155 (28,065)
Number of questionnaire Satisfaction level of participants (in average)	2 (99%)	21 (97%)	17 (90%)	40 (94%)

3-4 Overall Goal

Indicator 1: Number of People, Enterprise and Organization which lead to rise of benefits and efficiency by the matching activities through the UAJC
Indicator 2: Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries
Indicator 3: Degree of recognition of UAJC

Overall Goal cannot be evaluated at this stage because it is too early to judge the indicators, and it takes time to derive visible impacts and trends from outputs. However, the Joint Evaluation Team understands that UAJC has already been functioning as the only "center" in Ukraine to promote mutual understanding between the two countries and becoming "a bridge between Ukraine and Japan". In addition, UAJC will perform the core function of matching and human resource development in the various fields such as business and social/cultural areas in Ukraine.

4. Results of Evaluation

The evaluation was conducted based on the five Evaluation criteria as stated at 1-4-2. The results of evaluation are shown below.

4-1 Relevance

The Joint Evaluation Team observed that Relevance of the Project is high at this moment. Details are as follows.

(1) Appropriateness of selection of target groups and grasp of their needs

The demand on events and forums on Business programs, Japanese language courses and Mutual understanding promotion activities are well grasped. And the Project appropriately selects the target groups and offers a wide range of activities according to

Handwritten signatures and initials: kl, Trens, and a signature.

their needs.

i) Business programs

“Private sector development” remains still a challenge in Ukraine. There are many European related institutions especially in Kyiv which provide business consulting services and they emphasize business theory and methodology. On the other hand, the Project underlines practical consultations which can be applied for day by day operation and management of companies. In fact, various practical seminars and forums conducted in major cities by the Project in the last a few months were welcomed and gained the positive reputation by the participants and audience. There are still high demands on Business programs from some other local cities according to the interviews and needs survey which carried out in 2008.

ii) Japanese language courses

The Project offered Japanese language classes for beginners to advanced learners, and all classes were pleased by the learners with high popularity. The number of learners has been increasing steadily. Considering these facts, it seems there are large needs for learning Japanese language, and the Project meets them.

iii) Mutual understanding promotion activities

All events and programs conducted by the Project were quite popular among Ukrainian people who are interested in Japanese culture. The Project is providing diversified information on Japanese culture to Ukrainian people of all ages. In the last two and a half years, more than 28,000 persons participated in the events and forums of the Mutual understanding promotion activities. Considering this fact, it seems the activities are relevant.

(2) Conformity with the development policy of the Government of Ukraine

The Objective of the Project is to develop human resources who contribute to promote market economy of Ukraine. Policy-wise, the Project objectives broadly meet Ukraine's policy of strengthening human resources for economic growth of the country.

(3) Conformity with the prioritized assistance subjects of the Government of Japan

Assistance to develop human resources toward market economy is one of the prioritized assistance subjects of the Government of Japan. Since the prioritized assistance subjects of the Government of Japan and JICA has been kept the same from

M *JICA* → *GOJ*

the beginning of the Project, relevance of the Project is secured.

4-2 Effectiveness

Effectiveness of the Project will be high. The reasons are outlined below.

As mentioned in the previous chapter, progresses and achievements of the Project activities have been made mostly as planned. In particular, Japanese language courses and Mutual understanding promotion activities have become very popular and they have been attracting numerous numbers of applications and participations. It seems that these programs have gained good reputations and trusts among Ukrainian people who are very keen to learn about Japan. By keeping the same performance, effectiveness of the Project at the end of the cooperation period is expected to be high.

However, in order that UAJC exercises its responsibility adequately, management structure of UAJC needs to be strengthened.

The followings are promoting and hampering factors to achieve the Project purpose.

i) Promoting factors;

- Legal status of UAJC is established and the Project enjoys several privileges.
- Operation and management system of the Project was established in early stage of the Project through technical transfer by experts. As a result, the Project staff have gained skills to manage day-by-day operation as well as to prepare activity plan with their ownership and responsibility.
- High popularity of Japanese culture, good images and reputations of Japanese products among Ukrainian people.
- Others


ii) Hampering factors;

- Economic situation
- Lack of counterpart staff and researchers
- Not yet completed construction of UAJC new building

4-3 Efficiency

Efficiency of the Project is at a satisfactory level.

Some of Japanese long-term experts were not provided as planned. However, inputs of the Ukrainian and Japanese sides can be said appropriate in general in terms of quantity, quality and timing, and they have been utilized fully for the Project activities.

148 

It seems that cost efficiency of the Project is very high considering limited budget, the Project period, and good outputs.

4-4 Impact

As already stated at "3-4 Overall Goal", it is still too early to judge probability of impact of the Project. However, the UAJC has already been functioning and utilized as the only "center" in Ukraine to promote mutual understanding between the two countries and becoming "a bridge between Ukraine and Japan". Therefore, the overall goal is likely to be achieved through keeping the current performance and gaining more recognition in Ukraine.

Indicator 1: Number of People, Enterprise and Organization which lead to rise of benefits and efficiency by the matching activities through the UAJC

Followings are the examples actually realized.

- 3 companies have improved productivity by utilizing the knowledge gained through Business programs.
- A Japanese lecturer of Business programs was assigned as an executive of a Ukrainian company.
- A local city in Ukraine and JETRO office in Poland organized investment seminar. And a Japanese lecturer was assigned as an advisor for a Ukrainian institution.
- 2 Japanese companies participated in international trade exhibition through the intervention of the Project.

Indicator 2: Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries

Followings are the examples.

- A Japanese who voluntarily served as a lecturer of Mutual understanding promotion activities has been continuing closed friendship with Ukrainian associations and individuals for three years.
- A business forum lecturer attended music festival together with a Ukrainian musician.
- Ukrainian fans of Japanese comic book "Manga" sent a present to the Prime Minister of Japan, Mr. Aso (Foreign Minister at the time) when "Manga" comics were donated to UAJC from him.

191 Team - C

- A famous Ukrainian rock star joined the Project activities.

Indicator 3: Degree of recognition of UAJC

It is difficult to judge the level of the recognition of UAJC among Ukrainian. However, UAJC has been utilized by a quite large number of people of all ages. More than 28,000 persons participated in the various events conducted by the Project. Therefore, it can be said that a large number of Ukrainian people appreciate UAJC activities.

4-5 Sustainability

From operational, organizational, policy and financial view points, the sustainability of the Project will be secured as long as preserved sound revenues.

(1) Operational aspect

As already mentioned, Japanese language courses and Mutual understanding promotion activities were well operated and welcomed by the participants. On the other hand, Business programs were not functioned actively compared to the other programs and activities. The situation was changing in the last a few months. Nevertheless, it is needed to strengthen the capacity of planning, management, coordination, and communication of Business programs section.

(2) Organizational aspect

Administrative function of the Project is strong with a clear legal status and accumulated know-how to carry out the Project activities. Staff are allocated by the Project appropriately. Their capacity development has been carried out through OJT, and they have proper knowledge and skills for operating their activities. In addition, particularly in Japanese language courses and Mutual understanding promotion activities, the lecturers are employed appropriately by self-expenses of UAJC. However, to improve its sustainability, more involvement from KIP is desired.

(3) Policy aspect

Until last year, Ukraine has achieved high economic growth; however, due to the financial crisis, it is unpredictable the near future situation in Ukraine at this moment. Nevertheless, importance of "human resource development for economic growth especially on market-oriented economy in Ukraine", and also of "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects" will not change.

14 T. ... G. ...

(4) Financial aspect

Each activity collects a certain amount of fee, which contribute to increase revenue and coverage cost ratio. The revenue of the Project consists of donations from sponsor companies, incomes from Japanese language courses, Mutual understanding promotion activities, library membership, and Business programs. By keeping current performance, the financial sustainability on Japanese language courses and Mutual understanding promotion activities are expected to be secured. However, most of administrative and managerial staff are employed by the Project budget and the cost recovery ratio is around 30% as a whole. Therefore it still remains as a challenge of increasing revenue in order to achieve long-term financial sustainability.

5. Conclusion

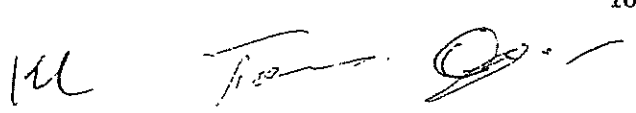
It has passed two and a half years since the commencement of the Project. The number of participants to Business programs, Japanese language courses, and Mutual understanding promotion activities amount to more than 30,000 since its inauguration. Also, the degree of satisfaction of participants is very high. This proves that the Project activities meet the needs of Ukrainian people. Actually, UAJC is the only institution where Ukrainian people can be exposed to Japanese culture. It can be concluded that in a relatively short cooperation term with small number of JICA experts, UAJC has been becoming a symbol of friendship between the two countries.

However, there is still some uncertainty in terms of the sustainability of the Project after the year 2011, and the both Ukrainian and Japanese sides should make the best efforts to sustain the current activities and develop them further. Especially, active involvement of KPI staff into the Project activities is desired.

Also, it is necessary to take all possible measures in order to complete the construction of the UAJC new building in 2009. Having a large space in the new building, the Project will be able to expand its activities and functions.

6. Recommendation

The Joint Evaluation Team recommends the following measures to be taken by Ukrainian and Japanese sides so that the Project can operate more effectively and efficiently toward the end of the Project and after the Project period.

Handwritten signatures and initials at the bottom of the page. On the left, there are the initials 'ML'. In the center, there is a signature that appears to be 'T. ...'. On the right, there is a circular stamp or signature.

6-1 Create new management structure in UAJC

Both sides understand the importance to create management structure in UAJC, including counterpart staff allocation by self-expenses of the UAJC revenue, in order to adapt the current management structure of the Project by the time of project completion.

6-2 Strengthening operation capacity of Business programs

Business programs could not fully offer attractive courses or events, and the number of participants and revenue were limited. The situation has been changing in the last a few months. Business programs organized several events, such as business courses, open seminars, consultation services, business forum & joint seminar, and industry-academia-government collaboration activities. Nevertheless, Business program section still needs to be strengthened its capacity of planning, management, coordination, and communication. Also, to make the Business programs sustainable, good cooperation with business related department of KPI should be constructed.

To solve this issue, dispatch of Business program management expert from Japan should be considered.

6-3 Construction of UAJC new building and provision of equipment

Both Ukrainian and Japanese sides should make the best efforts to complete the construction of UAJC new building in 2009. JICA will provide equipment necessary for the Project, when the building is completed.

6-4 Continuous discussions between Ukraine and Japan

With the recognition of the important role of UAJC in the context of bilateral relation between Ukraine and Japan, both Ukrainian and Japanese sides will continue active discussions in order to assure the further development of cooperation in various fields including the field of science and technology as well as to secure the eternal activities of UAJC.

the end of the Report

(Handwritten signatures)


List of Annexes

- Annex 1 Schedule of the Mid-Term Evaluation
- Annex 2-1 Project Design Matrix (PDM) for Mid-Term Evaluation (PDMe)
- Annex 2-2 Project Design Matrix (PDM) for Mid-Term Evaluation (Modification)
- Annex 3 Evaluation Grid to the Project
- Annex 4 Chronology of the Ukraine-Japan Center Project
- Annex 5 Dispatch of Japanese Experts
- Annex 6 Total Amount of Expenditure for equipment
- Annex 7 Training in Japan
- Annex 8 Assignment of the Counterpart Personnel and UAJC's staff by Ukrainian Side
- Annex 9 Achievement of Business Programs
- Annex 10 Achievement of Japanese Language Courses
- Annex 11 Achievement of Mutual Understanding Promotion Activities
- Annex 12 Organization Scheme of Project<Ukraine-Japan Center> and KPI<UAJC>
- Annex 13 List of Collaborative Activities with Organizations in Japan

Handwritten signatures and initials.

Annex 1 : Schedule of the Mid-Term Evaluation

	Date		Schedule
1	Nov. 18	Tue	• Arrival to Kiev (a Japanese member)
2	Nov. 19	Wed	• Meeting and interview with Japanese experts • Interview with project staff for business programs
3	Nov. 20	Thu	• Meeting and Interview with NTUU<KPI> Staff • Interview with ex-participants of business programs
4	Nov. 21	Fri	• Interview with staff for mutual understanding Promotion activities • Interview with Japanese culture lecturers
5	Nov. 22	Sat	• Data analysis and preparation of draft evaluation report • Observe Japanese Language Courses and Mutual Understanding Promotion Activities
6	Nov. 23	Sun	• Data analysis and preparation of draft evaluation report
7	Nov. 24	Mon	• Arrival to Kiev (1 Japanese members) • Interview with staff for Japanese Language Courses • Additional interview with Japanese experts and data collection
8	Nov.25	Tue	• Arrival to Kiev (2 Japanese members) • Interview with Japanese language teachers • Visit to Ministry of Economy, Ministry of Education and Science • Courtesy call to the Embassy of Japan
9	Nov. 26	Wed	• Interview with a Japanese language education assistant • Visit to company where ex-participants of Business Programs are working • Meeting with Embassy of Japan, Japanese experts and NTUU<KPI>
10	Nov. 27	Thu	• Interview with ex-participants of Japanese language courses • Discussion on draft evaluation report • Meeting with Embassy of Japan, Japanese experts • Preparation of a draft evaluation report
11	Nov. 28	Fri	• Preparation of a draft evaluation report • Discussion on draft evaluation report • Meeting with Embassy of Japan, Japanese experts
12	Nov. 29	Sat	• Participate in Mutual Understanding Promotion Activity
13	Nov. 30	Sun	• Finalization of evaluation report
14	Dec 1	Mon	• Finalization of evaluation report • Signing to the Minutes of Meeting • Report to the Embassy of Japan
15	Dec. 2	Tue	• Leave from Kiev (Japanese evaluation team)

104 Tom 

Annex2-1: Project Design Matrix (PDM) for Mid-Term Evaluation

Implementing Agency in Japan : JICA
 Implementing Agency Ukraine : NUT (KPI)
 Duration : 2006-2011

Narrative Summary		At Mid-term Evaluation	
(OVERALL GOAL)	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>1. UAJC is established for further promotion of economic growth of Ukraine and Japan-Ukraine cooperation in various areas.</p>	<p>1 Number of People, Enterprises & Organization which lead to rise of benefits and efficiency by the matching activities through the UAJC</p> <p>2 Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries</p> <p>3 Degree of recognition of UAJC</p>	<p>Questionnaire & Interview for UAJC users and participants such as recognition & reputation of the UAJC & performance of Enterprises</p> <p>UAJC Study (Post evaluation & Impact study on ex-participants)</p> <p>Record of the UAJC</p> <p>Questionnaire & Interview for Ukraine citizen</p>	<p>Political status of Ukraine stable.</p>
<p>(PROJECT PURPOSE)</p> <p>1. The system is developed to ensure that UAJC carries out both functions of "human resources development for economic growth in Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects," and UAJC exercises its responsibility.</p>	<p>1 -Satisfaction level of participants & lecturers in business program</p> <p>2 Satisfaction level of participants in Japanese language courses and seminars</p> <p>3 Number of cases which UAJC lead to facilitating roles on business promotion, trade/investment and academic exchange cooperation with universities & research institutes among the two countries through business program</p> <p>4 Number of Cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine</p> <p>5 Satisfaction and Understanding level of participants in mutual understanding activities between Japan and Ukraine</p>	<p>Questionnaire & Interview for UAJC users and participants (sample survey)</p> <p>Record of the UAJC</p> <p>Performance Sheet (ex-participant evaluation record)</p> <p>Records of JCC Meetings</p>	<p>Ukraine maintains the current policy to promote market economy.</p> <p>New UAJC Center building is constructed & opened.</p>
<p>(OUTPUTS)</p> <p>1. <Development of Human Resources through Business Program> Framework and know-how are developed to implement the business program that meets the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to that, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented.</p> <p>2. <Promotion of Japanese Language Education> Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote exchange between Ukraine and Japan on social, economic, academic and culture aspects is established.</p> <p>3. <Deepen Mutual Understanding among Ukraine & Japan> Framework and know-how for collection and interactive dissemination of information and knowledge on social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledges on above-mentioned area are implemented.</p> <p>4. <Functioning & Establishment of UAJC structure> With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC</p>	<p>1-1 Annual implementation plan for business program formulated</p> <p>1-2 Number of business program implemented</p> <p>1-3 Number of participants, satisfaction rate, management skills</p> <p>1-4 Number and qualification of local lecturers</p> <p>1-5 Number of program done in cooperation with Industrial association such as Chamber of Commerce and Industries</p> <p>1-6 Number of initiatives to provide assistance for external organizations</p> <p>1-7 Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p> <p>2-1 Annual implementation plan for Japanese Language formulated</p> <p>2-2 Number of Japanese language courses implemented</p> <p>2-3 Number of applicants & participants, satisfaction rate, management skills</p> <p>2-4 skills</p> <p>Number of regular meeting among Universities and Japanese language Teachers Associations</p> <p>2-5 Number of special events like Japanese language debate contest</p> <p>Number of textbook and teaching materials produced for Japanese</p> <p>3-1 Number of events, programs implemented for mutual understanding</p> <p>3-2 Number of participants, their satisfaction rate</p> <p>3-3 Number of materials & library books for introducing each country</p> <p>3-4 Number of UAJC membership and utilization for library & audio visual</p> <p>3-5 Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p> <p>4-1 Number and content of JCC meeting & regular staff meeting held</p> <p>4-2 Balance of Income and Expenditure of UAJC</p> <p>4-3 Assignment of counterparts and UAJC staff</p> <p>4-4 Operational level and management capacity of UAJC staff</p>	<p>Annual Implementation Plan</p> <p>Activity reports</p> <p>Questionnaire & Interview for UAJC users and participants (sample survey)</p> <p>Performance Sheet (ex-participant evaluation record)</p> <p>Record of the UAJC</p> <p>JICA Expert reports</p> <p>Organization chart</p> <p>Record of staff evaluation of capability of UAJC staff (self-evaluation and evaluation by manager)</p> <p>Data Sheet on balance of income and expenditure</p>	<p>NTUU(KPI) cooperate with the UAJC.</p> <p>UAJC keeps strong linkage & closely relationship with other relevant organization.</p>

(ACTIVITIES)	(INPUTS)	UKRAINE SIDE
<p>(Business Programs)</p> <p>1-1 Implement various kinds of courses (Production management and business diagnosis for-enterprises, Specific issues, Business diagnosis and advisory services, etc)</p> <p>1-2 Organize seminars on trade and investment</p> <p>1-3 Collect and exchange information on enterprises by preparing database of Ukrainian and Japanese enterprises interested in</p> <p>1-4 Develop mechanism for business matching</p> <p>1-5 Analyze an investment environment to make suggestions on improvement measures</p> <p>1-6 Provide information on Japanese system and current situation of cooperation among industry, academia, and government</p> <p>1-7 Conduct survey and analysis on the needs and current situation of cooperation among industry, academia, and government in</p> <p>1-8 Design a model for industry-academia government collaboration</p> <p>1-9 Organize forum for specific topics (including Information Technology, Preservation of Environment, Energy-Saving</p>	<p>JAPANESE SIDE</p> <p>1. Dispatch Japanese and third country Experts</p> <p>(1) Long term Experts Team leader (Project Director) Project Planning and Operation Expert on Business Course (if necesss) Expert on Japanese Language Course</p> <p>(2) Short-term Experts As necessary</p> <p>(3) Consultation Team As necessary</p> <p>2. Provision of machinery and equipment</p> <p>3. Counterparts training in Japan and/or the third country (fee)</p> <p>4. Budgetary allocation for local activity expense</p>	<p>1. Assignment of Personnel</p> <p>(1) Counterparts Director Business Program Manager (by mutual agreement) Japanese Language Course Manager (by mutual agreement) Mutual Understanding Program Manager</p> <p>(2) Administrative staff Accountant Security guard</p> <p>Other part-time staff will be assigned when necessary for the activities of UAJC</p> <p>2. Utilities for Electricity and Water (according to the regulations of NTUU(KPI))</p> <p>3. Provision facilities and buildings</p> <p>4. Running expense for implementations of UAJC</p> <p>6. Privileges, Exemptions and Benefits (according to Agreement 1)</p> <p>BY THE INCOME OF UAJC</p> <p>(1) Running expense for activities of UAJC (according to the regulations of NTUU(KPI))</p> <p>(2) Facility maintenance</p> <p>(3) Equipment maintenance</p> <p>(4) Communication expense</p> <p>(5) Other costs for the activities of UAJC</p>
<p>(Japanese Language Courses)</p> <p>2-1 Conduct Elementary, Intermediate and Advanced Japanese Language Courses</p> <p>2-2 Support Japanese language lecturers to improve their capabilities</p> <p>2-3 Provide, or support preparation of teaching materials</p> <p>2-4 Support for expanding and enhancing a network of Japanese language lecturers in Ukraine</p> <p>(Mutual Understanding Promotion Activities)</p> <p>3-1 Provide Ukrainian people with general information on Japan</p> <p>3-2 Develop mechanism to promote exchanges among people, universities, and local governments, and support the implementation of model exchange programs</p> <p>3-3 Develop mechanism to provide information on study in Japan, and organize seminars on Japanese universities admission for Ukrainian students</p> <p>(Effective Management)</p> <p>4-1 The Steering Committee will hold a meeting once a year</p> <p>4-2 Formulation of a long term operation plan (operation policy, fiscal plan, action policy)</p> <p>4-3 Establishment of various systems for the smooth operation of UAJC (development of various regulations, etc., related to personnel affairs, salaries, etc.)</p> <p>4-4 Monitoring of the operation plan</p>		

Annex 2-2: Project Design Matrix (PDM) for Mid-term Evaluation (Modification)

Implementing Agency in Japan : JICA
 Implementing Agency Ukraine : NTUU (KPI)
 Duration : 2006-2011

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>(OVERALL GOAL) 1. UAJC is established for further promotion of economic growth of Ukraine and Japan-Ukraine cooperation in various areas.</p>	<p>1 Number of Events, Enterprise & Organization which lead to raise of benefits and efficiency by the matching activities through the UAJC 2 Number of cases which lead to cooperation/exchange program among the citizens between the two countries 3 Degree of recognition of UAJC</p>	<p>Questionnaire & Interview for UAJC users and participants such as recognition & reputation of the UAJC & performance of Enterprise UAJC Study (Post evaluation & Impact study on ex-participants) Record of the UAJC Questionnaire & Interview for Ukraine citizen</p>	<p>Political status of Ukraine stable.</p>
<p>(PROJECT PURPOSE) 1. The system is developed to ensure that UAJC carries out both functions of "human resource development for economic growth in Ukraine" and "promotion of mutual understanding and cooperation between Ukraine and Japan in social, economic, academic and cultural aspects," and UAJC exercises its responsibility.</p>	<p>1 Satisfaction level of participants & lecturers in business program courses and seminars 2 Satisfaction level of participants in Japanese language courses and seminars 3 Number of Enterprise which lead to request in business improvement for attending UAJC business courses 4 Number of cases which UAJC lead to facilitating roles on business promotion, trade investment and academic exchange cooperation with universities & research institutes among the two countries through business program 5 Number of cases which lead to supporting activities for the Japanese language lecturers network in Ukraine 6 Satisfaction and Understanding level of participants in mutual understanding activities between Japan and Ukraine</p>	<p>Questionnaire & Interview for UAJC users and participants (sample survey) Record of the UAJC Performance Sheet (ex-ante/post-ante evaluation record) Records of JACC Meetings Questionnaire for UAJC users and participants--Interview</p>	<p>Ukraine maintains the current policy to promote market economy. New UAJC Center buildings constructed & opened.</p>
<p>(OUTPUTS) 1 -> Development of Human Resources through Business Program Framework and know-how are developed to implement the business program that meets the needs of Ukrainian universities and industries. In addition to that, certain parts of the program to develop human resources serving economic growth in Ukraine are implemented. 2 -> Promotion of Japanese Language Education Framework of key center of Japanese Language Education in Ukraine to promote exchange between Ukraine and Japan on social, economic, academic and culture aspects is established. 3 -> Deepen Mutual Understanding among Ukraine & Japan Framework and know-how for collection and interactive dissemination of information and knowledge on social, economic, academic and cultural aspects of Ukraine and Japan are developed. In addition to it, the interactive transmission and exchange of information and knowledge on above-mentioned area are implemented. 4 -> Functioning & Establishment of UAJC structure With cooperation and support of parties concerned both in Ukraine and Japan, structural basis is set up for sustainable operation of UAJC</p>	<p>1-1 Annual implementation plan for business program formulated 1-2 Number of business program implemented 1-3 Number of participants, satisfaction rate, management skills 1-4 Number and qualification of local lecturers 1-5 Number of program done in cooperation with industrial association such as Chamber of Commerce and Industries 1-6 Number of materials provided assistance for external organizations 1-7 Number of requests for assistance and incomes from external organizations for holding various activities 2-1 Annual implementation plan for Japanese Language formulated 2-2 Number of Japanese language courses implemented 2-3 Number of applicants & participants, satisfaction rate, management skills 2-4 Number of regular meetings among lecturers from Universities and Japanese language Teachers Associations 2-5 Number of special events like Japanese language debate contest 2-6 Number of textbook and teaching materials produced for Japanese language courses 3-1 Number of events, programs implemented for mutual understanding 3-2 Number of participants, their satisfaction rate 3-3 Number of materials & library books for introducing each country 3-4 Number of UAJC membership and utilization for library & audio visual 3-5 Number of requests for assistance and insights from external organizations for holding various activities 4-1 Number and content of JACC meeting & regular staff meetings held 4-2 Balance of income and expenditure of UAJC 4-3 Assessment of competence and UAJC staff 4-4 Operational level and management capability of UAJC staff Number and type of courses provide to promote mutual understanding between Number of materials to provide assistance to external organizations Number of requests for assistance and inquiries from external organizations for holding various activities</p>	<p>Annual Implementation Plan Activity reports Questionnaire & Interview for UAJC users and participants (sample survey) Performance Sheet (ex-ante/post-ante evaluation record) Record of the UAJC JICA Expend reports Organization chart Record of self evaluation of capability of UAJC staff (self-evaluation and evaluation by manager) Data Sheet on balance of income and expenditures</p>	<p>NTUU(KPI) cooperate with the UAJC. UAJC keeps strong linkages & closely relationship with other relevant organizations.</p>

111

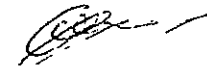
Tom

Go

GA

111

Tian




(ACTIVITIES)	(INPUTS)	
<p>4.1 4-1 The Selection Committee will hold a meeting once a year</p> <p>4.2 4-2 Formulation of a long-term operation plan (operation policy, fiscal plan, action policy)</p> <p>4.3 4-3 Establishment of various systems for the smooth operation of UAJC (development of various regulations, etc., related to personnel affairs, salaries, etc.)</p> <p>4.4 4-4 Monitoring of the operation plan</p>	<p>JAPANESE SIDE</p> <p>1. Dispatch Japanese and third country Experts</p> <p>(1) Long-term Experts</p> <p>Team leader (Project Director) (1st-1st-1st)</p> <p>Project Planning and Operation</p> <p>Expert on Business Course (if necessary)</p> <p>Expert on Japanese Language Course</p> <p>(2) Short-term Experts As necessary</p> <p>(3) Consultation Team As necessary</p>	<p>UKRAINE SIDE</p> <p>1. Assignment of Personnel</p> <p>(1) Counterparts</p> <p>Director Business Program Manager (by mutual agreement) Japanese Language Course Manager (by mutual agreement) Mutual Understanding Program Manager</p> <p>(2) Administrative staff</p> <p>Accountant Security guard Other part-time staff will be assigned when necessary for the activities of UAJC</p>
<p>1.1 1-1 Implement various kinds of courses (w/ production management and business diagnosis for small and medium-sized enterprises, specific issues, business diagnosis and advisory services, etc.)</p> <p>2-1 2-1 Implement a course focusing on specific issues</p> <p>3-1 3-1 Implement business diagnostic and advisory services</p> <p>Support for set-up of an association of business course alumni</p>	<p>2. Utilities for Electricity and Water (according to the regulations of NTUU(KPI))</p> <p>3. Provision facilities and buildings</p> <p>4. Running expense for implementations of UAJC</p> <p>5. Privileges, Exemptions and Benefits (according to Agreement 1)</p>	<p>2. Utilities for Electricity and Water (according to the regulations of NTUU(KPI))</p> <p>3. Provision facilities and buildings</p> <p>4. Running expense for implementations of UAJC</p> <p>5. Privileges, Exemptions and Benefits (according to Agreement 1)</p>
<p>1.2 3-1 Organize seminars on trade and investment</p> <p>1.3 3-2 Collect and exchange information on enterprises by preparing database of Ukrainian and Japanese enterprises interested in foreign collaboration</p> <p>1.4 3-3 Develop mechanism for business matching</p> <p>1.5 3-4 Analyze an investment environment to make suggestions on improvement measures</p>	<p>BY THE INCOME OF UAJC</p> <p>(1) Running expense for activities of UAJC (according to the regulations of NTUU(KPI))</p> <p>(2) Facility maintenance</p> <p>(3) Equipment maintenance</p> <p>(4) Communication expense</p> <p>(5) Other costs for the activities of UAJC</p>	<p>BY THE INCOME OF UAJC</p> <p>(1) Running expense for activities of UAJC (according to the regulations of NTUU(KPI))</p> <p>(2) Facility maintenance</p> <p>(3) Equipment maintenance</p> <p>(4) Communication expense</p> <p>(5) Other costs for the activities of UAJC</p>
<p>1.6 4-1 Provide information on Japanese system and current situation of cooperation among industry, academia, and government</p> <p>1.7 4-2 Conduct survey and analysis on the needs and current situation of cooperation among industry, academia, and government in Ukraine</p> <p>1.8 4-3 Design a model for industry-academia-government collaboration</p>		
<p>2.1 5-1 Conduct Elementary, Intermediate and Advanced Japanese Language Courses</p> <p>3.2 5-2 Support Japanese language lecturers to improve their capabilities</p> <p>3.3 5-3 Provide, or support preparation of teaching materials</p> <p>3.4 5-4 Support for expanding and enhancing a network of Japanese language lecturers in Ukraine</p>		
<p>3.1 6-1 Provide Ukrainian people with general information on Japan</p> <p>3.2 6-2 Develop mechanism to promote exchanges among people, universities, and local governments, and support the implementation of model exchange programs</p> <p>3.3 6-3 Develop mechanism to provide information on study in Japan, and organize seminars on Japanese universities admission for Ukrainian students</p> <p>3.4 6-4 Organize forum for specific topics (including Information Technology, Preservation of Environment, Energy-Saving Technology, etc.)</p>		

Annex3:Evaluation Grid for the Project

Nov. 2008

Criteria	Main Question	Sub Question	Points of Evaluation
R e l e v a n c e	Conformity of the Project goal to the National Policy of Ukraine	• Is the overall goal conformity with the national policy and/or development needs of Ukraine?	• Conformity and alignment between overall goal and Ukraine government policy • Was the Project purpose understood by stakeholders?
	Conformity with needs of target group & appropriateness of its selection	• Is the Project conformity with needs of target groups ? • Are needs of target groups still high ?	• Relevance of project selection and cooperation approach • Focusing of target groups • Alignment between target groups and their needs
	Conformity to ODA policy of Japan	• Is selection of implementation organization appropriate ? • Does the contents of the Project conformity with Japanese and/or JICA's priority assistance subjects ?	• Relation between NTUU/KPI and the Project in Ukraine, and concept of the Projects • Do the Project meet the KPI needs ? • Aid policy at the beginning of the Project and up-dated one • Alignment to Japanese and JICA's priority assistance subjects
	Other information related to Relevance	• Is the Project conformity with the relevance at the stage of characteristics/perspective in Ukraine? • Is the Project enough relevant to development stage of Ukraine ?	• Fact finding and confirmation of appropriateness
	Appropriateness of project outputs to achieve the Project Purpose.	• Could beneficiaries/target groups receive appropriate service provided by the Project ? * Business program = 1) Business courses, 2) Promotion of trade and investment, 3) Industry-academia-government collaboration	• Confirmation of achievement and logicity (to be verified by each activity and management system) <Management system> Effectiveness of operation and management system <Business program> Evaluation from 3 parts of the program based on Planning, execution and management system /Satisfaction level of participants /Business opportunity / Future perspectives <Japanese language courses> Numbers of courses & participants / Response from participants' needs / Level of revenue / Enhancement of Japanese education <Mutual understanding promotion activities> Effectiveness of events and activities /Number and varieties of Events and activities / Level of revenue / Library function / Study to Japan / Evaluation of citizen
Factors promoting and hampering to achieve the Project purpose	• What kind of factors exist to promote and/or hamper to achieve purpose of the Project ?	• Clear understanding & direction of self-sustainability by stakeholders / Accurate preparation prior to the Project & Secure legal matters • Develop management style and system (Project staff motivation & responsibility)	
Change and influence of outer condition	• Did changes of outer condition occur ? • Were countermeasures to the changes appropriate if there occurred ?	• Ownership and participation by KPI as a counterpart of the Project (Define the role and providing necessary human resources) • Delay of Center building construction	• Support from government / Progress of market economy & influence on financial crisis

E
f
f
e
c
t
i
v
e
n
e
s
s

Annex3:Evaluation Grid for the Project

<p>Appropriateness of each input / Achievement of outputs compared to inputs</p>	<p>Quantity and quality of physical/financial inputs • Utilization of inputs <Business program></p>	<p>Quantity and quality (Evaluation of total cost, unit cost, cost share) • Timing of each inputs • Ratio of Project revenue and expense</p>
<p>E f f i c i e n c y</p>	<p><Japanese language courses></p>	<p>Quality of inputs (proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs) • Timing of dispatch • Quantity (number, duration) • Outputs and effectiveness to participate C/P training (proficiency, selection process, timing, duration) • Allocation and capacity development for C/Ps and staff (training, OJT)</p>
<p>Efficiency of management for the Project</p>	<p><Mutual understanding promotion activities></p>	<p>Quality of inputs (proficiency, communication skill, capacity to technical transfer, capacity of plan and operation, alignment to needs) • Subjects and coverage on the exchange activities • Quantity (numbers of activities and participants) • Contents of provided information (provided material/text) • Timing of inputs</p>
<p>Impact by implementing the Project / other indirect impact</p>	<p>Were inputs appropriately managed and operated to achieve purpose of the Project ? <Business program> Direct/indirect impact to economies: Does enhancement of participants' knowledge and capacity contribute to improve performance of companies ? <Japanese language courses> Direct/indirect impact to society: Did participation to the courses lead to enhance Japanese capability, understanding and interest to Japan ? <Mutual understanding promotion activities> Direct/indirect impact to society: Did participation to the courses lead to enhance understanding and interest to Japan ?</p>	<p>Project planning & the timing of implementation • Frequency of internal meeting in the Project • JCC and discussed subjects • Team management and its system • How participants were changed their business after taking courses? (entrepreneurship, business opportunity, etc)</p>
<p>I m p a c t</p>	<p>Are there any unexpected positive/negative impact ?</p>	<p>How participants were changed their study and/or business after taking courses • Change of enthusiasm for studying Japanese language • Influence to other organizations including Japanese language section in Ukraine • How did exchange programs give impact to all participants? (enhancing presence/curiosity/understanding of "Japan" in Ukraine) • Information providing from the Project (how do they appeal and/or accept by mass media) • Are there any influence through receiving "Study tour" ? • Are there any unexpected positive/negative impact ?</p>

(1) Management system and organization	
Sustainability of activities	<ul style="list-style-type: none"> •What kinds of conditions are required to keep sustainability of UAJC's activities ?
Future strategy of Japanese side	<ul style="list-style-type: none"> •Organizational structure (strengthen management structure & human resource development including localization, long-term Expert attachment, courses management, budget and account system, personnel matters in the Project) •Future activity plan (review business courses and determine necessary plan/action with business matching, forecast Japanese language overview with sustainable structure) •Ownership of Ukraine side (Active participation to the Project)
Future strategy of Japanese side	<ul style="list-style-type: none"> •Which direction Japan Center project is going to be taken ? •Perspectives after completion of the Project (at 2011) (vision, activities, management plan, re-defining cost sharing, monitoring and evaluation, indicators for evaluation)
(2) Know-how & Technical transfer (human resource development)	
Measures to strengthen result of transferred technology and know-how	<ul style="list-style-type: none"> •How to secure necessary staffs and lecturers? •How techniques and know-how are disseminating to counterparts, staffs, and lecturers ? •What courses shall be provided & how do such training programs sustained/developed ? •Provision of the information and exchange program related to universities of Japan and Japanese enterprises •Writing & Editing of Japanese language textbook
Enhancing knowledge of C/Ps and staff	<ul style="list-style-type: none"> •Follow-up after training •Provision of the information and placement
(3) Financial matters	
Financial situation of UAJC	<ul style="list-style-type: none"> •How will be financial condition of UAJC ? •The Project's financial situation (Transparency of management) •NTUU's opinion and possibility to secure budget •Securing financial resources from various resources

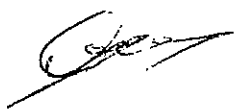
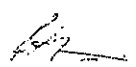
S u s t a i n a b i l i t y

Annex4: Chronology of the Ukraine-Japan Center Project

Before the Commencement of the Project	January 1999	Opening Ceremony of the former "Japan Center" by the "Supporting Committee" (At the National University of Kyiv - Mohyla Academy)
	March 2003	Closure of the center with termination of the "Supporting Committee"
	April 2003	Dispatch of Mr.Kawanishi, Project Formulation Advisor, from JICA
	May 2003	Inauguration of "Ukraine-Japan Center" at National Technical University of Ukraine, "Kyiv Polytechnic Institute (KPI)" (until March 2006)
	June 2004	Conclusion of "The Agreement on Technical Cooperation and Grant Assistance" between the Government of Ukraine and the Government of Japan
	August 2004	Adoption of a technical cooperation project, "Ukraine-Japan Center", by the Ministry of Foreign Affairs of Japan
	October 2004	Dispatch of Ex-ante Evaluation Team
	May 2005	Dispatch of Implementation Consultation Study Team (I)
	October 2005	Commemorative Seminar with the subject of "Japan's Experience in Cooperation among the Industrial, Research and Public Sectors" at Kyiv Polytechnic Institute and Discussion on R/D (Record of Discussion) of the project 20/12/2005 - 19/1/2009, [Japanese Expert]: Ms.Tomoe Tamiya
	After the Commencement of the Project	May 2006
22 May 2006		Ceremony of the signing of the R/D on "JICA Project Ukraine-Japan Center" (at Kyiv Polytechnic Institute) 10/07/2006 - 11/07/2008, [Japanese Expert], Ms.Noriko Morito
September 2006		"Japan Months in Ukraine" (for two months) Visit by a Deputy of Verkhovna Rada (the Parliament) of Ukraine, Mr. Dzhemilev, and other dignitaries 07/03/2007 - 21/03/2007, Training in Japan, Participants: Mr. Boris A. Tsuiganok and Ms. Kseniya A. Kravtsova
June - July 2007		Events to commemorate the second anniversary of the Project (Implementation of a forum by Ambassador Mr.Mabuchi, a paid Business course and Events for Mutual understanding)
11 June 2007		First meeting of the Joint Coordination Committee (JCC)
September 2007		Dispatch of Consultation Study Team (I)
December 2007		Visit by Mr. A. Kozymenko, Deputy Finance Minister 17/01/2007 - 16/07/2007, [Japanese Expert], Ms.Reiko Nakano
		17/2/2007 - 1/3/2007, Training in Japan, Participant: Ms. Nadiia Iazvinska
March 2008		Visit by the wife of the President of Ukraine, Mrs. Kateryna Yushchenko
June 2008		Dispatch of JICA Consultation Study Team (II)
13 June 2008		Second meeting of JCC
June - July 2008		Events to commemorate the third anniversary of the project 29/06/2008 - 28/06/2010, [Japanese Expert], Mr.Atsuhiro Ohara
November 2008		Dispatch of Mid-Term Evaluation Team

114

1/10/08 →

Annex 5: Dispatch of Japanese Experts

● Long-term Experts

	Name	Official Position	Duration of dispatch
1	Ms. Tomoe Tamiya	Team Leader/ Project Director	20/12/2005-19/1/2009
2	Ms. Noriko Morito	Manager of Japanese Language course	01/07/2006-11/07/2008
3	Mr. Atsuhiko Ohara	Manager of Japanese Language course	29/06/2008-28/06/2010
4	Ms. Reiko Nakano	Project Coordinator / Support for Business Programs Management	17/01/2008-16/07/2008

TOTAL 4

● Short-term Experts

<2008>

Business Program			
	Name	Subject	Duration of dispatch
1	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	18/06/2008-29/06/2008
2	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	19/09/2008-14/11/2008

<2007>

Business Programs			
	Name	Subject	Duration of dispatch
1	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	20/06/2007-25/06/2007
2	Mr. Masahiko Tamai	Business course management	02/07/2007-13/11/2007
3	Mr. Shinichiro Kawaguchi	Human Resources Development & Management	30/10/2007-15/11/2007

<2006>

Business Programs			
	name	subject	Duration of dispatch
1	Mr. Kimihiko Kato	Business Program Planning	24/10/2006-22/12/2006
2	Mr. Takeo Kawageo	SME Promotion	13/11/2006-22/12/2006
3	Mr. Haruki Shimizu	Business course management	05/03/2007-26/03/2007
4	Mr. Yuzuru Shimamura	Production Management	17/03/2007-26/03/2007

TOTAL 9

144 *[Handwritten signature]* *[Handwritten signature]* *[Handwritten signature]*

●Project consultation team

<2008>

Business Forums & Joint Seminars			
1	Mr. Shigeru Mizuno	Panasonic and UAJC Joint Seminar	15/10/2008-20/10/2008
Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration			
2	Mr. Kazuhiro Chiba	Industry-Academia-Government Collaboration	27/09/2008-05/10/2008
3	Mr. Shinichi Hosaka	Industry-Academia-Government Collaboration(Role of Coordinator)	27/09/2008-05/10/2008

<2007>

Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration			
1	Mr. Masayuki Kondo	Industry-Academia-Government Collaboration(Japanese policy)	17/09/2007-22/09/2007
2	Mr. Kawabata Kazuaki	Industry-Academia-Government Collaboration	17/09/2007-22/09/2007

<2006>

Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration			
1	Mr. Morihiro Kurushima	Industry-Academia-Government Collaboration(Energy-Saving)	02/03/2006-07/03/2006
2	Mr. Masayuki Kondo	Industry-Academia-Government Collaboration(Japanese policy)	18/06/2006-02/07/2006
3	Mr. Hosono Mitsuaki	Industry-Academia-Government Collaboration	18/06/2006-24/06/2006

TOTAL 8

M *F* *C* *E*

**Annex 6 : Total amount of expenditure for equipment
(January 2006- October 2008)**

US\$176,582.07

*The table shows Equipment for Project and Equipment for Expert only. Other items equal to or less than USD200 are not calculated on this table.

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	UnitPrice(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation
2005	B6-02-FU001	Floor tatami mat set without drawer(big)	B6-02-FU001-1~10	163.00	10	1,630.00	Library, Front of Office, Storage
2005	B6-02-FU002	Floor type tatami mat set with drawer (big)	B6-02-FU002-1~2	234.00	2	468.00	Library, Storage
2005	B6-02-FU003	Floor type tatami mat set (small)	B6-02-FU003-1~4	75.00	4	300.00	Library
2005	B6-02-OT001	Japanese national flag (90*135)		40.00	1	40.00	Shelf No.4 in Seminar Room
2005	B6-02-OT002	Japanese national flag (120*180)		102.00	1	102.00	Shelf No.4 in Seminar Room
2005	B6-02-OT003	Ukrainian national flag (90*135)		79.00	1	79.00	Shelf No.4 in Seminar Room
2005	B6-02-OT004	Ribbon for ceremony (red, white, pink)	B6-02-OT004-1~6	5.00	6	30.00	Storage
2005	B6-02-OT005	Red and white curtain	B6-02-OT005-1~6	106.00	6	636.00	Shelf No.4 in Seminar Room
2005	B6-02-OT006	Ribbon for tape cutting		13.00	1	13.00	Storage
2005	B6-02-IK001	Instrument for floor arrangement:KYOUTAKENAGOMI		88.00	1	88.00	Shelf No.9 in Seminar Room
2005	B6-02-IK002	Instrument for flower arrangement:SUIHATSU		105.00	1	105.00	Shelf in Seminar Room
2005	B2-06-IK003	Instruments for flower arrangement:COLOR BOARD/OVAL	B2-06-IK003-1~2	38.00	2	76.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-IK004	Instrument for flower arrangement		70.00	1	70.00	none
2005	B6-02-IK005	Instrument for flower arrangement		52.00	1	52.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-IK006	Instrument for flower arrangement		67.00	1	67.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-OT007	Paper hanger	B6-02-OT007-1~2	445.00	2	890.00	Library
2005	B6-02-FI001	Japanese decoration folding fan 9.5 SUN :GUNTSURU		62.00	1	62.00	Library
2005	B6-02-FI002	Japanese decoration folding fan 9.5 SUN :MURASAKI		62.00	1	62.00	Library
2005	B6-02-FI003	Japanese decoration folding fan 9.5 SUN :SAKURA PINKU		62.00	1	62.00	Library
2005	B6-02-FI004	Japanese decoration folding fan :9.5SUN :MATSU TANKINJI		62.00	1	62.00	Library
2005	B6-02-FI005	Japanese decoration folding fan 5 SUN :KIKYOU AKIKUSA		24.00	1	24.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI006	Japanese decoration folding fan 5 SUN :AKIKUSA		24.00	1	24.00	Library
2005	B6-02-FI007	Japanese decoration folding fan 5 SUN : SAKURA		24.00	1	24.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI008	Japanese decoration folding fan 5 SUN :HANAGURUMA		24.00	1	24.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI009	Japanese doll No.10 : FUJIMUSUME		173.00	1	173.00	Library

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	UnitPrice(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation
2005	B6-02-FI010	Japanese doll No.10 : TSUTSUMI		168.00	1	168.00	Library
2005	B6-02-FI011	Japanese doll No.8 : KINSAI KATANUGI		335.00	1	335.00	Library
2005	B6-02-FI012	Japanese doll No.8 : YUZEN KATANUGI		335.00	1	335.00	Library
2005	B6-02-FI013	Japanese doll No.6 : OGI Pink		70.00	1	70.00	Library
2005	B6-02-FI014	Japanese doll No.6 : FUJIMUSUME		70.00	1	70.00	Library
2005	B6-02-FI015	Japanese doll No.6 : YAEGAKI		70.00	1	70.00	Library
2005	B6-02-FI016	Japanese NOH doll : KAGAMI SHISHI		160.00	1	160.00	Library
2005	B6-02-FI017	Battledore No.18 : FURISODE		458.00	1	458.00	Library
2005	B6-02-FI018	Battledore No.18 : OSHE		338.00	1	338.00	Library
2005	B6-02-FI019	Shop curtain : SANNIN BUJIN		45.00	1	45.00	Library
2005	B6-02-FI020	Shop curtain : NAMIURA FUJI		45.00	1	45.00	Reception
2005	B6-02-FI021	Dolls for the Girls' Festival decoration set		1,620.00	1	1,620.00	Storage
2005	B6-02-FI022	Samurai dolls for the Boys' Festival		1,830.00	1	1,830.00	Storage
2005	B6-02-FI023	Calendar : SUMO		3.00	1	3.00	none
2005	B6-02-FI024	Calendar : KABUKI		30.00	1	30.00	none
2005	B6-02-FI025	Calendar : TSUBONIWA		56.00	1	56.00	Library
2005	B6-02-FI026	Article for new year: RICE CAKE		42.00	1	42.00	none
2005	B6-02-FI027	Article for new year: Decoration		74.00	1	74.00	Library
2005	B6-02-FI028	Article for new year: 4 Japanese Kites	B6-02-FI028-1~4	10.00	4	40.00	Storage
2005	B6-02-SA001	Ceremonial crepecloth for men (Tea Cerem.)	B6-02-SA001~5	7.50	5	37.50	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA002	Ceremonial crepecloth for women (Tea Cerem.)	B6-02-SA002-1~5	7.50	5	37.50	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA003	RIKYU fan for men (Tea Cerem.)	B6-02-SA003-1~5	13.50	5	67.50	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA004	KAGETSU fan for women (Tea Cerem.)	B6-02-SA004-1~5	7.50	5	37.50	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA005	Tray YAMAMICHI BON set(Tea Cerem.)	B6-02-SA005-1~3	73.00	3	219.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA006	Canister from YAMAMICHI BON set(Tea Cerem.)	B6-02-SA006-1~3	0.00	3	0.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA007	Tea whisk from YAMAMICHI BON set(Tea Cerem.)		0.00	3	0.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA008	Tea spoon from YAMAMICHI BON set(Tea Cerem.)		0.00	3	0.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA009	KATAMA CHAKIN from YAMAMICHI BON set(Tea Cerem.)		0.00	3	0.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA010	Teacup TABANENOSHI (Tea Cerem.)		22.00	1	22.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA011	Teacup: AKAE (Tea Cerem.)		16.00	1	16.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA012	Teacup: SHIKI NO HANA (Tea Cerem.)		22.00	1	22.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA013	KENSUI (Tea Cerem.)	B6-02-SA013-1~3	17.00	1	17.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02 SA014	Iron kettle (Tea Cerem.)	B6-02 SA014-1~2	360.00	2	720.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA015	Sweets dish (Tea Cerem.)		30.00	1	30.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA016	Sweets dish (Tea Cerem.)		30.00	1	30.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA017	Pocket paer (Tea Cerem.)	B6-02-SA017-1~2	13.00	2	26.00	Shelf in Seminar Room

lan To →

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	Unit Price(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation
2005	B6-02-SA018	Silk Wrapping cloth(Tea Cerem.)	B6-02-SA018-1~5	8.00	5	40.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-SA019	Powdered green tea(Tea Cerem.)	B6-02-SA019-1~3	60.00	3	180.00	Office
2005	B6-02-CA001	Calligraphy tools set KURETAKE red	B6-02-CA001~10	29.00	10	290.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-CA002	Calligraphy tools set KURETAKE black	B6-02-CA002-1~10	29.00	10	290.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-CA003	Japanese writing paper set for calligraphy	B6-02-CA003-1~2	31.50	2	63.00	Office
2005	B6-02-CA004	Japanese writing paper for calligraphy	B6-02-CA004-1~5	27.00	5	135.00	none
2005	B6-02-OT008	Festive short coat	B6-02-OT008-1~10	28.00	10	280.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-OT009	Festive short coat for children	B6-02-OT009-1~10	16.00	10	160.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-OT010	YUKATA 10items set for women	B6-02-OT010-1~6	242.00	6	1,452.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI029	Carp streamer for garden		520.00	1	520.00	Storage
2005	B6-02-FI030	Carp streamer for veranda		25.00	1	25.00	Storage
2005	B6-02-FI031	Toy set for the New Year		140.00	1	140.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI032	Bamboo dragonfly red	B6-02-FI032-1~10	0.50	10	5.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI033	Bamboo dragonfly green	B6-02-FI033-1~10	0.50	10	5.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI034	No.24 Festival fan	B6-02-FI034-1~10	1.50	10	15.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI035	Festive fan (small)	B6-02-FI035-1~10	1.30	10	13.00	Shelf in Seminar Room
2005	B6-02-FI036	Beckoning cat KOBAN No.10		66.00	1	66.00	Library
2005	B6-02-FI037	Colored paper set (large)	B6-02-FI037-1~5	5.00	5	25.00	none
2005	B6-02-FI038	Decoration dish: TSUTSUMI TSURU		178.00	1	178.00	Library
2005	B6-02-FI039	Decoration dish: IWA KACYO		106.00	1	106.00	Library
2005	B6-02-FI040	Decoration dish: HANA		165.00	1	165.00	Library
2005	B6-02-FI041	Decoration dish: TATSU		265.00	1	265.00	Library
2005	B6-02-FI042	Decoration dish: NOSHI		290.00	1	290.00	Library
2005	C6-01-OA001	Notebook computer HP		759.21	1	759.21	Library
2005	C6-01-OT001	Digital camera Cannon		382.24	1	382.24	Library
2005	C6-01-OA002	Printer HP		434.48	1	434.48	Library
2005	C6-01-OT002	Microwave SAMSUNG		196.40	1	196.40	Office
2005	C6-03-OT003	Micro component system JVC		180.69	1	180.69	Library
2005	C6-03-OT004	Nameplate (Ukraine-Japan Center)		165.35	1	165.35	Front of Library
2005	C6-03-OA003	Computer (System Block/Monitor)	C6-03-OA003-1~4	2,544.14	4	10,176.57	Library
2005	C6-03-OT005	Burglarproof gate set		2,987.98	1	2,987.98	Library
2005	C6-03-OT006	Visiting Counter		205.94	1	205.94	Library
2005	C6-03-OT007	Mini ATC		317.47	1	317.47	Reception
2005	C6-03-OT008	Car / Hundai		24,537.95	1	24,537.95	Garage
2005	C6-03-OA004	Copy Machine		16,353.86	1	16,353.86	Reception
2006	C6-06-OT009	Mobile phone SAMSUNG		182.97	1	182.97	none

Handwritten signatures and initials at the bottom of the page.

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	Unit Price(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation
2006	C6-06-OA005	Notebook computer'	C6-06-OA005-1~7	661.19	7	4,628.32	Office
2006	C6-06-SO001	Norton Antivirus 2006		54.29	1	54.29	Reception
2006	C6-06-SO002	MS windows XP home edition OEM Rus.	C6-06-SO002-1~7	74.85	7	523.96	Reception
2006	C6-07-SO003	Corel Draw Program		4.95	1	4.95	Reception
2006	C6-07-SO004	MS Office soft		9.90	1	9.90	Reception
2006	C6-07-SO005	Norton Antivirus soft 2006	C6-07-SO005-1~2	54.29	2	108.59	Reception
2006	C6-07-SO006	Norton Antivirus soft 2006	C6-07-SO006-1~2	59.64	2	119.29	Reception
2006	C6-07-OT010	Projector BENQ		1,422.77	1	1,422.77	Storage
2006	C6-02-FU001	Sofa Ultra (reception)		493.47	2	986.93	Reception
2006	C6-07-FU002	Shelf for a toilette		240.00	1	240.00	Toilet
2006	C6-10-OT011	DVD recorder		205.54	1	205.54	Administrative Office
2006	C6-10-OT012	SHARP TV		555.31	1	555.31	Library
2006	C6-11-OT013	TV TOSHIBA		1,001.24	1	1,001.24	Sminar Room
2006	C6-11-OA006	Notebook computer	C6-11-OA006-1~2	632.08	2	1,264.16	Administrative Room
2006	C6-11-OT014	Microphone	C6-11-OA014-1~2	404.75	2	809.50	Storage
2006	C6-12-OT015	Speaker, Amplifier, Cables		760.83	1	760.83	Seminar Room
2006	C7-01-SO007	ABBY Lingvo 12 Three Languages	C7-01-SO007-1~2	19.25	2	38.50	Reception
2006	C7-01-SO008	Norton Antivirus soft 2007		54.26	1	54.26	Reception
2006	C7-01-SO009	Norton Antivirus soft 2007	C7-01-SO009-1~3	45.24	3	135.73	Reception
2006	C7-02-OT016	Microphone(for hand), Microphone stand, Feedback destroyer, Cable		1,002.66	1	1,002.66	Seminar Room
2006	C7-02-OT017	Canon Digital IXUS65, Memory Card		328.91	1	328.91	Administrative Room
2006	C7-02-OT018	KIMONO FURISODE Set		964.00	1	964.00	Shelf in Seminar Room
2006	C7-02-OT019	KIMONO Set (for male and female)		858.00	1	858.00	Shelf in Seminar Room
2006	C7-02-OT020	MIZUHIKI Set		437.00	1	437.00	Administrative Room
2006	C7-02-OT021	DVD Recorder	C7-02-OT021-1~2	488.54	2	977.09	Administrative Office
2006	C6-11-OA007	Notebook Computer		631.75	1	631.75	Administrative Office
2006	C7-02-OT022	Sony HDD Handycam		807.47	2	1,614.94	Administrative Office
2006	A7-03-OT023	PLAZMA TV		8,801.98	1	8,801.98	Seminar Room
2006	C7-03-OT024	Plazma TV Stand		402.38	1	402.38	Seminar Room
2006	A7-03-OT025	Colour Copy Machine		5,774.06	1	5,774.06	Administrative Office
2006	A7-03-OT026	Projector, Screen, Cables		7,143.76	1	7,143.76	Seminar Room
2006	A7-03-OT027	Furniture (Drawer)j	A7-03-OT027-1~4	499.41	4	1,997.62	Office
2006	A7-03-OA008	Notebook computer		3,424.28	1	3,424.28	Administrative Office
2006	C7-03-OT028	Furniture (Desk)	C7-03-OT028-1~3	762.38	3	2,287.13	Office
2006	B6-10-SA020	Electric Heater styled FURO		483.00	1	483.00	Shelf in Seminar Room

191
 100-
 2007
 100

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	Unit Price(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation
2006	B6-10-SA021	CHAIRE1		65.20	1	65.20	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA022	CHAKIN TARAI set		84.52	1	84.52	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA023	ORIBE FUTAOKI		9.45	1	9.45	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA024	SEJI FUTAOKI		14.17	1	14.17	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA025	Vase		52.50	1	52.50	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA026	HISHAKU		31.50	1	31.50	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA027	KAKEJIKU		299.00	1	299.00	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA028	TSURIGAMA		441.00	1	441.00	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA029	MIZUSASHI		42.00	1	42.00	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA030	MIZUTSUGI UZU		70.00	1	70.00	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA031	MIZUTSUGI		126.00	1	126.00	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA032	Tray square		25.20	1	25.20	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA033	YOSHINO Shelf		279.82	1	279.82	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA034	Board thin		160.00	1	160.00	Shelf in Seminar Room
2006	B6-10-SA035	Green tea powder	B6-10-SA035-1~10	10.50	10	105.00	Office
2006	B6-10-SA036	Umbrella red		624.40	1	624.40	Library
2006	B6-10-SA037	Stand for umbrella		285.50	1	285.50	Library
2006	B6-10-SA038	Golden panel		3,473.00	1	3,473.00	Storage
2007	B7-05-FI001	DHARMA DOLL1		153.00	1	153.00	Library
2007	B7-05-FI002	Mask of Ogre (Red)	B7-05-FI002-1~10	7.10	10	71.00	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-FI003	Mask of Ogre (Green)	B7-05-FI003-1~2	7.10	10	71.00	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-FI004	Red and White Lantern	B7-05-FI004-1~20	4.12	20	82.40	Storage
2007	B7-05-FI005	Drum (small)	B7-05-FI005-1~10	30.60	10	306.00	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-FI006	Bamboo set (TANABATA)	B7-05-FI006-1~2	162.30	2	324.60	Storage
2007	B7-05-FI007	Flower stand (Autumn)		31.50	1	31.50	Storage
2007	B7-05-FI008	Flags of all nations		70.60	1	70.60	Storage
2007	B7-05-OT001	Stand for a throwing-game set		747.00	1	747.00	Storage
2007	B7-05-OT002	Rope (TSUNAHIKI)		52.90	1	52.90	Storage
2007	B7-05-OT003	Clogs for centipede competition		305.90	1	305.90	Storage
2007	B7-05-FI009	Flower stand (Morning Glory)	B7-05-FI009-1~2	25.90	2	51.80	Reception / Library
2007	B7-05-FI010	SHIMENAWA (Beckoning Cat)		4.20	1	4.20	Storage
2007	B7-05-FI011	Two-handled keg base	B7-05-FI011-1~2	53.00	2	106.00	Storage
2007	B7-05-FI012	MASU	B7-05-FI012-1~10	4.80	10	48.00	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-OT004	MOCHITSUKI set		2,903.40	1	2,903.40	Storage
2007	B7-05-OT005	Steamer set (for MOCHITSUKI set)		611.10	1	611.10	Storage
2007	B7-05-OT006	Japanese paper set	B7-05-OT006-1~40	10.17	60	610.20	Office

198 Tues 1

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	UnitPrice(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation
2007	B7-05-OT007	YUKATA 10items set for women	B7-05-OT007-1~4	223.50	4	894.00	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-OT008	YUKATA set for men	B7-05-OT008-1~5	177.00	5	885.00	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-FI013	New year's pine and bamboo decoration	B7-05-FI013-1~2	575.40	2	1,150.80	Storage
2007	B7-05-FI014	New year's decoration (rice cake)	B7-05-FI014-1~2	81.40	2	162.80	Storage
2007	B7-05-FI015	Loon head		61.20	1	61.20	Shelf in Seminar Room
2007	B7-05-DV001	KARAOKE DVD UTAEMON(ENKA)		106.00	1	106.00	Office
2007	B7-05-DV002	KARAOKE DVD UTAEMON(pop)		106.00	1	106.00	Office
2007	B7-05-DV003	KARAOKE DVD Victor	B7-05-DV003-1~5	35.30	5	176.50	Office
2007	B7-05-FU001	TATAMI	B7-05-FU001-1~9	278.00	9	2,502.00	Seminar Room
2007	B7-05-OT009	Visual presenter		2,786.00	1	2,786.00	Administrative Room
2007	B7-05-OT010	Visual presenter	B7-05-OT010-1~2	694.00	2	1,388.00	Seminar Room
2007	B7-05-SO001	File Maker Pro8.5	B7-05-SO001-1~3	37.00	2	74.00	Office
2007	B7-05-SO002	Adobe Creative Suite premium 2.3	B7-05-SO002-1~2	180.00	2	360.00	Office
2007	B7-05-SO003	Microsoft Window XP home edition SP2	B7-05-SO003-1~11	227.00	11	2,497.00	Office
2007	B7-05-OT011	Tepra Pro SR330		92.50	1	92.50	Office
2007	B7-05-OT012	Tepra Tape Cartridge	B7-05-OT012-1~10	32.60	10	326.00	Office
2007	B7-05-OT013	Tepra Tape Cartridge	B7-05-OT013-1~5	45.60	5	228.00	Office
2007	B7-05-OT014	Tepra Tape Cartridge	B7-05-OT014-1~10	8.60	10	86.00	Office
2007	B7-05-OT015	Labels for library	B7-05-OT015-1~10	12.40	10	124.00	Office
2007	B7-05-OT016	MIZUHIKI	B7-05-OT016-1~6	9.50	6	57.00	Administrative Room
2007	B7-05-OT017	MIZUHIKI	B7-05-OT017-1~6	7.00	6	42.00	Administrative Room
2007	B7-05-FU002	Cross Panel set	B7-05-FU002-1~8	530.00	8	4,240.00	Frot of Seminar Room
2007	B7-05-SO004	HAKUSYU Fonts KONSHIN		330.00	1	330.00	Administrative Room
2007	B7-05-SO005	HAKUSYU Fonts KYOMADOKA		436.00	1	436.00	Administrative Room
2007	B7-05-OT018	YUKATA belt for men	B7-05-OT018-01-10	17.60	10	176.00	Shelf in Seminar Room
2007	C7-07-SO010	Antivirus Kaspersky Version7.0	C7-07-SO010-01-10	29.82	10	298.22	Office
2006	C7-07-SO020	Antivirus Kaspersky Version6.0	C7-07-SO020-01-02	29.82	2	59.64	Office
2007	C7-07-OT029	Panaboard(Electric board)		2,529.31	1	2,529.31	Seminar Room
2007	C7-07-SO022	Antivirus Kaspersky Version7.0	C7-07-SO022~23	29.82	2	59.64	Office
2007	C7-08-SO023	Antivirus Kaspersky Version7.0		29.82	5	149.11	Office
2007	C7-09-SO025	Antivirus Kaspersky Version7.0		29.82	1	29.82	Office
2007	C7-09-OA009	NOTEBOOK AMILO (Ukraine)		663.49	1	663.49	Office
2007	B7-09-OT037	VACCUME CLEANER (Ukraine)		233.07	1	233.07	Bathroom (Women)'
2007	B7-10-OT038	Projector		1,446.37	1	1,446.37	Storage
2007	B7-11-OT039	White board		337.23	1	337.23	7th building <JLC>
2007	B7-12-OT040	UAJC Sign board		178.22	1	178.22	Office entrance

120 70- - C -

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	Unit Price(USD)	Q'ty	Total Price(USD)	Place of Installation
2007	C8-02-OA001	Notebook Computer	C8-02-OA001-01-06	629.07	6	3,774.43	Business Course
2007	B8-03-OT041	TV		699.80	1	699.80	Library
2007	B8-03-OT042	Digital Camera		1,312.08	1	1,312.08	Director's Room
2007	B8-03-OT043	Flashlight		389.70	1	389.70	Director's Room
2007	B8-03-OT044	Refrigerator		415.64	1	415.64	Resting Room
2008	C8-03-SO001	Windows XP/ Antivirus		35.29	1	35.29	Office
2008	C8-03-SO002	Windows XP/ Antivirus	C8-03-SO002-01-02	20.20	2	40.40	Office
2008	B8-04-OT045	Time recorder		190.00	1	190.00	Reception
2008	B8-04-OT046	Time Card		9.50	1	9.50	General Affair
2008	B8-04-OT047	Ink ribbon	B8-04-OT047-01-05	23.00	5	115.00	General Affair
2008	B8-04-OT048	Time Card		9.50	1	9.50	General Affair
2008	B8-04-OT049	Time Card Rack		38.00	1	38.00	Reception
2008	B8-04-SA039	Bamboo Tea Wick	B8-04-SA039-01-20	5.20	20	104.00	Storage
2008	B8-04-FI016	Loon Head (set)		1,030.00	1	1,030.00	Storage
2008	B8-04-FI017	Japanese Drum		550.00	1	550.00	Seminar Room
2008	B8-04-IK007	Vase		45.57	1	45.57	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-IK008	Vase		170.00	1	170.00	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-IK009	Vase		155.00	1	155.00	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-IK010	Vase		130.00	1	130.00	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-IK011	Vase		160.00	1	160.00	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-IK012	Vase		130.00	1	130.00	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-IK013	Vase		20.00	1	20.00	Seminar Room Shelf No.7
2008	B8-04-CA005	Calligraphy by Water	B8-04-CA005-01-02	13.00	2	26.00	Japanese Language Course
2008	B8-04-CA006	A sheet of plaine paper for Calligraphy by water	B8-04-CA006-01-06	4.40	6	26.40	Japanese Language Course
2008	B8-04-CA007	writing brush (Large size)	B8-04-CA007-01-20	4.00	20	80.00	Japanese Language Course
2008	B8-05-OT050*	Ice Shaver	B8-05-OT050-1-3	8.50	3	25.50	Storage
2008	B8-05-OT051	YUKATA- Women	B8-05-OT051-01-20	195.00	20	3,900.00	Shelf No.3/4/5 in Seminar Room
2008	B8-05-OT052	YUKATA- Men	B8-05-OT052-01-05	155.00	5	775.00	Shelf No.3/4/5 in Seminar Room
2008	B8-05-OT052	Belt for YUKATA	B8-05-OT052-01-05	16.00	5	80.00	Shelf No.3/4/5 in Seminar Room
2008	C8-06-SO003	Windows XP/ Antivirus		59.41	1	59.41	Office
2008	C8-07-SO004	Windows XP/ Antivirus		110.90	1	110.90	Office
2008	C8-09-SO005	Antivirus Kaspersky Version 7.0	C8-09-SO005-01-03	29.82	3	89.47	Office

14 The - Copy -

Fiscal Year	Reference Number	Name of Equipment(Manufacturer/Model Number)	Serial Number	Unit Price(USD)	Qty	Total Price(USD)	Place of Installation	
Total:							176,582.07	

121 Item - *[Signature]*

Annex 7 :Training in Japan

Business programs		
JFY	Name/Position	Duration Porpose
2007	Ms. Nadiia Iazvinska Associate professor of Marketing & Management Department of National Technical University of Ukraine "Kyiv Polytechnic Institute" (NTUU "KPI")	Useful knowledge for the business course project and the management of KPI-UAJC in the future by experiencing and understanding the current state of the industrial world in Japan is obtained. Moreover, knowledge concerning latest "Marketing technique" of Japan is acquired as a marketing whiz, and after it returns home, it makes the best use of for the lecture in the KPI-UAJC business course.

Japanese Understanding		
JFY	Name/Position	Duration Porpose
2006	Mr. Boris A. Tsuiganok Director of the Ukrainian-Japan. Center of NTUU"KPI" Ms. Kseniya A. Kravtsova Administration staff of the project	07/03/2007-21/03/2007 It deepens one's knowledge about the system and the realities of the industry-university-government cooperation in understanding and Japan of ODA policy, JICA, business of a Japanese society and Japan. Moreover, understand protection system of the intellectual property right and legal infrastructure in Japan.

164
 Tico →  

Annex 8 :Assignment of the C/P Personnel and UAJC Staff by Ukrainian Side

Name:	Occupation	KPI	NTUU KPI "UAJC"		
			① (Administrator) ②	③ (Lecturer)	
TSYGANOK Boris Arhipovich	Director	Δ			
OGORODNIK Evgen Anatoliovych	Leading Engineer	Δ			
LUGOVSKAYA Ekaterina Aleksandrovna	Coordinator	▲	▲		
YAZVINSKAYA Nadejda	Staff for B.C.Operation	Δ			
GUBAR Oksana	Accountant		●		
-	Accountant	Δ(2people)			
-	Guards	Δ			
-	Cleaning Staff	Δ(2people)			
-	Electric Mechanic	Δ			
-	Janitor	Δ			
-	Person in charge of Key	Δ			
-	Person in charge of Elevator	Δ			
-	Engineer	Δ(2people)			
NADBEREZHNA Tatiana	Lecturer of Culture Course			★	
KAPRANOVA Oleana				★	
SILNITSKA Olga				★	
PARHOMENKO Bogdan				★	
PLYUSHCH Yuriy				★	
EGAWA Hiroyuki	Lecturer of Japanese Language Course			★	
TEN Shinichi				★	
VESTEL Tatiana				★	
MOROZOVA Antonina				★	
GORNOVSKA Olga				★	
GRYN Tatiana				★	
UMEBAYASHI Masaki				★	
BUKRIENKO Andriy				★	
Total:			15	2	13

Remarks:

● Full time / ▲ Part time / Δ in occasion / ★ Lecturer

① Salary is paid by KPI

② ③ Salary is paid by income of NTUU KPI "UAJC"

M *Fil* *G* *V*

Annex9:Achevement of Business Programs

<2008>

<Business Courses>

Course name	Date	Instructor	No. of Trainees	Tuition Fee	Remarks
Strategic Human Resource Management & Development	2008.10.17-18	Schinichiro KAWAGUCHI	24	2080 USD (per company)	Object company: Concern GalNaftoGas
Strategic Human Resource Management & Development-Follow up Training	2008.10.06-08	Schinichiro KAWAGUCHI	16	3120 USD (per company)	Object company: "Rostok Grifon"
Strategic Human Resource Management & Development-Follow up Training	2008.09.29-10.01	Schinichiro KAWAGUCHI	20	2640 USD (per company)	Object company: PromInfoMediaGroup
Strategic Human Resource Management & Development	2008.06.25-27	Schinichiro KAWAGUCHI	16	1753 USD (per company)	Object company: "Rostok Grifon"
Strategic Human Resource Management & Development	2008.06.08	Schinichiro KAWAGUCHI	14	891 USD (per company)	Object company: PromInfoMediaGroup
Strategic Human Resource Management & Development Open Training Seminar	2008.06.19-21	Schinichiro KAWAGUCHI	10	1196 USD (per company)	Object: Ukrainian Businessmen and Top Management
Sub Total 6cases	15 days	Total 6	100 trainees	11680 USD	6 companies

<Consultation>

Content	Date	Instructor	No. of Participants	Consaltation fee	Remarks
HRMD Consultation for PromInfoMediaGroup	2008.10.04.	Schinichiro KAWAGUCHI	3	Free of Charge	Consultation was included in Follow-up training fee.
Sub Total 1case	1 day	1	3 participants	0	

<Needs Survey>

Content	Date	Person in charge	No. of Companies	Tuition Fee	Remarks
Vist of companies & Interview in Mikolaev	2008.10.24	Schinichiro KAWAGUCHI	5	-	
Vist of companies & Interview in Zhytomir	2008.10.21-22	Schinichiro KAWAGUCHI	5	-	
Vist of companies & Interview in Kiev	2008.10.14-16,20	Schinichiro KAWAGUCHI	4	-	
Vist of companies & Interview in Cherkassy	2008.10.09-10	Schinichiro KAWAGUCHI	4	-	
Vist of companies & Interview in Lviv	2008.10.02-03	Schinichiro KAWAGUCHI	5	-	
Sub Total Scities 23cases	11 days	Total 5	23 companies	0	

<Open Seminars>

Course name	Time	Instructor	No. of Participants	Tuition Fee	Remarks
Human Resource Management & Development	2008.10.25	Schinichiro KAWAGUCHI	27	Free of charge	Object: Businessmen, professors and staffs of Nikolaev University
Human Resource Management & Development	2008.06.20	Schinichiro KAWAGUCHI	12	Free of charge	Object: Chernobyl Recovery and Development Program (CRDP) staffs, businessmen
Sub Total 2cases	2 days	Total 2	39 participants	0	

Handwritten signatures and initials:
 H2L
 Tice →
 [Signature]
 [Signature]

<Business Forums & Joint Seminars>

Course/events name	Time	Instructor	No. of Participants	Tuition Fee	Remarks
Panasonic and UAJC Joint Seminar: Management & marketing of Panasonic Company	2008.10.18	Exel International Co.Ltd. Mr.MIZUNO Panasonic Kiev Office Mr.TAKAHAMA	16	379 USD	Object: Businessmen & Students
Panasonic and UAJC Joint Seminar: Management & marketing of Panasonic Company	2008.10.17	Exel International Co.Ltd. Mr.MIZUNO Panasonic Kiev Office Mr.TAKAHAMA	200	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Panasonic and KPI Matching Meeting	2008.10.17	Panasonic Moscow office Mr.HATANAKA	31	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists & Students
Business Forum: The Japanese Experiences in the Ukrainian Industries	2008.10.08	NTB Co., Ltd Mr.UEDA Chairman	17	2412USD	Object: Ukrainian and Japanese Businessmen, Students and other
Business Forum: How to Survive Japanese Company Director in Ukraine	2008.10.01	Toyota Ukraine Mr. KONDO General Director	17		
Business Forum: Management & Global Strategy of Panasonic	2008.09.20	Panasonic Kiev Office Mr.TAKAHAMA General Director	20		
Business Forum: The Philosophy and Management Methods of Honda Motor	2008.09.20	Honda Ukraine Mr.MIYASHITA General Director	22		
Business Forum: The Japanese Business in Environment Protection Sphere of Ukraine	2008.09.13	Sumitomo Corporation Kiev Office Mr.EGUCHI General Manager	20		
Sub Total Cases	8 days	8 people	343 participants		

<Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration>

Course/events name	Time	Instructor	No. of Participants	Tuition Fee	Remarks
Seminar on Global Warming & Low Carbon Society	2008.10.31	Toyo University Prof.KURUSHIMA Reitaku University Prof.MADONO JCF Mr.NORIMOTO	39	Free of charge	Object:Staff of Japanese companies, Energy savings specialists, KPI Energy saving institute
Seminar on Data Science and Design Science on Materials (Kyiv School)	2008.10.04	UAJC Tokyo University NTUU "KPI"	40	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists from Foreign Universities
Seminar on Data Science and Design Science on Materials (Kyiv School)	2008.10.03	UAJC Tokyo University NTUU "KPI"	51	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Industry-Academia-Government Collaboration Business Matching	2008.10.02	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	1	Free of charge	Object:Nestle Ukraine
Industry-Academia-Government Collaboration Scientists Matching	2008.10.01	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	10	Free of Charge	Object:Academy of Technology & Science
Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration	2008.09.30	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	78	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration	2008.09.29	Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.CHIBA, Prof.HOSAKA	50	Free of Charge	Object: KPI Professors, Specialists and Students
Series of Lessons: Assessment of Health and Environmental Impacts' from Energy Systems'	2008.06.06-10.16 13days	Yoshio MATSUKI Local Lecturer	75	Free of Charge	Object: KPI Students (IEE)
Sub Total Cases	20 days	16 people	344 participants	0	

<Activities on Investment and Trade Promotion>

Course/events name	Time	Instructor	No. of Participants	Tuition Fee	Remarks
Database and HP "Gateway to Ukraine Business"	Start on November 2008				www.bizpartners-ukraine.org
Presentation in International Economic Forum "Ukraine: New opportunities"	2008.08.20-21	Ukraine Japan Center Tomoe TAMIYA	20	Free of Charge	Venue: Expo Center of Ukraine Organizer: Ministry of Economy Object: Businessmen, Representative of local government
Sub Total Cases	2 days - 1 item	1 person	20 participants	0	

12/11/08 Tice - [Signature]

<2007>

<Business Courses>

Course name	Time	Instructor	No. of trainees	Tuition fee	Remarks
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.10.31 - 11.13	Shinichiro KAWAGUCHI	10 (No. of completion: 10)	1160USD	Participants (paid) 2people x 400USD, 1person x 360USD
Japanese Style Problem-Solving Techniques	2007.10.15-19	Masahiko TAMAI	12 (No. of completion: 10)	980USD	Participants (paid) 4people x 200USD, 1person x 180USD
Strategic Management System Policy Management & Balanced	2007.10.01-05	Masahiko TAMAI	13 (No. of completion: 10)	600USD	Participants (paid) 3people x 200USD
Human Resources Management & Development	2007.06.22-23	Shinichiro KAWAGUCHI	18	804USD	First Anniversary Seminar for the Project
Sub Total 4cases	26 days	Total 4	53 trainees	3544USD	Total in UAH - 18299.05UAH

<Open Seminars>

Course name	Time	Instructor	No. of participants	Tuition fee	Remarks
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.12	Shinichiro KAWAGUCHI	27	Free of Charge	Venue: Ukraine Center for Enterprise Restructuring & Private Sector Development
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.09	Shinichiro KAWAGUCHI	33	Free of Charge	Venue: Ukrainian Association for Quality (UAQ)
Historical Transition of Japanese Quality Management & Economic Development in Japan	2007.11.08	Masahiko TAMAI	27	Free of Charge	Venue: Ukrainian School of Political Study (Odessa)
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.07	Shinichiro KAWAGUCHI	19	Free of Charge	Venue: International Center TOP
Human Resources Development Management and Human Resources Management	2007.11.01	Shinichiro KAWAGUCHI	35	Free of Charge	Venue: National Technical University of Ukraine "Kyiv Polytechnic Institute"
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.10.12	Masahiko TAMAI	14	Free of Charge	Venue: Chamber of Commerce of Kiev
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.09.28	Masahiko TAMAI	26	Free of Charge	Venue: Chernigov Employers' League
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.09.26	Masahiko TAMAI	27	Free of Charge	Venue: Ukrainian Association for Quality (UAQ)
Japanese Style Problem-Solving Techniques: 5S & KAIZEN	2007.09.25	Masahiko TAMAI	207	Free of Charge	Venue: National Technical University of Ukraine "Kyiv Polytechnic Institute"
Sub Total 9cases	9 days	Total 9	415 participants	0	

<Consultation>

Course name	Time	Instructor	No. of participants	Attendance fee	Remarks
Management Consulting (International Center TOP)	07.11.05 - 11.06	Shinichiro KAWAGUCHI	25	Free of Charge	
Sub Total 1case	2 days	1 person	25 participants	0	

<Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration>

Course/events name	Time	Instructor	No. of Participants	Tuition Fee	Remarks
International seminar on energy-saving and power-efficient technologies	2007.09.28-29	NEDO Mr.KURUSHIMA 4 other instructors	150	Free of Charge	Organized by NEDO's budget
Industry-Academia-Government Collaboration Business Matching	2007.09.19	Yokohama National University Prof.KATO Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.KAWABATA	45	Free of Charge	Object: KPI, Local Universitys
Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration	2007.09.18		130	Free of Charge	Object: KPI staffs, students
Sub Total 3cases	4 days	Total 8	325 participants	0	

<Activities on Investment and Trade Promotion>

Course/events name	Time	Instructor	No. of Participants	Tuition Fee	Remarks
Investment Seminar: Japanese investments attraction: successful experience of Poland	2008.02.08	JETRO Mr.MAEDA InvestUkraine Mr.KANAYAMA	55	Free of Charge	Object: Businessmen, Executive Officers
Presentation of JETRO <TTTP>	2008.03.31	JETRO Planning Department Mr.TANAKA	10	Free of Charge	Venue: Invest Ukraine
Sub Total 2cases	2 days	3 people	65 participants	0	

144 *T. Kanayama* *Shinichiro Kawaguchi* *Mr. Tanaka*

<2006>

<Open Seminars>

Course name	Time	Instructor	No. of participants	Tuition Fee	Remarks
Personnel Management	2007.03.23	Haruki SHIMIZU	34	Free of Charge	Zhytomyr Entrepreneur Union
Production Management	2007.03.22	Yuzuru SHIMAMURA	36	Free of Charge	Zhytomyr Entrepreneur Union
Personnel Management	2007.03.21	Haruki SHIMIZU	20	Free of Charge	NTUU KPI Library 6th fl.
Production Management	2007.03.20	Yuzuru SHIMAMURA	21	Free of Charge	NTUU KPI Library 6th fl.
Small and medium scale enterprise promotion	2006.12.14	Takeo KAWAGOE	10	Free of Charge	UAJC seminar room
Small and medium scale enterprise promotion	2006.11.24	Takeo KAWAGOE	33	Free of Charge	UAJC seminar room
Sub Total_6cases	6 days	Total 6	154 participants	0	

<Activities on Development of Industry-Academia-Government Collaboration>

Course name	Time	Instructor	No. of participants	Tuition Fee	Remarks
Seminar on Japanese energy saving policy	2007.03.06	NEDO Mr.KURUSHIMA	50	Free of Charge	Object: KPI Energy saving institute, students
Introduction Seminar on Industry-Academia-Government Collaboration Example in Japan	2006.05.22	Yokohama National University Prof.KATO Tokyo University of Agriculture&Technology Prof.HOSONO	200	Free of Charge	Object: KPI staffs, students
Sub Total_2cases	2 days	3 people	250 participants	0	

1st Tico. —  

Annex10: Achievement of Japanese Language courses

2008-2009 academic year, long-term groups schedule (UAJC_JLC results by the end of October, 2008.)

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Beginners 1a	23. Sep. 2008	Petrovska Natalya Bukurienko Andoryi	1st semester : 25	1,000UAH	Date: Tue. & Fri. 17:00 - 18:30 Learning time: 1.5 hrs x 2 x 32 weeks
Beginners 1b	23. Sep. 2008	Petrovska Natalya Bukurienko Andoryi	1st semester : 25	1,000UAH	Date: Tue. & Fri. 19:00-20:30 Learning time: 1.5 hrs x 2 x 32 weeks
Beginners 2a	22. Sep. 2008	Gornovska Olga Egawa Hiroyuki	1st semester : 18	1,000UAH	Date: Mon. & Thu. 17:00-18:30 Learning time: 1.5 hrs x 2 x 32 weeks
Beginners 2b	22. Sep. 2008	Gornovska Olga Egawa Hiroyuki	1st semester : 28	1,000UAH	Date: Mon. & Thu. 19:00-20:30 Learning time: 1.5 hrs x 2 x 32 weeks
Beginners 3	22. Sep. 2008	Umebayashi Masaki Ohara Atsuhiko	1st semester : 25	1,000UAH	Date: Mon. & Thu. 19:00-20:30 Learning time: 1.5 hrs x 2 x 32 weeks
Intermediate 1	23. Sep. 2008	Morozova Antonina (Ohara) Ten Shin-ichi	1st semester : 12	1,000UAH	Date: Tue. & Fri. 19:00-20:30 Learning time: 1.5 hrs x 2 x 32 weeks
Intermediate 2	4. Oct. 2008	Ten Shin-ichi Ohara Atsuhiko	1st semester : 19	1,000UAH	Date: Sat. 10:30-13:30 Learning time: 3 hrs x 1 x 16 weeks

2006-2007 academic year, short-term groups schedule (UAJC_JLC results by the end of October, 2008)

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Advanced 1 (JLPT 2lev. Measures)	30.Sep.2008	Morozova Antonina Petrovska Natalya	1st semester : 16	180 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2 x 5 weeks
Advanced 2 (JLPT 1lev. Measures)	30.Sep.2008	Egawa Hiroyuki Ohara Atsuhiko	1st semester : 9	180 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2 x 5 weeks
Advanced 3 (Interpretation)	26.Dec.2008	Egawa Hiroyuki & few others	not registered	400 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2 x 10 weeks
Advanced 4 (Japanese for business)	31.Mar.2009	not fixed	not registered	360 UAH	Date: Tue. & Thu. 19:00 - 20:30 Learning time: 1.5hrs x 2 x 10 weeks
Class for children 2	4.Oct.2008	Gryn Tetiana	10	450UAH	Date: Sat. 14:30 - 16:30 Learning time: 2hrs x 1 x 15 weeks
Class for children 1	1.Oct.2008	Vestel Tetiana	8	450UAH	Date: 15:00 - 17:00 Learning time: 2hrs x 1 x 15 weeks
Class for children 1	7.Feb.2009	Gryn Tetiana	not registered	450UAH	Date: 14:30 - 16:30 Learning time: 2hrs x 1 x 15 weeks
Class for children 2	18.Feb.2009	Vestel Tetiana	not registered	450UAH	Date: 15:00 - 17:00 Learning time: 2hrs x 1 x 15 weeks

2007-2008 academic year, long-term groups schedule

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Beginners 1a	24.09.2007 - 19.06.2008	Egawa Hiroyuki, Bukrienko Andryi	1st semester: 27, 2nd semester: 22	700UAH	Date: Mon/Thur 17:00-18:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 1b	24.09.2007 - 19.06.2008	Egawa Hiroyuki, Bukrienko Andryi	1st semester: 27, 2nd semester: 26	700UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 2a	25.09.2007 - 17.06.2008	Godai Hiroki, Petrovska Natalya	1st semester: 17, 2nd semester: 12	700UAH	Date: Tue/Fri 17:00-18:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 2b	25.09.2007 - 17.06.2008	Godai Hiroki, Petrovska Natalya	1st semester: 23, 2nd semester: 18	700UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Beginners 3	24.09.2007 - 19.06.2008	Morito Noriko, Tamkova Svitlana	1st semester: 17, 2nd semester: 12	700UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Intermediate	25.09.2007 - 17.06.2008	Morito Noriko, Gornovska Olga, Ten Shin-ichi	1st semester: 12, 2nd semester: 9	700UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 32wks x 2/wk x 1.5hrs = 96hrs
Advanced	6.10.2007 - 14.06.2008	Morito Noriko, Takeuchi Takaaki, Gornovska Olga, Ten Shin-ichi	1st semester: 9, 2nd semester: 8	700UAH	Date: Sat 10:30-13:30 Learning time: 32wks x 1/wk x 3hrs = 96hrs

M *Tice*  

2007-2008 academic year, short-term groups schedule

Class name	Time	Teacher(s)	No. of students	Tuition fee	Remarks
Advanced 3 (Japanese for business)	25.03.2008 - 5.06.2008	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	10	250UAH	Date: Tue/Thur 19:00-20:30 Learning time: 10wks x 2/wk x 1.5hrs = 30hrs
Class for children 1-2	20.02.2008 - 28.05.2008	Gryn Tetiana	5	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Class for children 2	16.02.2008 - 7.06.2008	Gryn Tetiana	13	300UAH	Date: Sat 14:30-16:30 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 2 (Interpretation)	11.12.2007 - 28.02.2008	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki, and others	9	300UAH	Date: Tue/Thur 19:00-20:30 Learning time: 10wks x 2/wk x 1.5hrs = 30hrs
Class for children 2-2	6.10.2007 - 26.01.2008	Gryn Tetiana	8	300UAH	Date: Sat 14:30-16:30 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Class for children 1	3.10.2007 - 30.01.2008	Gryn Tetiana	5	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 1 (preparatory course for Japanese-language proficiency Test, 1st level)	2.10.2007 - 22.11.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	12	200UAH	Date: Tue/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs

2006-2007 academic year, long-term groups schedule

Class name	Time	Teachers	No. of students	Tuition fee	Remarks
Introductory class B	3.10.2006 - 5.06.2007	Morito Noriko, Godai Hiroki	1st semester: 29, 2nd semester: 26	600UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs
Introductory class A	3.10.2006 - 5.06.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	1st semester: 27, 2nd semester: 20	600UAH	Date: Tue/Fri 17:00-18:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs
Intermediate-Advanced	3.10.2006 - 5.06.2007	Morito Noriko, Ten Shin-ichi	1st semester: 26, 2nd semester: 19	600UAH	Date: Tue/Fri 19:00-20:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs
Beginners	2.10.2006 - 14.06.2007	Godai Hiroki, Tamkova Svidana	1st semester: 25, 2nd semester: 19	600UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 30wks x 2/wk x 1.5hrs = 90hrs Lessons on Japanese customs: 10hrs

kl Tce - 7  

2006-2007 academic year, short-term groups schedule

Class name	Time	Teacher(s)	No. of students	Tuition fee	Remarks
Advanced 4 (Japanese for business)	30.04.2007 - 25.06.2007	Morito Noriko ,Egawa Hiroyuki	13	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs
Class for children 2	24.02.2007 - 16.06.2007	Nikolska Olga	6	300UAH	Date: Sat 14:30-16:30 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Class for children 1-2	21.02.2007 - 20.06.2007	Lenok Katerina	6	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 3 (Learning Japanese through the media)	19.02.2007 - 23.04.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki	11	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs
Advanced 2 (Basic interpretation)	4.12.2006 - 8.02.2007	Morito Noriko, Egawa Hiroyuki, Zamorska Yuliya	15	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs
Class for children 1	4.10.2006 - 31.01.2007	Lenok Katerina, Nikolska Olga	7	300UAH	Date: Wed 15:00-17:00 Learning time: 15wks x 1/wk x 2hrs = 30hrs
Advanced 1 (preparatory course for Japanese-language proficiency Test, 1st level)	2.10.2006 - 23.11.2006	Morito Noriko; Egawa Hiroyuki	13	144UAH	Date: Mon/Thur 19:00-20:30 Learning time: 8wks x 2/wk x 1.5hrs = 24hrs

M. Team: [Signature]

Annex II: Achievement of Mutual Understanding Promotion Activities

<2008>

▼ Cultural events

Event Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Tea ceremony demonstration	2008.10.25	Ukraine-Japan Center - Embassy of Japan in Ukraine	78	Lector: Silnytska Silnytska	Free	0
21th Film demonstration "Lovely complex"	2008.10.22	Ukraine-Japan Center	42		Free	0
3rd All-Ukrainian Kendo tournament on the Cup of ambassador of Japan in Ukraine	2008.10.18 - 19	Kyiv Kendo Federation Ukraine-Japan Center Embassy of Japan in Ukraine -	340	Venue: Sport complex NTUU "KPI"	Free	0
All-Ukrainian Anime Festival	2008.10.14	Ukraine-Japan Center All-Ukrainian fan club of Anime and Manga "Crystal Power"	800	Venue: Palace of culture NTUU "KPI"	Free	0
Kimono demonstration	2008.10.14	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Kyiv National Linguistic University	Free	0
Kimono demonstration	2008.10.14	Ukraine-Japan Center	36	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Taras Shevchenko Kyiv National University	Free	0
Master-class on calligraphy	2008.10.13	Ukraine-Japan Center	64	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Korop, Chernigov region	Free	0
Kimono and Ikebana demonstration	2008.10.12	Ukraine-Japan Center	14	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Korop, Chernigov region	Free	0
International Japanese animation festival	2008.10.10 - 12	Ukraine-Japan Center Reanimedia Anime-Line Group Cinema Theater "Zhovten"	2000	Venue: Cinema Theater "Zhovten"	Free	0
Participation in International Exhibition Show "Ukraine 2008" Exhibition platform of UAJC and tourist company "Fairiku Travel"	2008.10.07 - 09	Ministry of culture and tourism in Ukraine Ukrainian exhibition company "AVTOEXPO"	600	Venue: International Exhibition Center	Free	0
Anime Festival	2008.09.27 - 28	Anime-club "Havkazse" "Reanimedia" "Anime-Line Group" "animachka.net" Ukraine-Japan Center	1600	Lector: Kuleshov Chie Venue: Dnipropetrovsk	Free	0
League on Ukrainian Meijin (8 tour)	2008.09.27	Ukrainian Go Federation Ukraine-Japan Center	6		Free	0
Master-class on making Makizushi	2008.09.24	Ukraine-Japan Center	25	Lector: Magjima Tonoko	5.94	148.5
Ukrainian Go championship (First league)	2008.09.19 - 21	Ukrainian Go Federation Ukraine-Japan Center	45		Free	0
Anime Festival rehearsal	2008.09.16	Ukraine-Japan Center All-Ukrainian fan club of Anime and Manga "Crystal Power"	15		Free	0
20th Film demonstration "Our mother"	2008.09.03	Ukraine-Japan Center	24		Free	0
"World of Gifts" Exhibition participation	2008.08.29	Parus Expo Media Ltd. Ukraine-Japan Center	35	Lector: Kuleshov Chie Venue: Exhibition Center	Free	0
Master-class on making Noshibukuro	2008.08.06	Ukraine-Japan Center	11		Free	0
19th Film demonstration "Yaji and Kita: The Midnight Pilgrims"	2008.07.02	Ukraine-Japan Center	30		Free	0
18th Film demonstration "Threat on the road"	2008.06.25	Ukraine-Japan Center	25		Free	0
The ceremony on Japanese art courses finishing	2008.06.23	Ukraine-Japan Center	9	Lector: Protcheva Tatiana	3.96	35.64
Embroidery master-class	2008.06.21	NPO "Kraina Mriy" Ukraine-Japan Center	1000	Venue: Spivoch pole	557.43	10397.43
2nd Anniversary of "UAJC" Project Participation in 5th International ethnic festival "Dream Land"	2008.06.19 - 22	Ukraine-Japan Center Embassy of Japan in Ukraine	1525	Venue: Cinema Theater "Zhovten"	9840	
2nd Anniversary of "UAJC" Project Japanese Film Festival 2nd Anniversary of "UAJC" Project Opening ceremony of Photo exhibition "Japan Touch"	2008.06.12	Ukraine-Japan Center	26	Author: Pavlo Korsun		
2nd Anniversary of "UAJC" Project Photo exhibition "Japan Touch"	2008.06.09 - 07.01	Ukraine-Japan Center	450	Author: Pavlo Korsun		
17th Film demonstration "Hush"	2008.06.04	Ukraine-Japan Center	20		Free	0
The Children's Day	2008.05.27	Ukraine-Japan Center	6		Free	0
'Kaiwase' Workshop	2008.05.24	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Tamiya Tomoe Object: Citizen of Nikolaev	9.9	178.2
The Children's Day	2008.05.22	Ukraine-Japan Center	15	Venue: Preschool (Kiev)	Free	0
The Children's Day	2008.05.16	Ukraine-Japan Center	65	Venue: Foreign Languages Specialized School №290	Free	0
'Suminagashi' Workshop	2008.05.14	Ukraine-Japan Center	14	Lector: Mitronchik Victoria	3.96	47.52
16th Film Demonstration - "Bubble Fiction"	2008.05.07	Ukraine-Japan Center	27		Free	0
The Children's Day	2008.05.07	Ukraine-Japan Center	31		Free	0
'Pysanki' Workshop	2008.04.23	Ukraine-Japan Center	16	Lector: Stashuk Zoya	1.98	39.6
Haina club	2008.04.19	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Quiz "Lets know Japan"	2008.04.18	Ukraine-Japan Center	120	Lector: Kuleshov Chie Venue: Foreign Languages Specialized School №290	Free	0
-The Week of Chernobyl- Photo-exhibition "Chernobyl - Pripyat 2007" Author: Arysstarkh Amehotepov Premiere demonstration of film "Kalina" by Imazeki Akiyoshi Symposium "Chernobyl Renaissance and Japan"	2008.04.07 - 17	Ukraine-Japan Center	310	Lectors: Matsuki Yoshio (External investigator of Embassy of Japan), Takouchi Takaaki ("Chernobyl Kyuson Chyubu")	Free	0
15th Film demonstration "Gates of Love"	2008.04.02	Ukraine-Japan Center	25		Free	0
Total number of events	38		9504			10846.89

UA Fee -   

▽ Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Go	2008.10.15 - 2008.12.24 Weekly	Ukraine-Japan Center	25		9.9	108.9
Go	2008.03.12 - 2008.05.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	97		9.9	118.8
Tea ceremony	2008.10.11 - 2008.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center	24		138.61	1524.71
Tea ceremony	2008.03.12 - 2008.05.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	21		124.75	499
Calligraphy (A)	2008.10.18 - 2008.12.13 Biweekly	Ukraine-Japan Center	37		76.24	1372.32
Calligraphy (B)	2008.10.18 - 2008.12.13 Biweekly	Ukraine-Japan Center	7		76.24	228.72
Calligraphy (A)	2008.03.01 - 2008.05.17 Biweekly	Ukraine-Japan Center	111		59.41	1366.43
Calligraphy (B)	2008.03.01 - 2008.05.17 Biweekly	Ukraine-Japan Center	29		59.41	475.28
Ikebana (A)	2008.10.10 - 2009.01.30 Biweekly	Ukraine-Japan Center	13		63.37	506.96
Ikebana (B)	2008.10.11 - 2009.01.24 Biweekly	Ukraine-Japan Center	19		63.37	697.07
Ikebana (A)	2008.03.07 - 2008.06.20 Biweekly	Ukraine-Japan Center	54		55.45	554.5
Ikebana (B)	2008.03.22 - 2008.06.14 Biweekly	Ukraine-Japan Center	76		55.45	720.85
Total number of courses	12		513			8173.54

▽ UAJC Forums

Event title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
16th UAJC Forum "Japanese aroma"	2008.10.15	Ukraine-Japan Center	25	Lector: Miyashiro Emiko (Sumitomo Corp.)	5.94	154.44
15th UAJC Forum "Let's go to Japan!"	2008.10.08	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Sumida Sei (Tairiku Travel)	Free	0
14th UAJC Forum "Tsukimi, Autumn sweets"	2008.09.17	Ukraine-Japan Center	31	Lector: UAJC staff	3.96	118.8
13th UAJC Forum "The World of Netsuke"	2008.05.21	Ukraine-Japan Center	22	Lector: Derkachenko Alexandr - director of Netsuke Gallery	Free	0
12th UAJC Forum "Shakuhachi in an International Context"	2008.04.16	Ukraine-Japan Center	24	Lector: Mizuno DAY Kaku (London University)	Free	0
Total number of forums	5		132			273.24

14 

<2007>

▽Cultural events

Event Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Anime Song Karaoke Contest	2008.03.29	Ukraine-Japan Center	140		Free	0
14th Film demonstration "NRE&NIN"	2008.03.19	Ukraine-Japan Center	17		Free	0
- Girls Festival - Master-class on making "kaiawase" (Japanese traditional shell)	2008.03.12	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Tamiya Tomoe	9.9	178.2
- Girls Festival - Master-class on making Japanese sweet	2008.03.05	Ukraine-Japan Center	29	Lector: Tamiya Tomoe, Silyvska Olexa	3.96	114.84
- Girls Festival - Master-class on making "hina-ningyou" (dolls for Girls Festival)	2008.03.03	Ukraine-Japan Center	19	Lector: Tamiya Tomoe	Free	0
Spring-welcoming Festival "Setsubun"	2008.02.29	Ukraine-Japan Center	127	Venue: Foreign Languages Specialized School №290	Free	0
Kiev Go Championship (women)	2008.02.23 - 24	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	10		Free	0
Haiku club	2008.02.20	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Mizuhiki club	2008.02.20	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Cup of Ukraine on Go (pairs)	2008.02.09 - 10	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	38		Free	0
13th Film demonstration "Earthen Chronicles"	2008.02.06	Ukraine-Japan Center	24		Free	0
Kirie Workshop	2008.01.30	Ukraine-Japan Center	15	Lector: Tamiya Tomoe	1.98	37.62
Mochitaki	2008.01.26	Ukraine-Japan Center	150		Free	0
12th Film demonstration "Ooku"	2008.01.23	Ukraine-Japan Center	26		Free	0
Tea ceremony demonstration	2008.01.19	Ukraine-Japan Center	36	Lector: Silyvska Olexa	1.98	85.14
Haiku club	2008.01.16	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Mizuhiki club	2008.01.16	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Origami class	2007.12.25	Ukraine-Japan Center	7	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
Anime-manga festival	2007.12.22	All-Ukraine anime and manga fan-club "Crystal Power" Ukraine-Japan Center	500	Venue: CP «KPI»	Free	0
Master-class on making Japanese new-year cards	2007.12.20	Ukraine-Japan Center	17	Lector: Tamiya Tomoe	1.98	37.62
Master-class on Monkiri	2007.12.13	Ukraine-Japan Center	6	Lector: Tamiya Tomoe	1.98	17.82
11th Film demonstration «Shinobia»	2007.12.05	Ukraine-Japan Center	31		Free	0
Mizuhiki club	2007.11.30	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
Haiku club	2007.11.28	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Origami class	2007.11.27	Ukraine-Japan Center	20	Venue: Special boarding-school for deaf-mute children №6	Free	0
Karaoke contest for the Ukrainian students studying Japanese	2007.11.17	Ukraine-Japan Center	46		Free	0
2nd master-class on painting easter-eggs	2007.11.15	Ukraine-Japan Center	17	Lector: Stashuk Zoya	1.98	41.58
2nd master-class on suminagashi	2007.11.09	Ukraine-Japan Center	21	Lector: Mironchuk Victoria	3.96	79.2
10th Film demonstration «Sakuras»	2007.11.07	Ukraine-Japan Center	68		Free	0
Mizuhiki club	2007.10.31	Ukraine-Japan Center	10		Free	0
Cup of Ukraine on Go	2007.10.27 - 28	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	100		Free	0
Concert-lecture «The soul of a Japanese dance»	2007.10.25	The Embassy of Japan in Ukraine The Japan Foundation Ukraine-Japan Center	100	Onoue Kiku Hiroshi and other 6 people	Free	0
Haiku club	2007.10.24	Ukraine-Japan Center	7		Free	0
Origami class	2007.10.18	Ukraine-Japan Center	23	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
Introducing Japanese culture to the Ukrainian schoolchildren	2007.10.15 - 16	Ukraine-Japan Center	236	Lector: Miyashiro Emiko Venue: Korop town, Chernigov region	Free	0
Cup of Japanese Ambassador on Kendo	2007.10.14	The Embassy of Japan in Ukraine Ukraine-Japan Center	200		Free	0
Cup of «Toyota» on Go	2007.10.12 - 14	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	195		Free	0
Autumn sport event	2007.10.05	Ukraine-Japan Center	94	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
9th Film demonstration «Paprika»	2007.10.03	Ukraine-Japan Center	29		Free	0
The meeting of Ukrainian and Japanese students	2007.09.29	Ukraine-Japan Center	30	Venue: Kiev National Linguistic University	Free	0
Elimination stage of the "Sho no koshien" contest	2007.09.22	Representative office of Ryusaki Morimoto in Ukraine Ukraine-Japan Center	13		Free	0
Master-class on suminagashi	2007.09.22	Representative office of Ryusaki Morimoto in Ukraine Ukraine-Japan Center	21	Lector: Parkhomenko Bogdan	3.96	83.16
Book market	2007.09.22	Ukraine-Japan Center	50	Paid event	1.98	99
1st League of Championship of Ukraine on Go	2007.09.21 - 22	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center	32		Free	0
Haiku club	2007.09.19	Ukraine-Japan Center	6		Free	0
Mizuhiki club	2007.09.19	Ukraine-Japan Center	5		Free	0
8th Film demonstration «Love and Honor»	2007.09.05	Ukraine-Japan Center	34		Free	0
7th Film demonstration «Great Gobbie War»	2007.07.11	Ukraine-Japan Center	15		Free	0
Tanabata holiday	2007.07.07	NPO «Land of Dreams» Ukraine-Japan Center	447	In the context of «Land of Dreams» festival Venue: Spivchoe pole	Free	0
6th Film demonstration «Riding a Metro»	2007.06.27	Ukraine-Japan Center	23		Free	0
Short-term courses of Ikebana "Ukraine-Japan Center" project's anniversary	2007.06.23	Ukraine-Japan Center	18	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikenobo school	Free	0
«Japanese evening» "Ukraine-Japan Center" project's anniversary	2007.06.21	Ukraine-Japan Center	600	Venue: Ukrainian House	Free	0
Haiku club	2007.06.20	Ukraine-Japan Center	6		Free	0
Mizuhiki club	2007.06.13	Ukraine-Japan Center	7		Free	0

Handwritten signatures and scribbles at the bottom of the page.

Informational fair	2007.05.25	Scientific association of students and aspirants of NTUU «KPI» Ukraine-Japan Center	500	Number of UAJC booth users - approx. 100	Free	0
5th Film demonstration «Hula dance»	2007.05.23	Ukraine-Japan Center	31		Free	0
Haiku club	2007.05.16	Ukraine-Japan Center	9		Free	0
Mimshiki club	2007.05.16	Ukraine-Japan Center	10		Free	0
Children's day Kiev gymnasium of Oriental languages №1	2007.05.04	Ukraine-Japan Center	48		Free	0
Film demonstration №4 «Hidden Blade»	2007.04.18	Ukraine-Japan Center	47		Free	0
Ceremony of manga transfer to the center	2007.04.13	The Embassy of Japan in Ukraine KPI Ukraine-Japan Center	70		Free	0
Easter holiday Master-class on painting Easter-eggs	2007.04.11	Ukraine-Japan Center	37	Lector: Stashuk Zoya	Free	0
Haiku club	2007.04.04	Ukraine-Japan Center	15			
Mimshiki club	2007.04.04	Ukraine-Japan Center	13			
Total number of events	64		4495			774.18

▽Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Go	2007.10.03 - 2007.12.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	127		9.9	148.5
Go	2007.02.14 - 2007.05.30 Weekly	Ukraine-Japan Center	96		9.9	99
Tea ceremony	2007.10.03 - 2007.12.19 Weekly	Ukraine-Japan Center	68		124.75	1122.75
Tea ceremony	2007.04.04 - 2007.06.27 Weekly	Ukraine-Japan Center	79		124.75	873.25
Tea ceremony (A)	2007.01.10 - 2007.03.28 Weekly	Ukraine-Japan Center	66		124.75	748.5
Tea ceremony (B)	2007.01.13 - 2007.03.31 Weekly	Ukraine-Japan Center	83		124.75	623.75
Calligraphy	2007.10.06 - 2007.12.15 Weekly	Ukraine-Japan Center	102		59.41	1366.43
Calligraphy	2007.10.06 - 2007.12.15 Weekly	Ukraine-Japan Center	19		59.41	237.64
Calligraphy	2007.04.07 - 2007.06.16 Weekly	Ukraine-Japan Center	75		59.41	1009.97
Calligraphy	2007.02.17 - 2007.06.09 Biweekly	Ukraine-Japan Center	87		59.41	891.15
Ikebana (A)	2007.10.05 - 2008.01.25 Biweekly	Ukraine-Japan Center	66		55.45	720.85
Ikebana (B)	2007.10.13 - 2008.01.26 Biweekly	Ukraine-Japan Center	51		55.45	720.85
Ikebana (A)	2007.02.09 - 2007.05.25 Biweekly	Ukraine-Japan Center	37		55.45	388.15
Ikebana (B)	2007.02.10 - 2007.05.19 Biweekly	Ukraine-Japan Center	33		55.45	388.15
Total number of events	14		989			9338.94

▽UAJC Forums

Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
11th UAJC Forum "The Etiquette of the Warrior"	2008.03.26	Ukraine-Japan Center	63	Lector: Takashi Kuroki, the President of Kyiv Federation of Aikido and Budo	0	0
10th UAJC Forum "Sushi, Way to Perfection"	2008.02.27	Ukraine-Japan Center	85	Lector: Kouhei Shioi, the chief of the residence of the Ambassador of Japan in	0	0
9th UAJC Forum "Tsuba, Arms of the Samurai."	2007.12.19	Ukraine-Japan Center	41	Lector: the Vice-minister of finance of Ukraine, Kosymenko Anatoliy Vasylivovich	0	0
8th UAJC Forum "Powerlifting, Japanese Experience."	2007.11.21	Ukraine-Japan Center	11	Lector: Hisashi Nakamura	0	0
7th UAJC Forum "Japanese Sweet"	2007.10.17	Ukraine-Japan Center	30	Lector: Emiko Miyashiro, the Sumitomo Corporation	0	0
6th UAJC Forum "Ukrainian Industry Through the Eyes of a Japanese"	2007.09.12	Ukraine-Japan Center	31	Lector: Koichi Ueda, the managing director of the NTB Corporation	0	0
5th UAJC Forum "The Ukraine-Japanese Relations Nowadays"	2007.06.06	Ukraine-Japan Center	100	Lector: The Ambassador of Japan, Mr. Mahuchi	0	0
4th UAJC Forum "What is Kendo?"	2007.04.25	Ukraine-Japan Center	73	Lector: Hiroki Godai, the president of the Kyiv Kendo Federation	0	0
Total number of events	8		434		0	0

100 Fee [Signature]

<2006>

VCultural events

Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
3rd Film demonstration «Star public-officers»	2007.03.22	Ukraine-Japan Center	20		Free	0
Hinamatsuri Festival Workshop on Ikebana, tea ceremony, origami, yukata)	2007.03.09	Ukraine-Japan Center	130	No.1 / 13 00-14 30 No.2 / 14 30-16 00	Free	0
2nd Film demonstration «Japan's good old times»	2007.02.22	Ukraine-Japan Center	40		Free	0
Kiev Go Championship (teams)	2007.02.17 -18	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association	98		Free	0
Kiev Go Championship (pairs)	2007.02.11 -12	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association	38		Free	0
Introducing Japanese sense of beauty All-Ukrainian Beauty forum	2007.02.10	Ukraine-Japan Center Ukraine Esthetic Association	60		Free	0
Introducing Japanese culture to the schoolchildren	2007.02.09	Ukraine-Japan Center	20	Venue: «Harmony» gymnasium	Free	0
Kimono and furoshiki demonstration	2007.02.08	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	36	Venue: Kiev International University	Free	0
Culture of Tying	2007.02.08	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	120	Venue: Shevchenko's Kiev National University	Free	0
Ikebana and kimono demonstration	2007.02.07	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	60	Venue: Kiev gymnasium of Oriental languages №1	Free	0
Ikebana and kimono demonstration	2007.02.06	Ukraine-Japan Center Japanese teachers' Association	50	Venue: Kiev National Linguistic University	Free	0
Setsubun Holiday	2007.02.03	Ukraine-Japan Center	15		Free	0
Kiev Go Championship (men)	2007.01.27 -28	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association	80		Free	0
1st Film demonstration «Thousand years love - Story of magnificent Genji»	2007.01.25	Ukraine-Japan Center	35		Free	0
The exhibition of works by calligraphy courses' students	2006.12.23	Ukraine-Japan Center Representative office of Ryuseki Morimoto in Ukraine The Embassy of Japan in Ukraine	30			
Haiku contest (Contest)	2006.11.25	Ukraine-Japan Center	40	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Tea ceremony demonstration and lesson	2006.11.19	Ukraine-Japan Center Moscow NPO «The Way of Tea»	100	Lector: Moscow Urasenko Mr. Nishikawa	Free	0
Haiku contest (Third session)	2006.11.18	Ukraine-Japan Center	50	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Cup of Japanese Ambassador on Go	2006.11.17 - 19	Ukraine-Japan Center Ukrainian Go Association The Embassy of Japan in Ukraine	306		Free	0
Project X Documental films demonstration	2006.11.16	Ukraine-Japan Center	30		Free	0
Haiku contest (Second session)	2006.11.11	Ukraine-Japan Center	50	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Ukrainian political research school's graduates' 1st meeting	2006.11.10	The Embassy of Japan in Ukraine Ukrainian political research school	35		Free	0
Project X Documental films demonstration	2006.11.09	Ukraine-Japan Center	27		Free	0
Haiku contest (First session)	2006.11.03	Ukraine-Japan Center	50	Lector: Shevtsova Galina, Ten Shinichi	Free	0
Tea ceremony demonstration and lesson	2006.10.22	Local Tea ceremony club The Embassy of Japan in Ukraine	100	Lector: Silnyaka Olga	Free	0
Gala Beaumonde party Japanese Corner	2006.10.13	GALA RADIO Ukraine-Japan Center	600		Free	0
Seminar on Ikebana	2006.10.22	The Far East Foundation, Ukraine-Japan Center, The Embassy of Japan in Ukraine	50	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikebano school	Free	0
Ukraine Go Championship 2006	2006.09.12 - 14	Ukrainian Go Association Ukraine-Japan Center			Free	0
Japanese drummers' concert	2006.09.05	Ukraine-Japan Center	1,600	Venue: PCA NTU «KPI»	Free	
Japanese drummers' concert	2006.09.03	Ukraine-Japan Center The Embassy of Japan in Ukraine, The opening of «Month of Japan in Ukraine»	1,300	Venue: National opera	Free	41712
Japanese drummers' concert	2006.09.02	Ukraine-Japan Center The Embassy of Japan in Ukraine, Upholding «Month of Japan in Ukraine»	7,500	Venue: Contractova ploshcha	Free	
National minorities Festival Japanese Corner	2006.06.28	City of Kiev Ukraine-Japan Center	200	Venue: Spivoch pole	Free	0
Ikebana demonstration	2006.05.13	The Far East Foundation The Embassy of Japan in Ukraine	50	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikebano school	Free	0
Ikebana demonstration	2006.05.12	The Far East Foundation The Embassy of Japan in Ukraine	50	Lector: Midori Yamada - Chief of the Moscow branch of the Ikebano school	Free	0
Children's Festival	2006.05.05	Ukraine-Japan Center	45		Free	0
20th anniversary of Chernobyl «Introducing Japanese Culture»	2006.04.29	Ukraine-Japan Center «Chernobyl Krusenclub»	95	Venue: Zhitomir town	Free	0

122


20th anniversary of Chernobyl: Non-Government Organizations' meeting	2006.04.24	«Chernobyl Kyuenechubun» The Embassy of Japan in Ukraine	30		Free	0
Total number of events	37		13210			41712

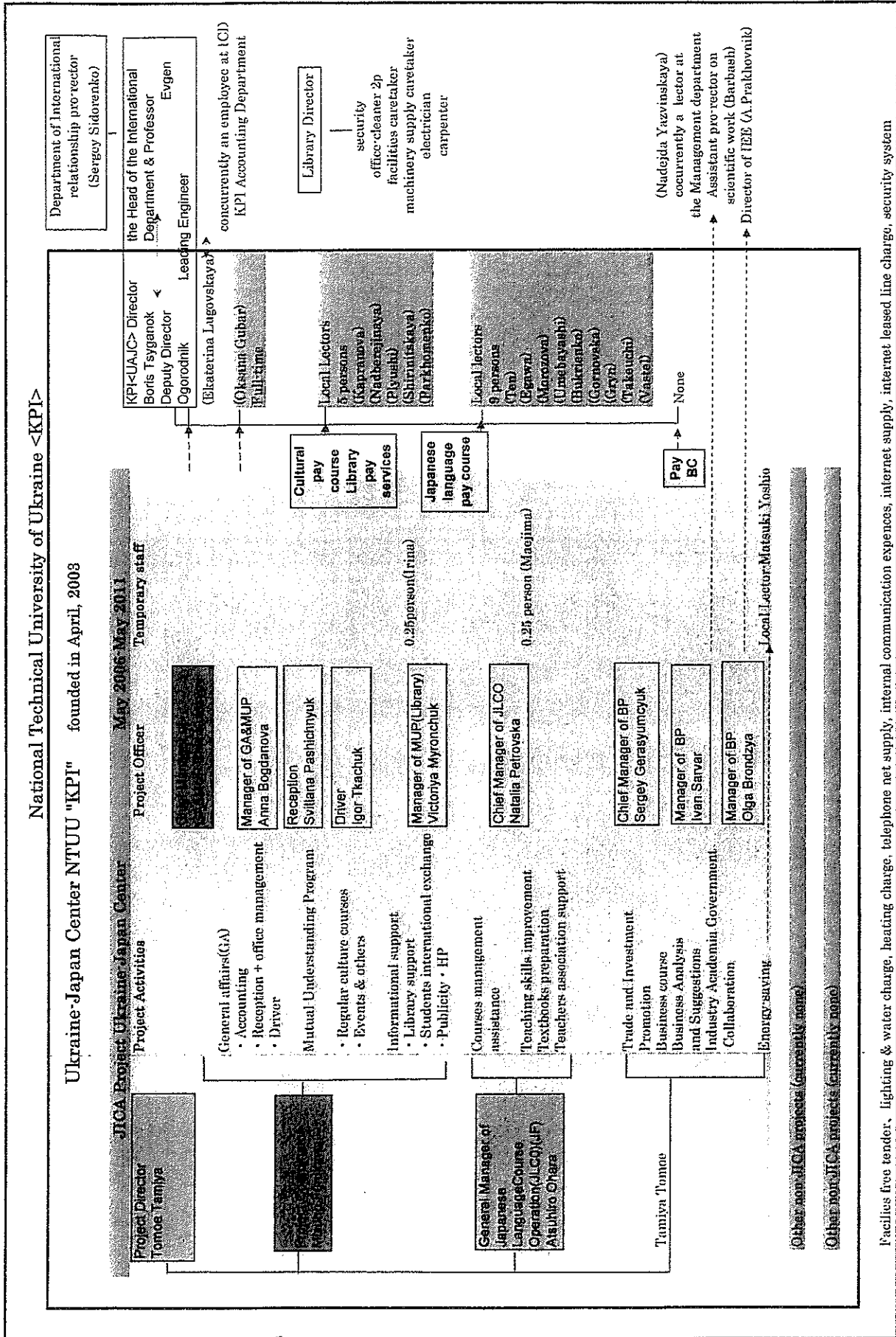
▽Japanese Arts Courses (Paid)

Course title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
Go (A)	2006.09.03 - 2006.12.26 Weekly	Ukraine-Japan Center	84		1.98	13.86
Go (B)	2006.09.07 - 2006.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center	100		1.98	17.82
Tea ceremony (A)	2006.09.04 - 2006.12.20 Weekly	Ukraine-Japan Center	55		124.75	374.25
Tea ceremony (B)	2006.09.7 - 2006.12.23 Weekly	Ukraine-Japan Center	75		124.75	998
Calligraphy (A)	2006.09.7 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	93		19.8	297
Calligraphy (B)	2006.09.14 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	78		19.8	297
Calligraphy (C)	2006.09.14 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	70		19.8	297
Ikebana (A)	2006.09.13 - 2006.12.22 Biweekly	Ukraine-Japan Center	57		41.58	374.22
Ikebana (B)	2006.09.14 - 2006.12.23 Biweekly	Ukraine-Japan Center	38		41.58	291.06
Total number of courses	9		650			2960.21

▽UAJC Forums

Title	Time	Organizer	Number of participants	Remarks	Fee per person (USD)	Total (USD)
3rd UAJC Forum "Cool Japan, Gothic Lolita Style"	2007.03.28	Ukraine-Japan Center	150	Goslohi moda follower	Free	0
2nd UAJC Forum "Japanese Poetry as a National Mentality Mirror"	2007.02.28	Ukraine-Japan Center	40	Lector: Ivan Petrovich Bondarenko, Professor of Kyiv Taras Shevchenko National University Free of charge	Free	0
1st UAJC Forum " Knot Culture"	2007.02.07	Ukraine-Japan Center	100	Lector: Emiko Miyashiro Free of charge	Free	0
Total number of forums	3		290			0

14 Jan →  



Annex 13: List of Collaborative Activities with Organizations in Japan

There are a lot of inquires to UAJC about business, investment promotion, cooperation with universities for scientific relation-matching from both Ukraine and Japan. There are eighteen (18) cases listed below that the Project facilitated and collaborated with different organizations in Japan until November 2008.

<p>(1) Companies and organizations where reflected on business improvement (4 cases), as a result of attendance business program courses and seminars:</p> <p>① For the sake of establishment Science Park, KPI had a hint and exploited the system of Industry-Academia-Government Collaboration in Japan.</p> <p>② Three private companies in paid business course training acquired and utilized the knowledge in work efficiency.(3 cases)</p>
<p>(2) Company that realized business matching with Japanese company (2 cases)</p> <p>① Negotiations between Tokyo University of Agriculture and Technology and Nestle (agreement on a trial usage)</p> <p>② Offer their own weld technology and enginery to Panasonic and Honda company by Ukrainian scientists who participated in business forum</p>
<p>(3) There are some progress and result according to the mediation of the Project and matching function (12 cases)</p> <p>① Attracted exhibition room for Japanese companies (Panasonic & Sony: International conference organized by KPI concerned with IT),</p> <p>② Performed Kiev school — Support collaboration between KPI and world wide universities (including Tokyo University),</p> <p>③ Mediated collaboration for application of joint research grant between Tokyo University and KPI,</p> <p>④ Mediated an application for KPI in Grassroots and Human Security Grant Aid (illumination for Concert Hall),</p> <p>⑤ Mediated an Activity for application of Grant of Mitsui Co., Ltd. Environment Fond,</p> <p>⑥ Collaboration between a city of Ukraine and JETRO (Poland office) and they organized seminar on the investment from Japanese companies in east Europe to Ukraine,</p> <p>⑦ Offer by professors of Tokyo University of Agriculture and Technology invited by Industry-Academia-Government Collaboration program, and invented technology to Ukrainian private enterprises to obtain trial informal consent,</p> <p>⑧ Lecturers invited by energy saving seminar of other organization (NEDO), and the Project helped to organize twice International seminar concerned with new technology of climate change and Warming Prevention Seminar,</p> <p>⑨ Mediated writer who wrote a report concerned with Japanese agriculture by the request of Japanese companies located in Ukraine,</p> <p>⑩ Information about Ukrainian beauty industry to Japanese companies in Moscow and introduced the Ukrainian beauty Association that participated in business courses organized before,</p> <p>⑪ Start discussion for joint research program between Tokyo University of Agriculture and Technology and Academy of Technological Science of Ukraine, and</p> <p>⑫ Dispatch Japanese trainees from Tokyo University of Agriculture and Technology to Ukraine</p>

